

赤穂市 子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査

【結果報告書】

平成26年3月

赤穂市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	2
3 報告書の見方	2
II. 調査結果	3
お住まいの地域・ご家族の状況等について	4
子どもの育ちをめぐる環境について	8
保護者の就労状況について	16
平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について(就学前児童)	24
地域の子育て支援事業の利用状況について(就学前児童)	31
土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について(就学前児童)	36
病気の際の対応について(平日の教育・保育を利用する方のみ)	40
不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	46
小学校就学後の放課後の過ごし方について	53
育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	61
赤穂市での子育てや子育て支援サービスについて	72
子どもの安全の確保について(小学生児童)	78

I. 調査の概要

1 調査の目的

赤穂市では、子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）に基づく新たな子ども・子育て支援の制度の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、5年間を一期とする子ども・子育て支援事業計画を作成し、計画的に給付・事業を実施する予定です。

本調査は、この計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を市が算出するため、住民の皆さんの教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握する目的で実施しました。

2 調査概要

- 調査地域：赤穂市全域
- 調査対象者：市内在住の「就学前児童」をお持ちの世帯・保護者（就学前児童調査）
市内在住の「小学生」をお持ちの世帯・保護者（小学生児童調査）
- 抽出方法：就学前児童調査は、幼稚園、保育所に通う児童 976 人、未就園児 650 人
小学生児童調査は小学生に通う（5年生まで）児童 1,563 人
- 調査期間：平成 26 年 1 月 17 日（金）～平成 26 年 1 月 31 日（金）
- 調査方法：就学前児童調査は幼稚園、保育所を通じて配布・回収
（未就園児については郵送配布・回収）
小学生児童調査は小学校を通じて配布・回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
就学前児童	1,626	1,199	73.7%
小学生児童	1,563	1,468	93.9%

3 報告書の見方

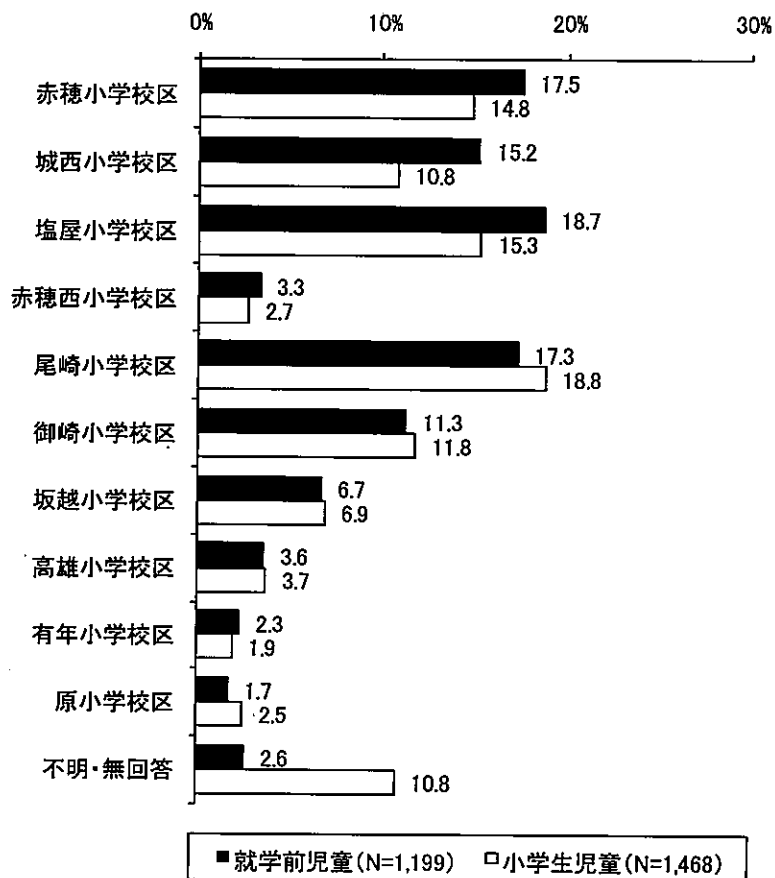
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

Ⅱ. 調査結果

お住まいの地域・ご家族の状況等について

(1) 小学校区〈単数回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問1〕

小学校区についてみると、就学前児童では「塩屋小学校区」が18.7%、小学生児童では「尾崎小学校区」が18.8%と、最も高くなっています。



(2) 対象の子どもの生年月〈数量回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問2〕

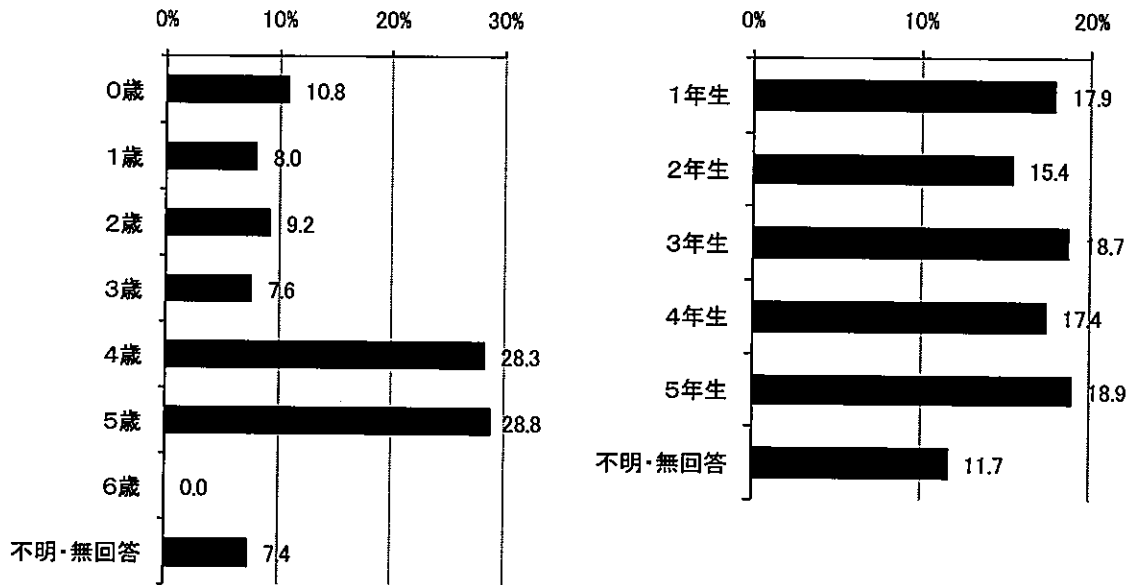
平成 25 年 4 月 1 日現在

年齢についてみると、就学前児童では「5歳」が28.8%、「4歳」が28.3%、「0歳」が10.8%となっています。

小学生児童では「5年生」が18.9%、「3年生」が18.7%、「1年生」が17.9%となっています。

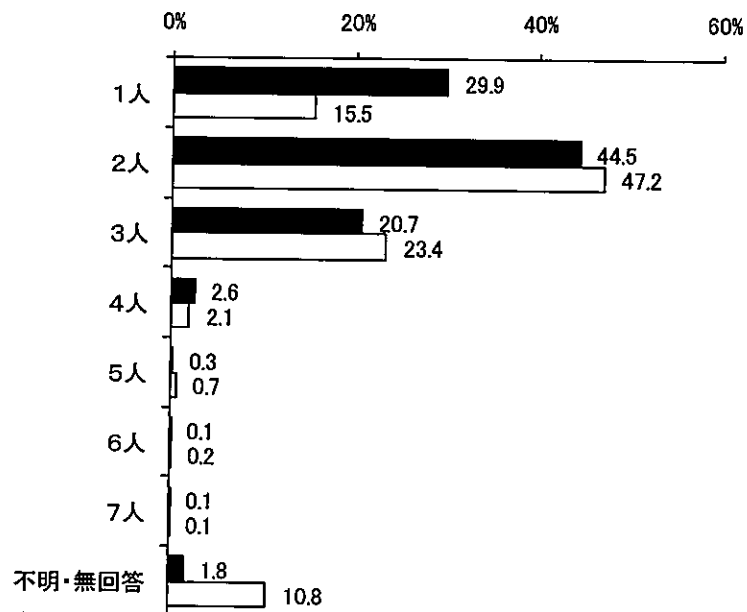
就学前児童(N=1,199)

小学生児童(N=1,468)



(3) 子どもの人数〈数量回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問3〕

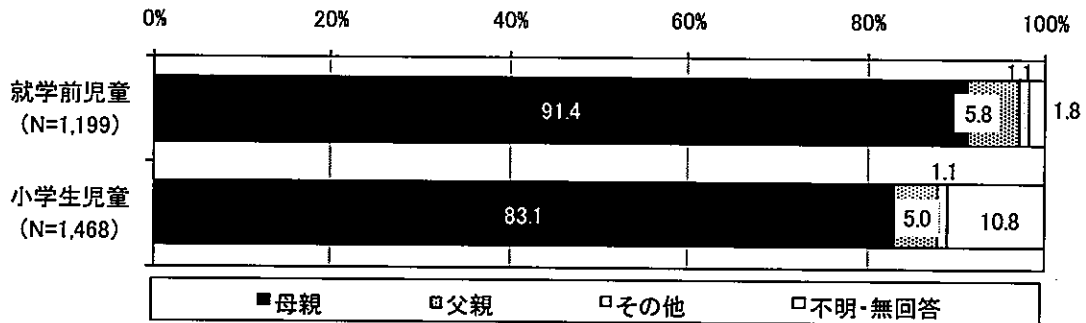
子どもの人数についてみると、「2人」が就学前児童では44.5%、小学生児童では47.2%と最も高くなっています。次いで、就学前児童では「1人」が29.9%、小学生児童では「3人」が23.4%となっています。



■ 就学前児童(N=1,199) □ 小学生児童(N=1,468)

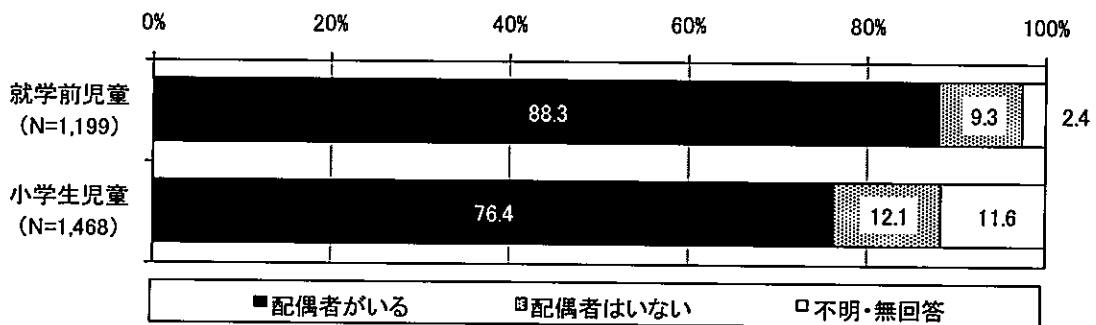
(4) 調査票の回答者〈単数回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問4〕

回答者についてみると、「母親」が就学前児童で91.4%、小学生児童で83.1%と最も高く、大部分を占めています。



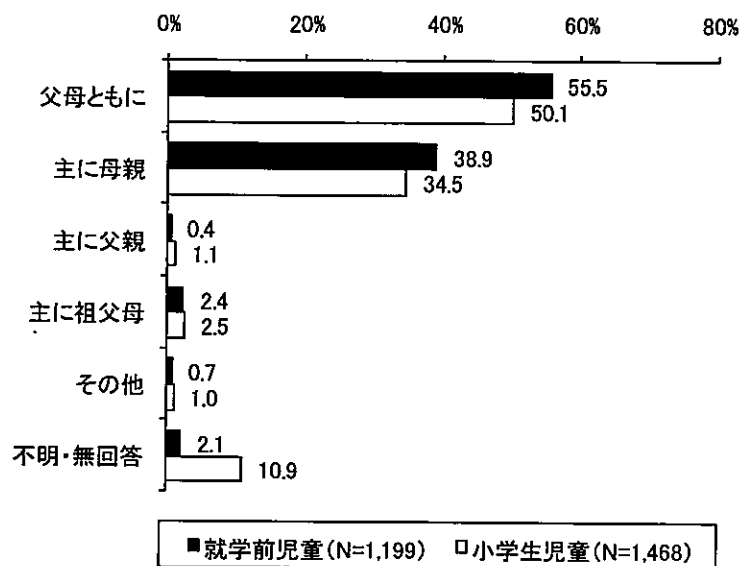
(5) 調査票の回答者の配偶関係の有無〈単数回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問5〕

回答者の配偶関係の有無についてみると、「配偶者がいる」が就学前児童で88.3%、小学生児童で76.4%となっています。



(6) 子育てを主に行っている方〈単数回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問6〕

子育てを主に行っている方についてみると、「父母ともに」が就学前児童で55.5%、小学生児童で50.1%と最も高く、次いで、「主に母親」が就学前児童で38.9%、小学生児童で34.5%となっています。



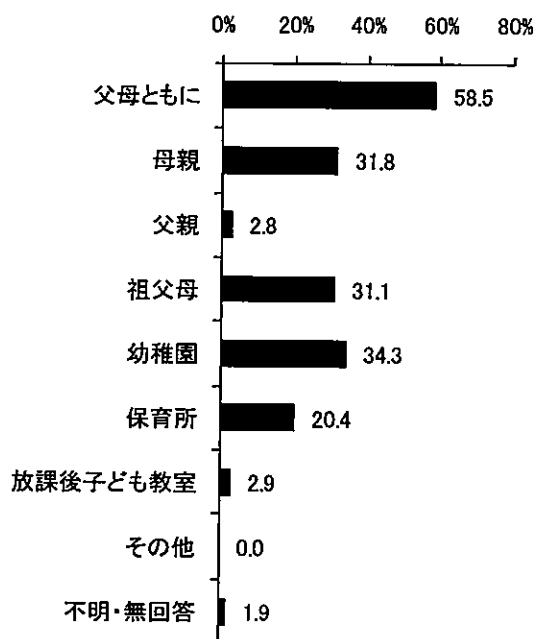
子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 子育てに日常的に関わっている方(施設)〈複数回答〉

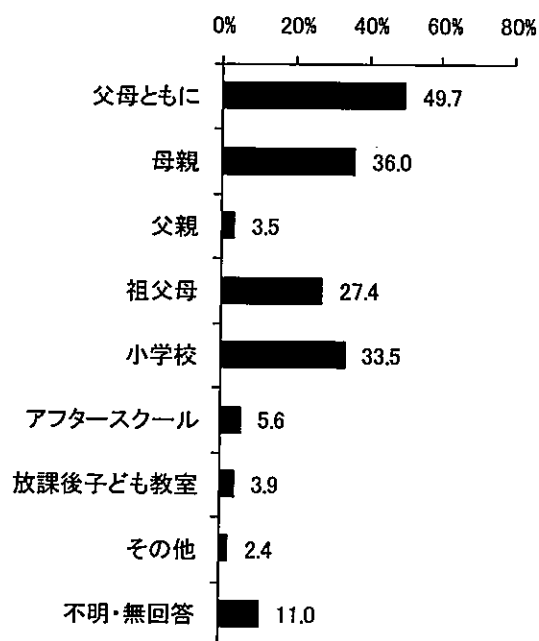
〔就学前児童調査、小学生児童調査…問7〕

子育てに日常的に関わっている方(施設)についてみると、「父母ともに」が就学前児童で58.5%、小学生児童で49.7%と最も高くなっています。次いで、就学前児童は「幼稚園」で34.3%、小学生児童は「母親」で36.0%となっています。

就学前児童(N=1199)



小学生児童(N=1,468)



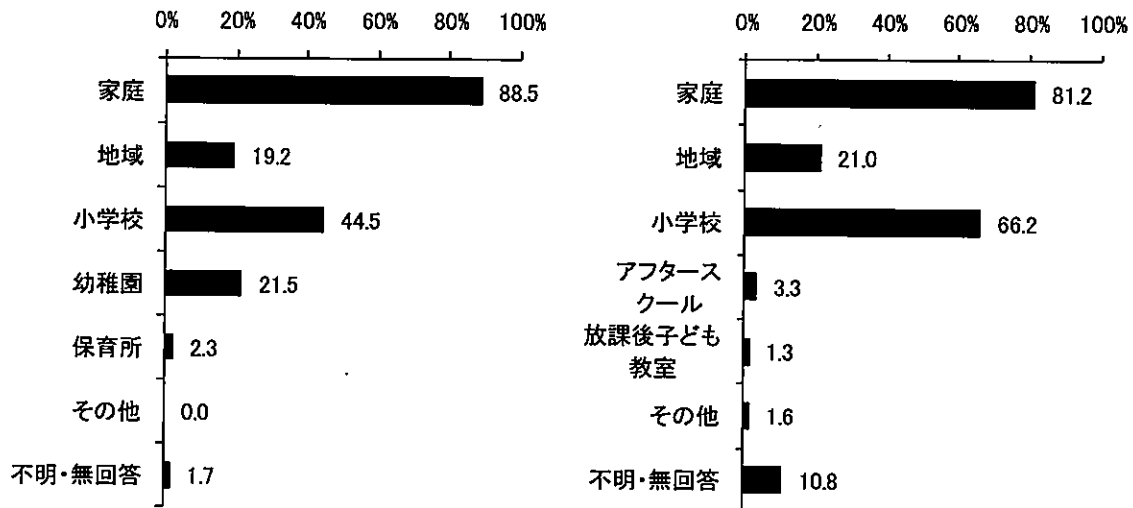
(2) 子育てや教育に影響すると思われる環境〈複数回答〉

〔就学前児童調査、小学生児童調査…問8〕

子育てや教育に影響すると思われる環境についてみると、「家庭」が就学前児童で88.5%、小学生児童で81.2%と最も高くなっています。次いで、「小学校」が就学前児童で44.5%、小学生児童で66.2%となっています。

就学前児童(N=1,199)

小学生児童(N=1,468)

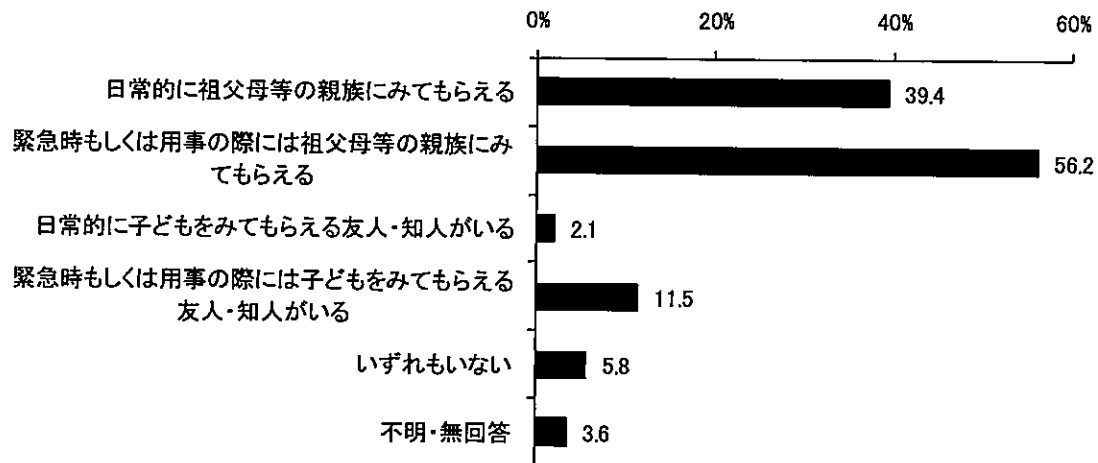


(3) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問9〕

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無についてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が56.2%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が39.4%となっています。

就学前児童(N=1,199)

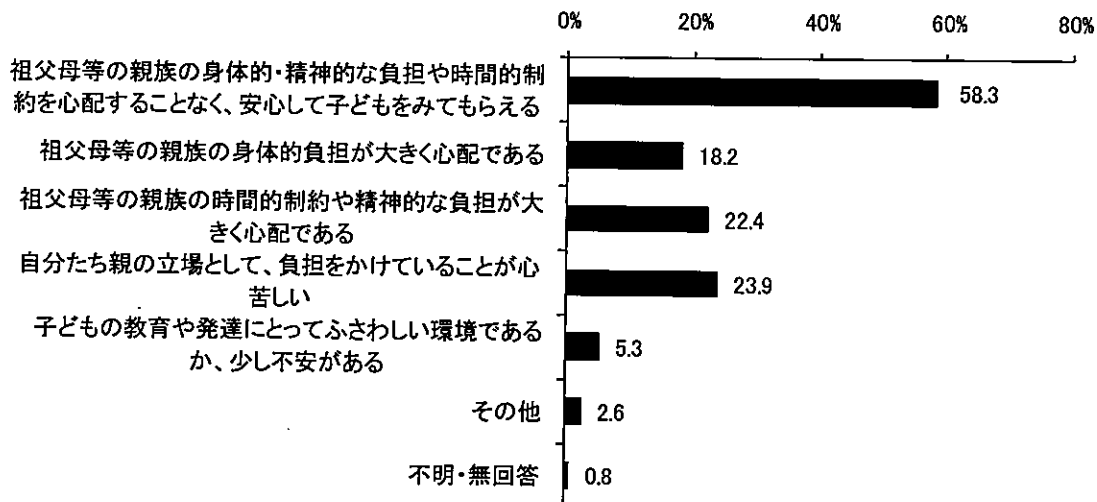


(3)で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」を選んだ方

(3) - 1 祖父母等の親族にみてもらっている状況〈複数回答〉〔就学前児童調査…問9-1〕

祖父母等の親族にみてもらっている状況についてみると、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が58.3%と最も高く、次いで、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が23.9%となっています。

就学前児童(N=1,054)



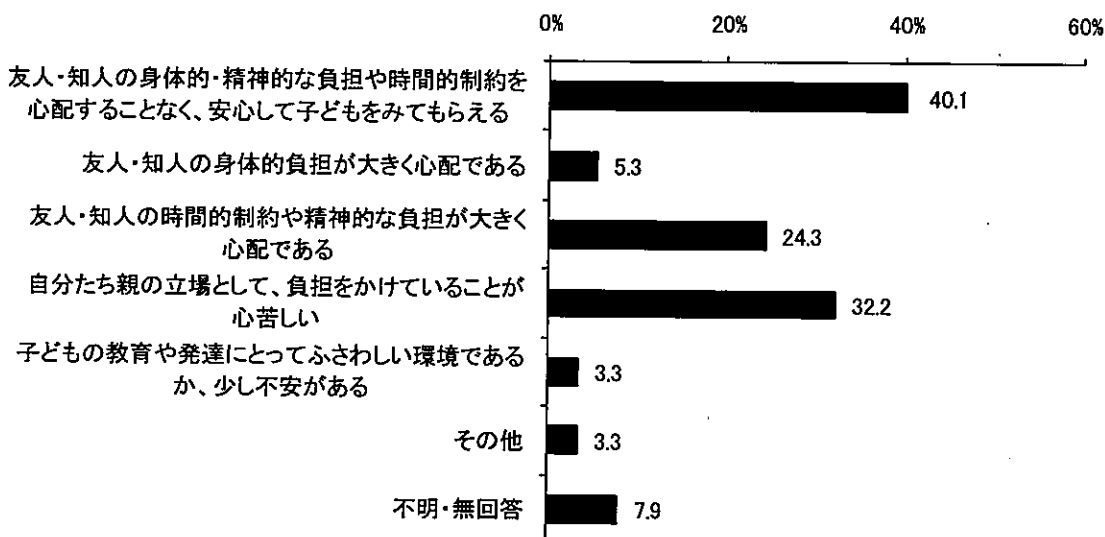
(3)で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」を選んだ方

(3) - 2 友人・知人にみてもらっている状況〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問9-2〕

友人・知人にみてもらっている状況についてみると、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が40.1%と最も高く、次いで、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が32.2%となっています。

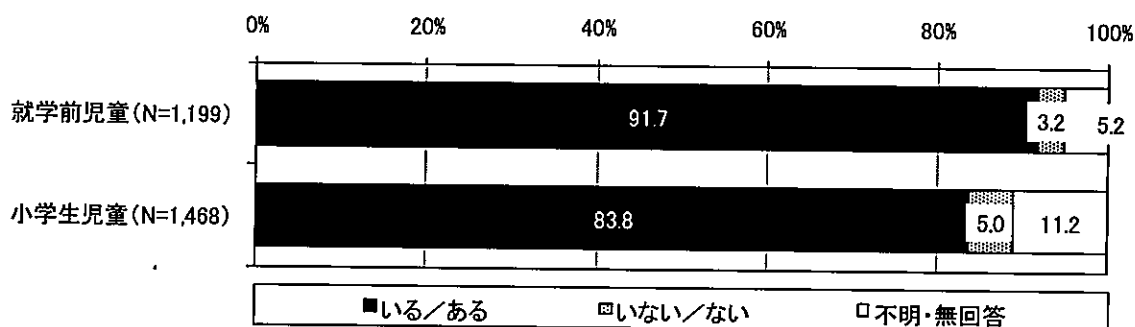
就学前児童(N=152)



(4) 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問10、小学生児童調査…問9〕

子育てをする上での相談相手(場所)の有無についてみると、「いる/ある」が就学前児童で91.7%、小学生児童で83.8%となっています。

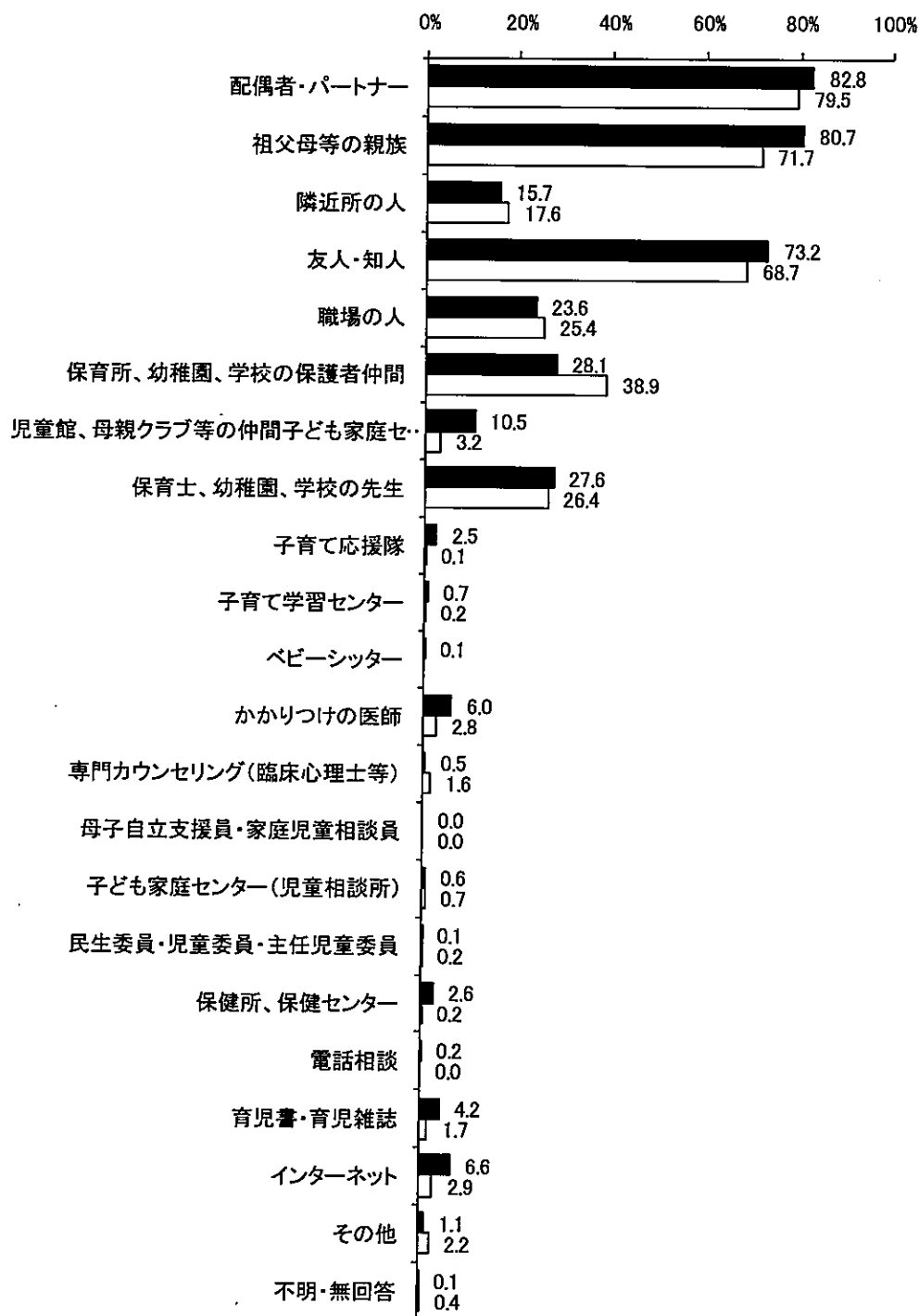


(4)で「ある」を選んだ方

(4) - 1 子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる人(場所)〈複数回答〉

[就学前児童調査…問10-1、小学生児童調査…問9-1]

子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる人(場所)についてみると、「配偶者・パートナー」が就学前児童で82.8%、小学生児童で79.5%と最も高くなっています。次いで「祖父母等の親族」が就学前児童で80.7%、小学生児童で71.7%となっています。

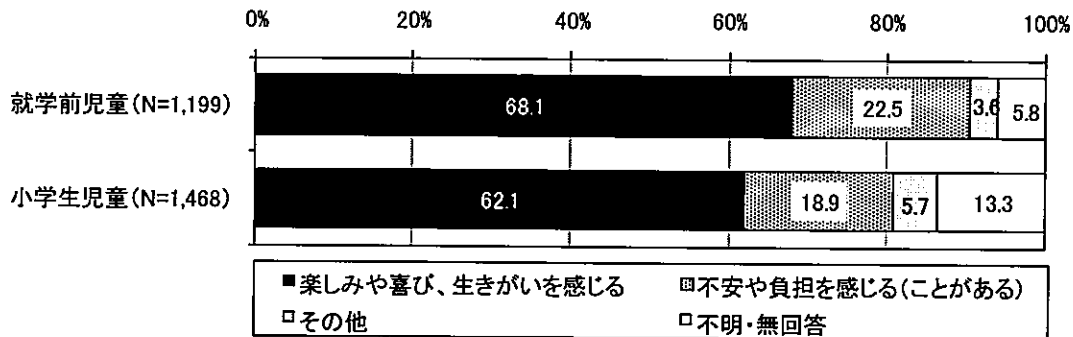


■就学前児童(N=1,099) □小学生児童(N=1,230)

(5) 子育てについて全体的にどのように感じるか〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 11、小学生児童調査…問 10〕

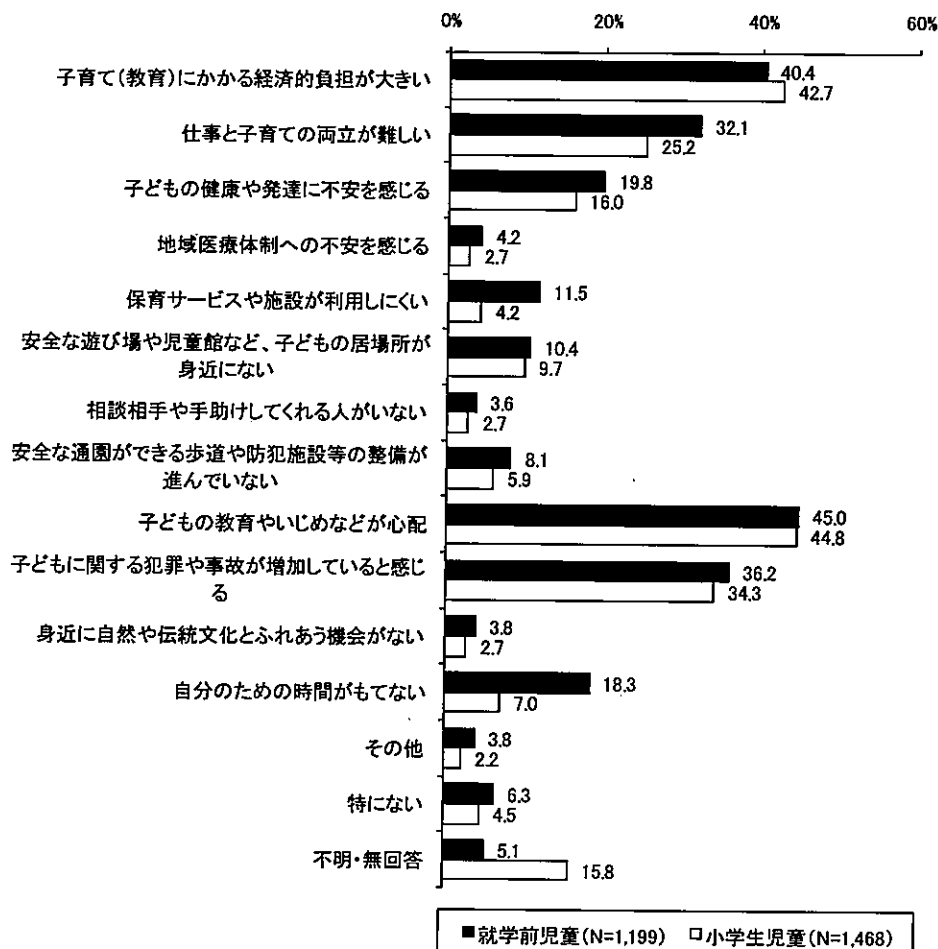
子育てについて全体的にどのように感じるかについてみると、「楽しみや喜び、生きがいを感じる」が就学前児童で 68.1%、小学生児童で 62.1%と最も高くなっています。次いで「不安や負担を感じる(ことがある)」が就学前児童で 22.5%、小学生児童で 18.9%となっています。



(6) 子育てについてどのような不安や負担を感じるか〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 11-1、小学生児童調査…問 10-1〕

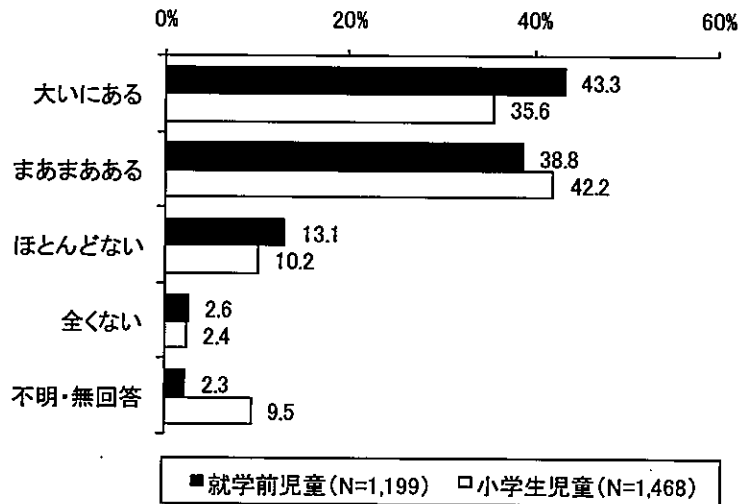
子育てについてどのような不安や負担を感じるかについては、「子どもの教育やいじめなどが心配」が就学前児童で 45.0%、小学生児童で 44.8%となっています。



(7) 周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感はあるか〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 12、小学生児童調査…問 11〕

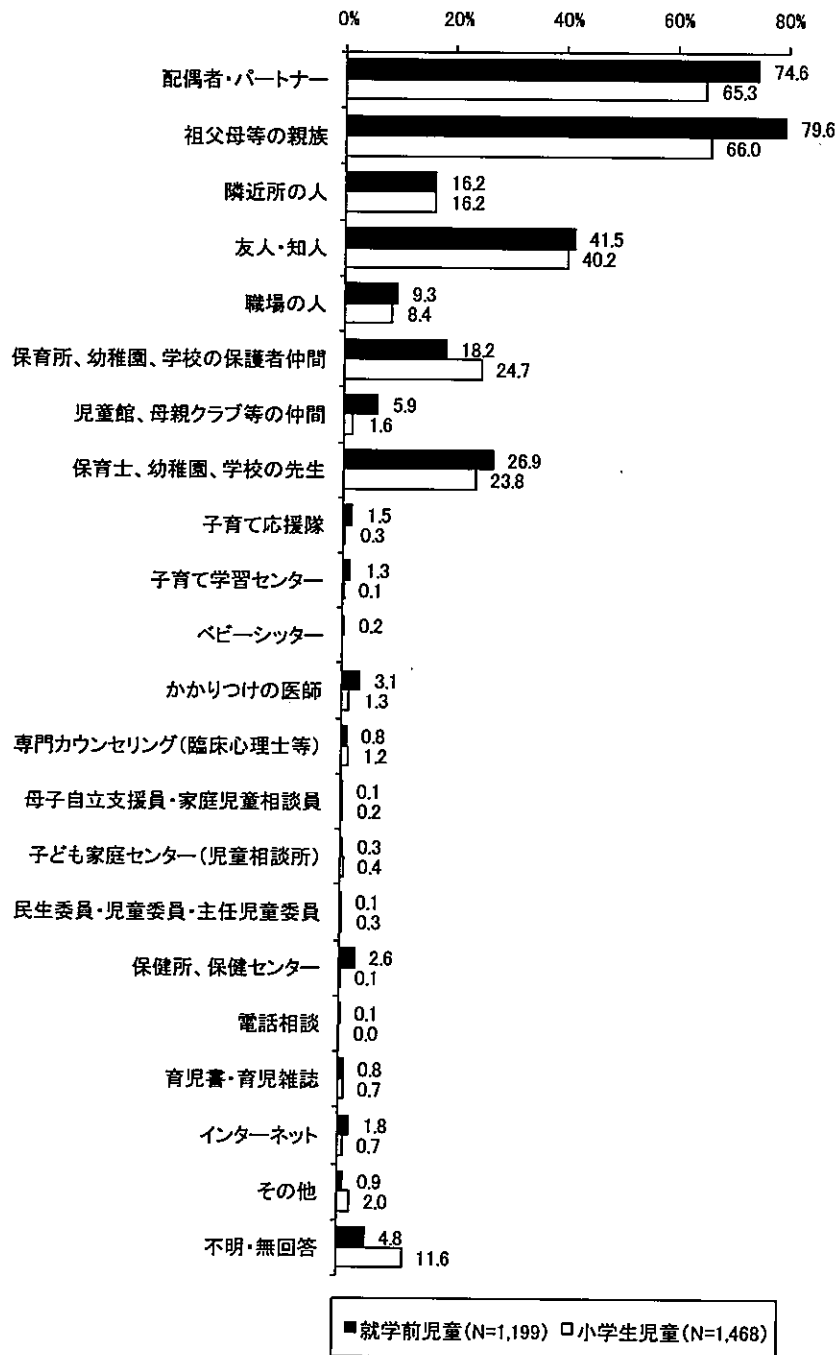
周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感はあるかについてみると、就学前児童では「大いにある」が43.3%、小学生児童では「まあまあある」が42.2%と最も高くなっています。次いで就学前児童では「まあまあある」が38.8%、小学生児童では「大いにある」が35.6%となっています。



(8) 支えてもらっていると感じる場合は、特に誰から支えられていると感じるか。また感じない場合は、特に誰から支えてほしいと感じるか〈複数回答〉

[就学前児童調査…問 13、小学生児童調査…問 12]

子育てを特に誰から支えられていると感じるかについてみると、「祖父母等の親族」が就学前児童で79.6%、小学生児童で66.0%と最も高く、次いで「配偶者・パートナー」が就学前児童で74.6%、小学生児童で65.3%となっています。

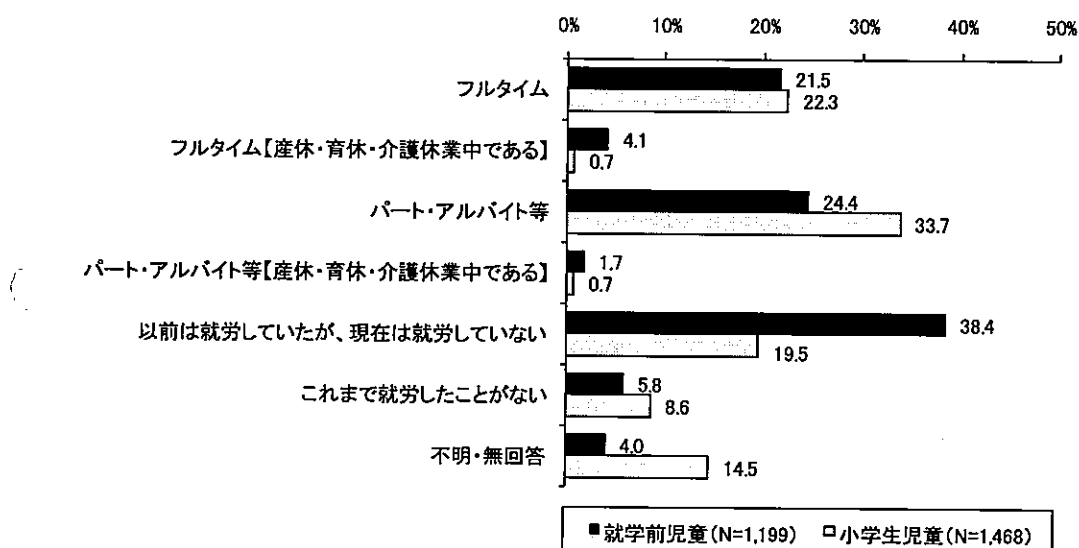


保護者の就労状況について

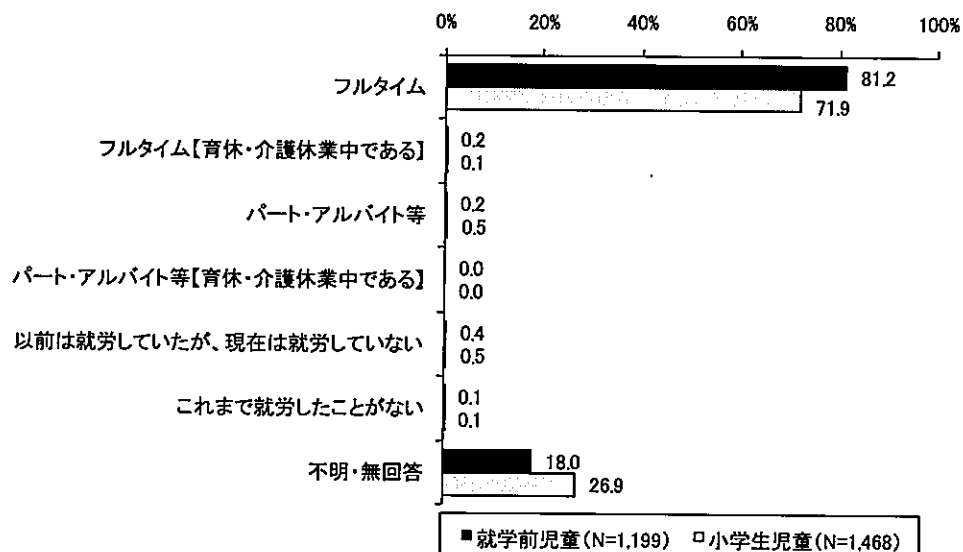
(1) 保護者の就労状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 15、小学生児童調査…問 18〕

保護者の就労状況について、母親についてみると、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 38.4%、小学生児童では「パート・アルバイト等」が 33.7%と最も高くなっています。父親についてみると、「フルタイム」が就学前児童で 81.2%、小学生児童で 71.9%と最も高くなっています。

【母親】



【父親】



* 「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労
「パート・アルバイト等」：フルタイム以外の就労

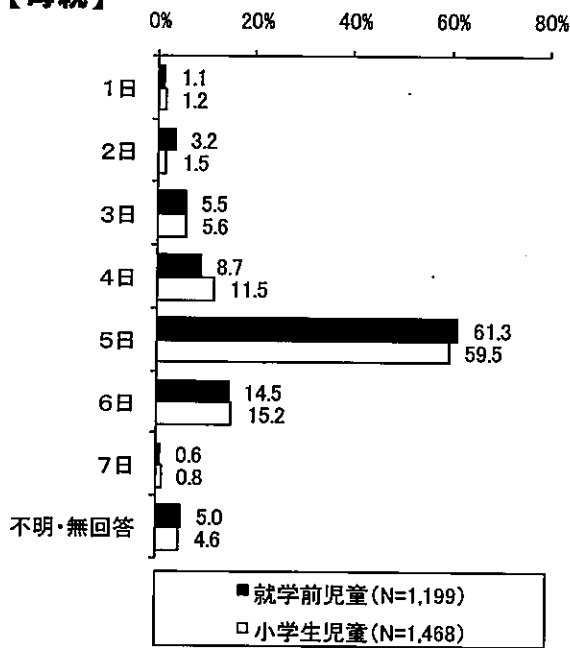
●就労している保護者の状況

就労している保護者の、1週当たりの数就労日数についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「5日」が最も高く、それぞれ61.3%、59.5%となっています。父親でも就学前児童、小学生児童ともに「5日」が最も高く、それぞれ50.7%、49.1%となっています。

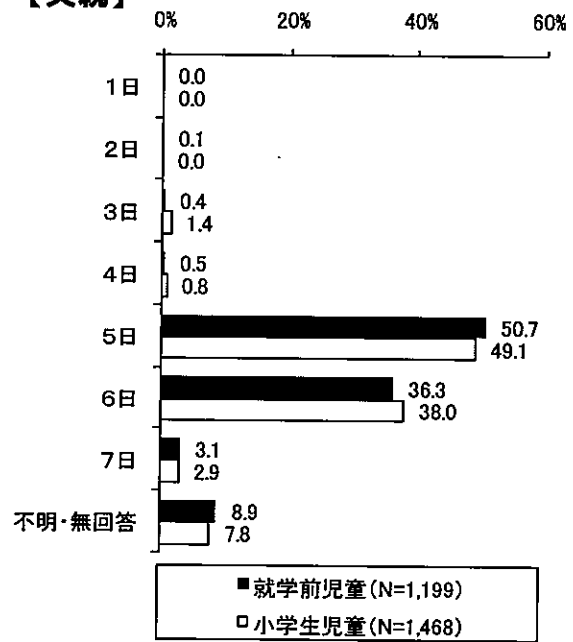
1日当たりの就労時間についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「8時間」が最も高く、それぞれ32.4%、26.0%となっています。父親では就学前児童、小学生児童ともに「9時間以上」が最も高く、それぞれ47.0%、48.4%となっています。

①1週当たりの就労日数〈数量回答〉

【母親】

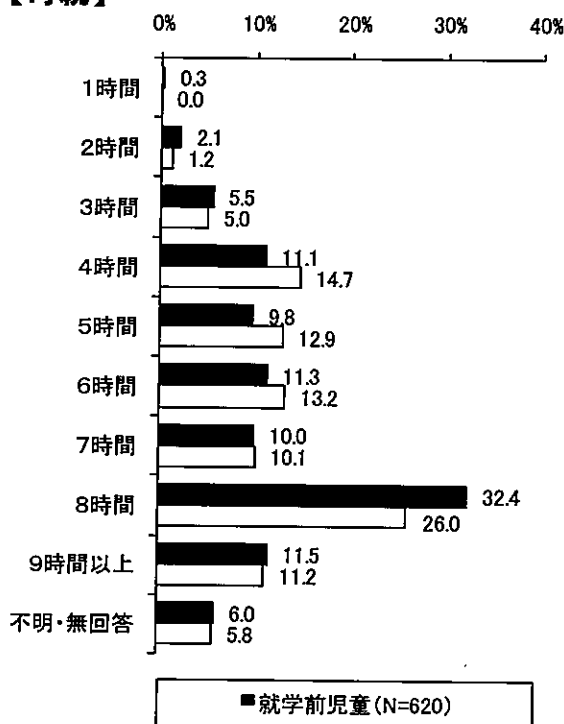


【父親】

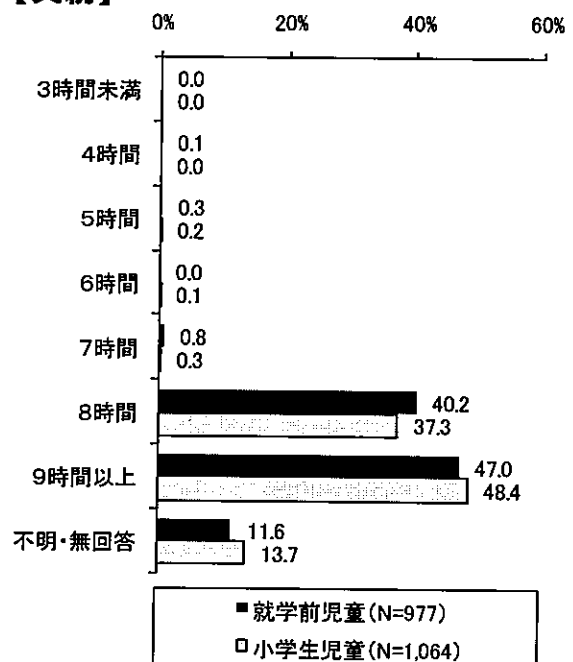


②1日当たりの就労時間〈数量回答〉

【母親】



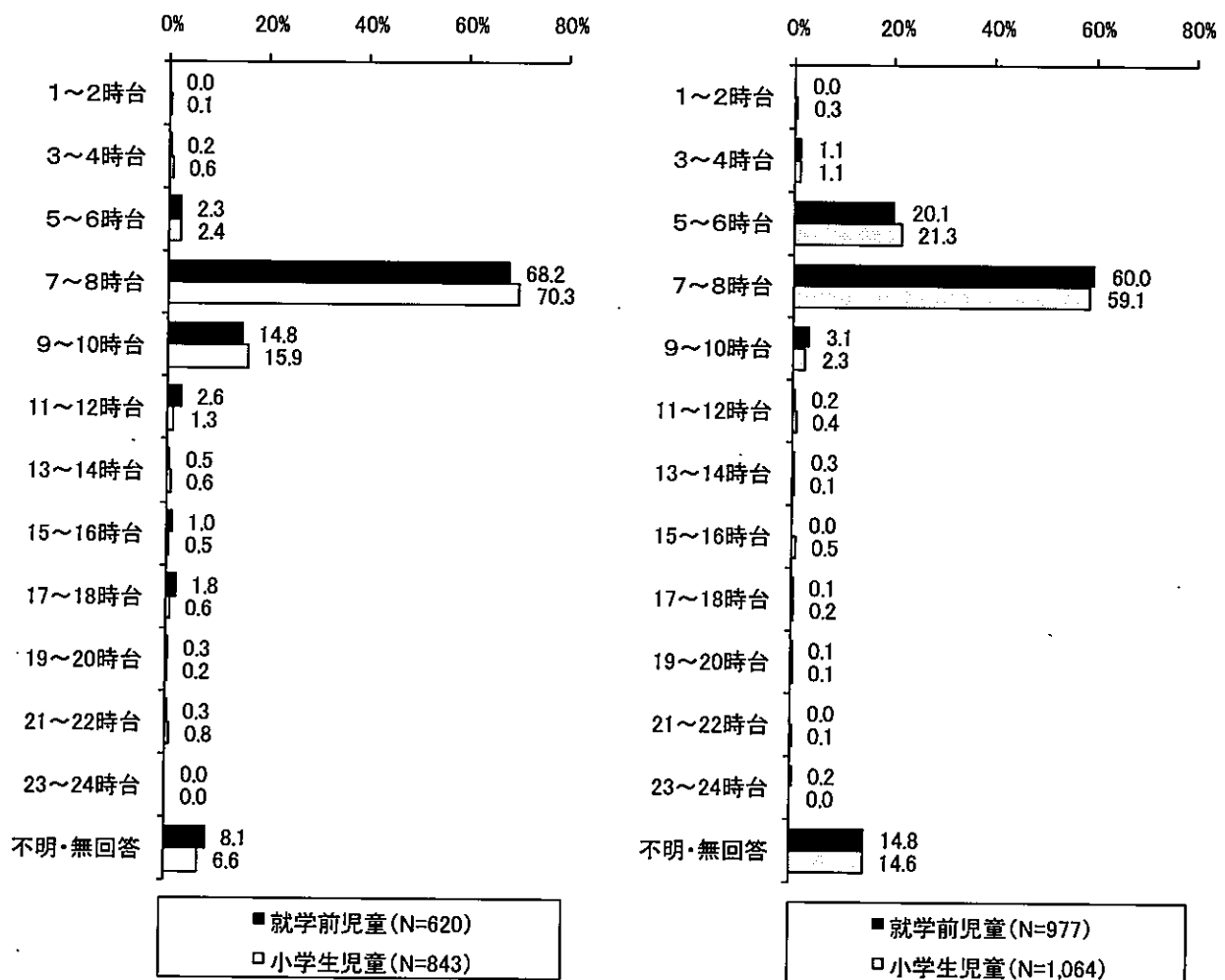
【父親】



就労している保護者の、出発時間についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「7～8時台」が最も高く、それぞれ68.2%、70.3%となっています。父親でも「7～8時台」が最も高く、それぞれ60.0%、59.1%となっています。

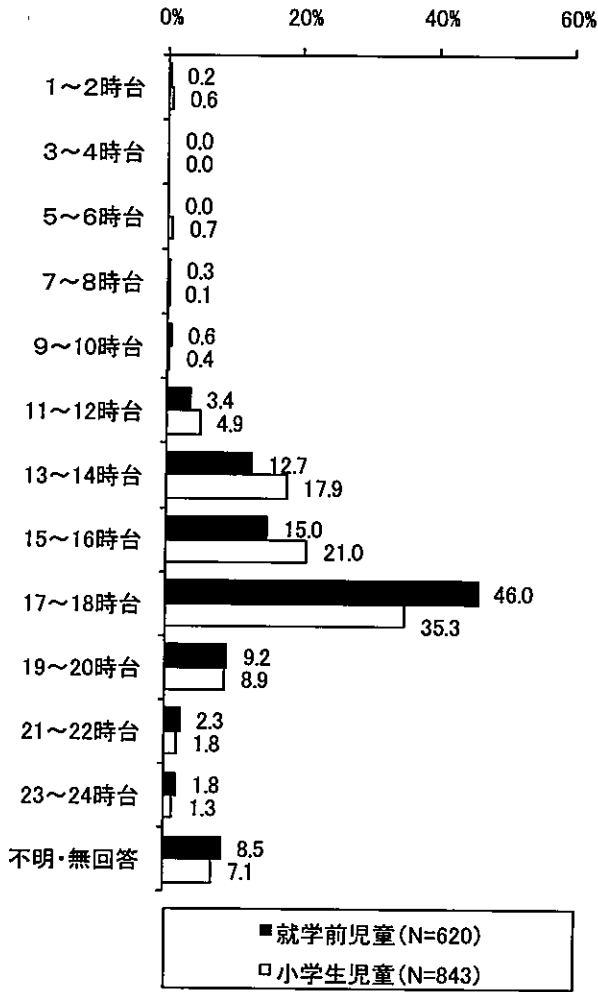
帰宅時間についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「17～18時台」が最も高く、それぞれ46.0%、35.3%となっています。父親では就学前児童では「19～20時台」が33.2%、小学生児童では「17～18時台」が32.2%と最も高くなっています。

③出発時間〈数量回答〉

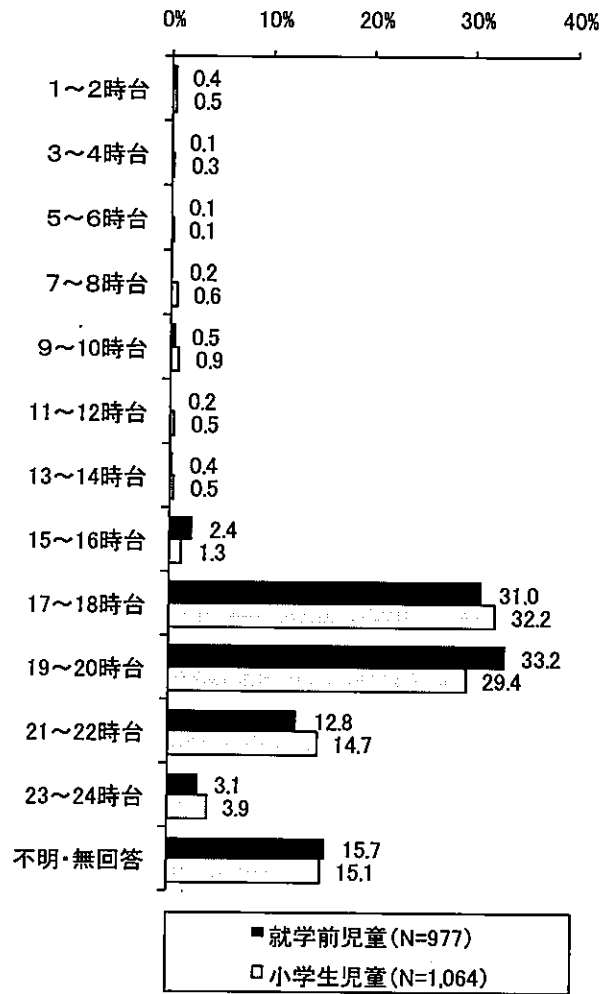


④帰宅時間〈数量回答〉

【母親】



【父親】



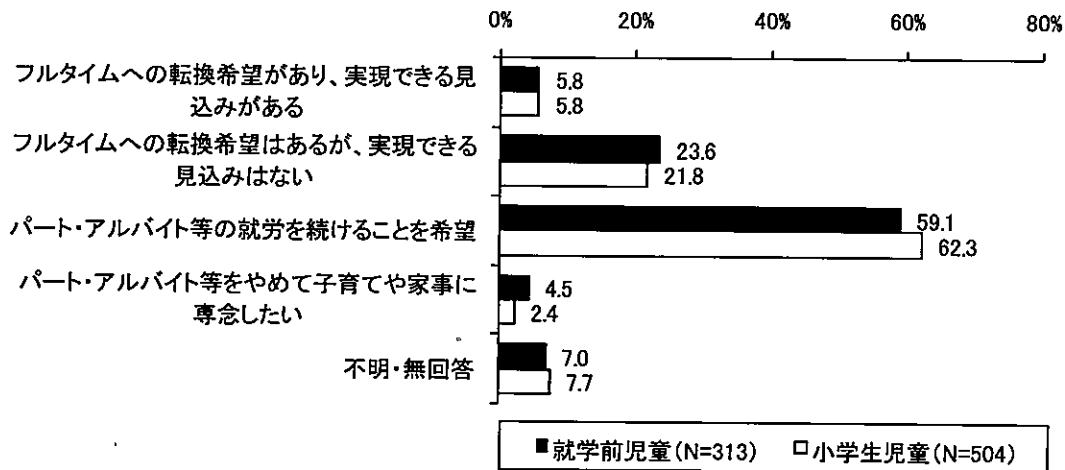
(1)で「パート・アルバイト等」または「パート・アルバイト等で現在、産休・育休・介護休業中である」を選んだ方

(2)パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 15-1、小学生児童調査…問 18-1〕

パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望についてみると、母親では「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が就学前児童で59.1%、小学生児童で62.3%と最も高くなっています。

【母親】



【父親】

【父親】 フルタイムへの転換希望	就学前児童 (N=2)		小学生児童 (N=8)	
	件数	%	件数	%
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	0	0.0	2	25.0
フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	1	50.0	1	12.5
パート・アルバイト等の就労を続けることを希望	0	0.0	2	25.0
パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい	1	50.0	1	12.5
不明・無回答	0	0.0	2	25.0

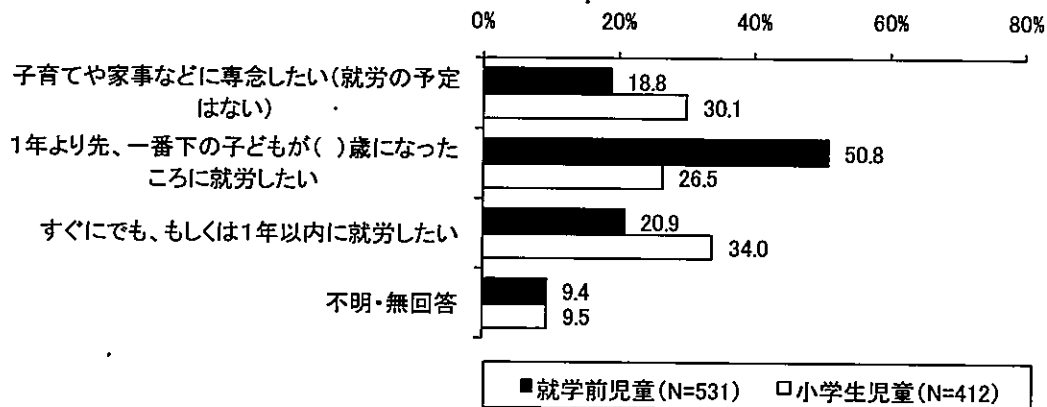
(1)で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」を選んだ方
(3) 現在、就労していない方の就労希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 15-2、小学生児童調査…問 18-2〕

現在就労していない方の就労希望についてみると、就学前児童では「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」が50.8%、小学生児童では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が34.0%と最も高くなっています。

また、一番下の子どもが何歳になれば就労したいかでは、就学前児童では「5歳」が22.2%、小学生児童では「7歳」が15.6%と最も高くなっています。

【母親】



【父親】

【父親】 就労希望	就学前児童 (N=6)		小学生児童 (N=9)	
	件数	%	件数	%
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	0	0.0	3	33.3
1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい	0	0.0	0	0.0
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	3	50.0	3	33.3
不明・無回答	3	50.0	3	33.3

①一番下の子どもが何歳になれば就労したいか〈数量回答〉

《「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」を選んだ方》

【母親】

【母親】 就労したい時の 末子の年齢	就学前児童 (N=270)		小学生児童 (N=109)	
	件数	%	件数	%
1歳	8	3.0	1	0.9
2歳	8	3.0	1	0.9
3歳	32	11.9	6	5.5
4歳	41	15.2	10	9.2
5歳	60	22.2	13	11.9
6歳	30	11.1	12	11.0
7歳	56	20.7	17	15.6
8歳	16	5.9	5	4.6
9歳	2	0.7	4	3.7
10歳	9	3.3	12	11.0
11歳	0	0.0	3	2.8
12歳	1	0.4	10	9.2
13歳以上	1	0.4	9	8.3
不明・無回答	6	2.2	6	5.5

【父親】

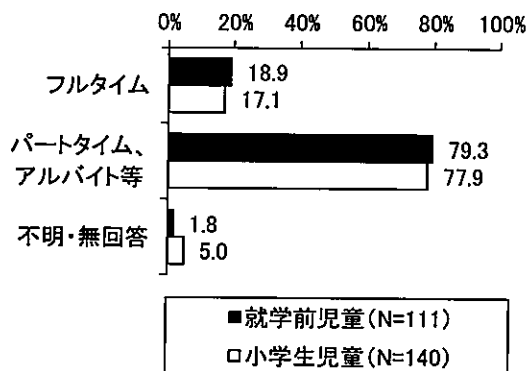
※該当なし

『すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい』方の希望する就労形態については、母親では「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」が就学前児童で79.3%、小学生児童で77.9%と最も高くなっています。

また、パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）を選んだ方の希望する1週あたりの就労日数については、母親では「5日」が就学前児童で42.0%、小学生児童では46.8%と最も高くなっています。希望する1日あたりの就労時間では、母親では「5時間」が就学前児童で37.5%、小学生児童では40.4%と最も高くなっています。

②希望する就労形態〈単数回答〉《「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を選んだ方》

【母親】



【父親】

【父親】 就労希望	就学前児童 (N=3)		小学生児童 (N=3)	
	件数	%	件数	%
フルタイム	2	66.7	2	66.7
パートタイム、アルバイト等	1	33.3	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	1	33.3

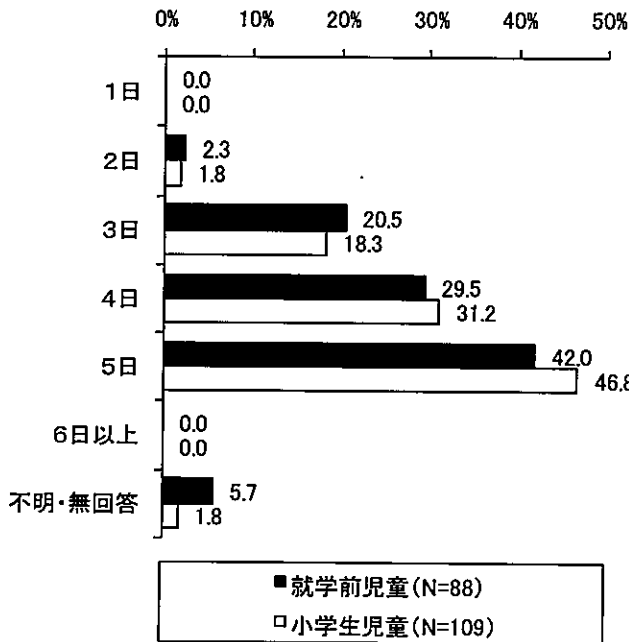
③パートタイム、アルバイト等で希望する就労形態〈数量回答〉

《②で「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」を選んだ方》

■希望する1週当たりの就労日数

【母親】

【父親】

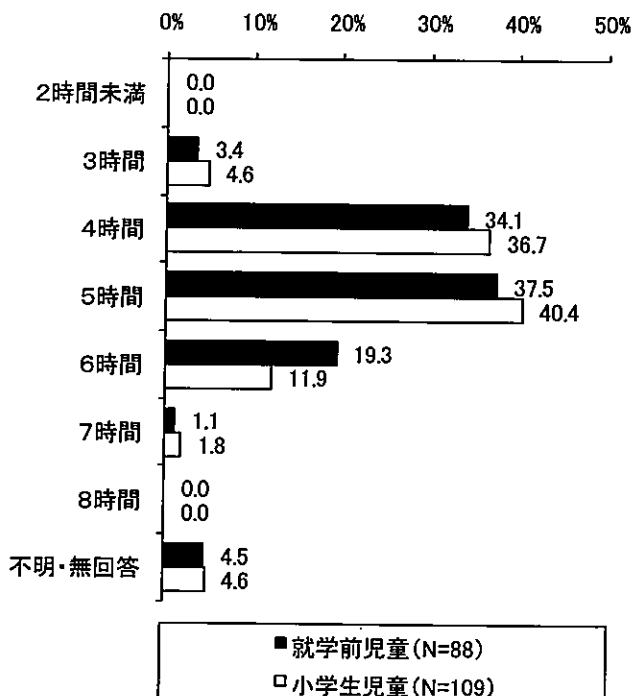


【父親】 就労希望日数	就学前児童 (N=1)	
	件数	%
1日	0	0.0
2日	0	0.0
3日	0	0.0
4日	0	0.0
5日	1	100.0
6日	0	0.0
7日	0	0.0
不明・無回答	0	0.0

■希望する1日当たりの就労時間

【母親】

【父親】



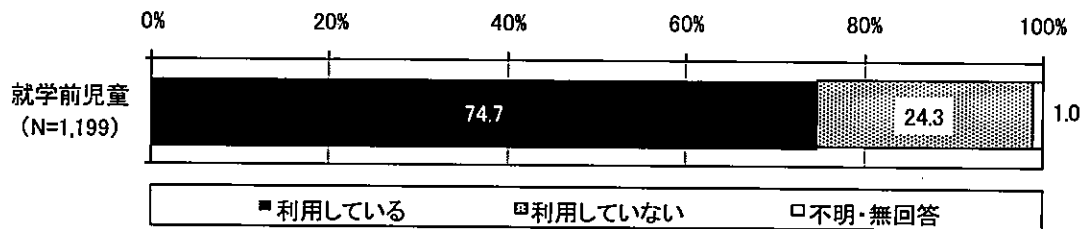
【父親】 就労希望日数	就学前児童 (N=1)	
	件数	%
1時間	0	0.0
2時間	0	0.0
3時間	0	0.0
4時間	0	0.0
5時間	0	0.0
6時間	1	100.0
7時間	0	0.0
8時間	0	0.0
不明・無回	0	0.0

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）

（１）現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 16〕

現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無についてみると、「利用している」が74.7%となっています。



*ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指す。
具体的には、幼稚園や保育所など、(1) - 1 に示す事業が含まれる。

年齢別 × 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無

年齢別にみると、〔3歳〕以上で「利用している」割合が8割を超えています。また、〔2歳〕以上で「利用している」割合が「利用していない」割合を上回っており、年齢が上がるにつれて高くなっています。

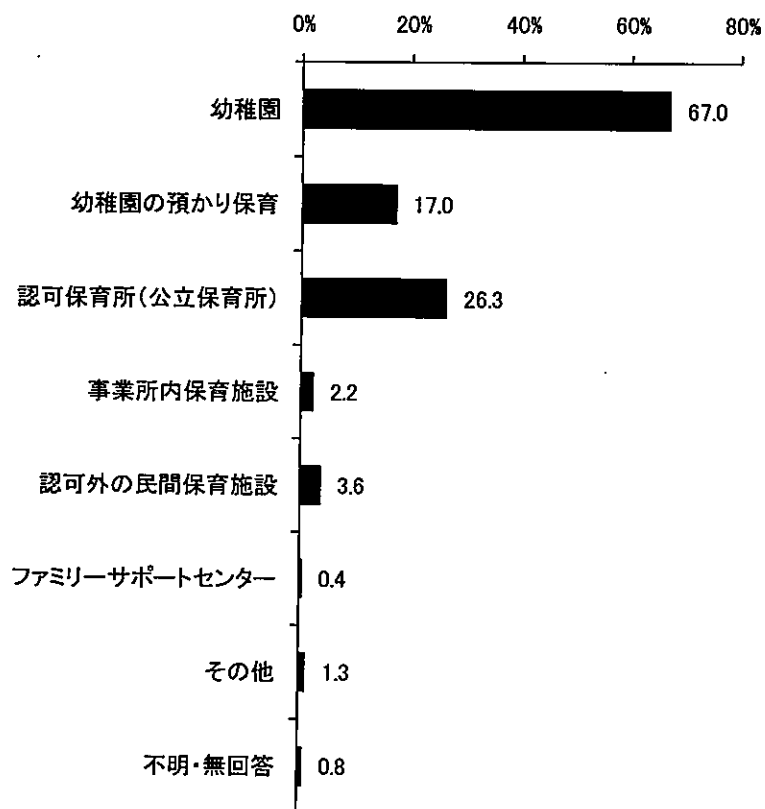
(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－1 平日、定期的にご利用している教育・保育事業〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 16-1〕

平日、定期的にご利用している教育・保育事業についてみると、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が67.0%、「認可保育所（公立保育所）」が26.3%、「幼稚園の預かり保育」が17.0%となっています。

就学前児童(N=896)



(1)で「利用している」を選んだ方

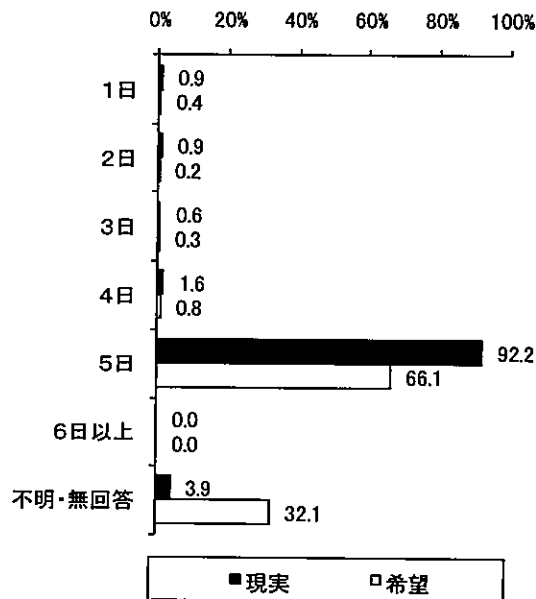
(1)－2 平日、定期的にご利用している教育・保育事業の現在の状況と、今後の利用希望〈数量回答〉〔就学前児童調査…問16-2〕

平日、定期的にご利用している教育・保育事業の現在の状況と、今後の利用希望についてみると、1週あたりの利用日数では、現実、希望ともに「5日」が最も高く、それぞれ92.2%、66.1%となっています。また、1日あたりの利用時間では、現実、希望ともに「6時間」が最も高くなっています。

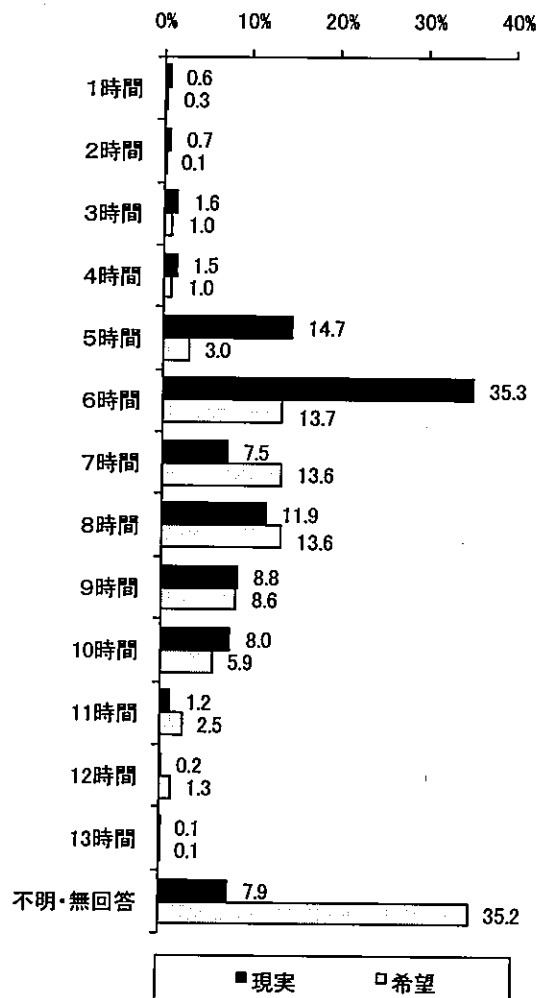
①1週あたりの利用日数〈数量回答〉

②1日あたりの利用時間〈数量回答〉

就学前児童(N=896)

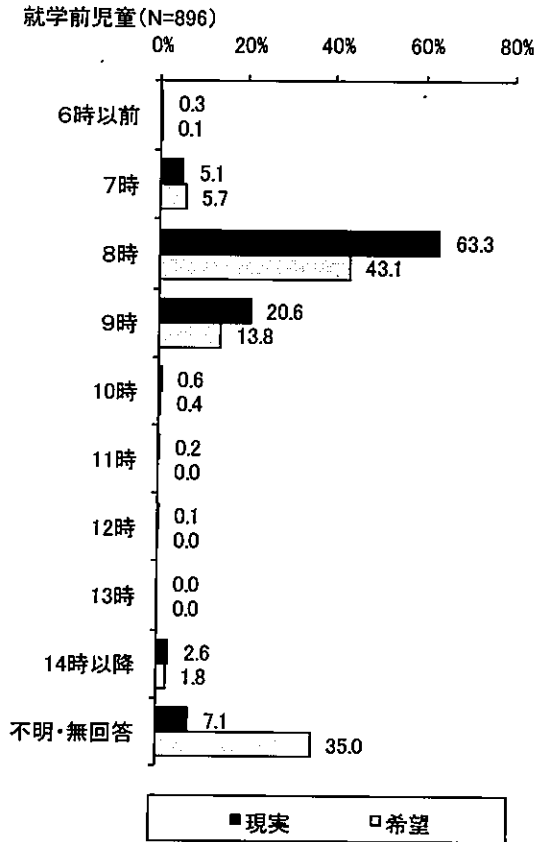


就学前児童(N=896)

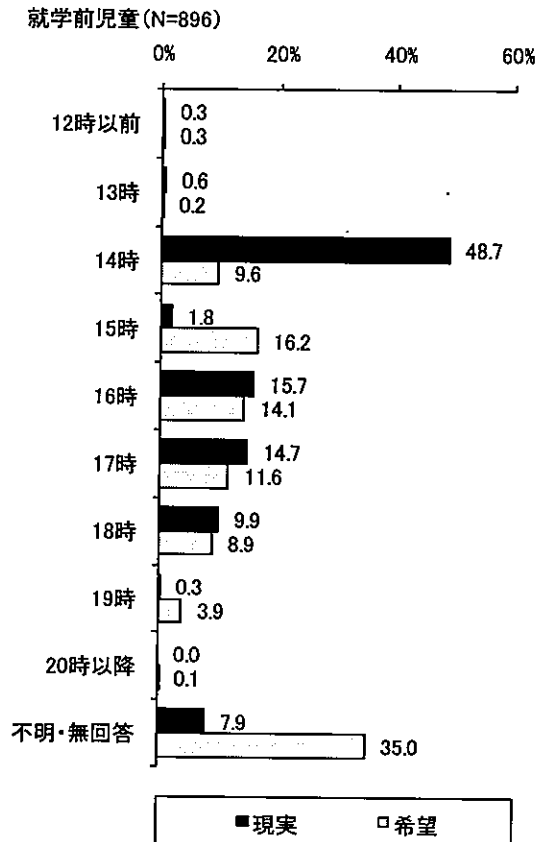


利用開始時間では、現実、希望ともに「8時」が最も高く、それぞれ63.3%、43.1%となっています。また、終了時間では、現実「14時」、希望「15時」が最も高くなっています。

③利用開始時間〈数量回答〉



④利用終了時間〈数量回答〉

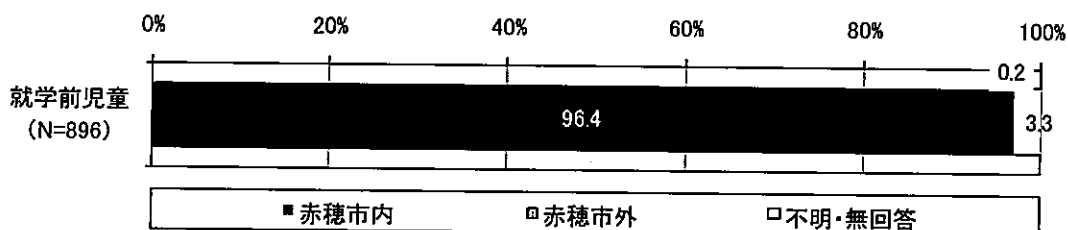


(1)で「利用している」を選んだ方

(1) - 3 平日、利用している教育・保育事業の実施場所〈単数回答〉

[就学前児童調査…問 16-3]

平日、利用している教育・保育事業の実施場所についてみると、「赤穂市内」が96.4%と大部分を占めています。



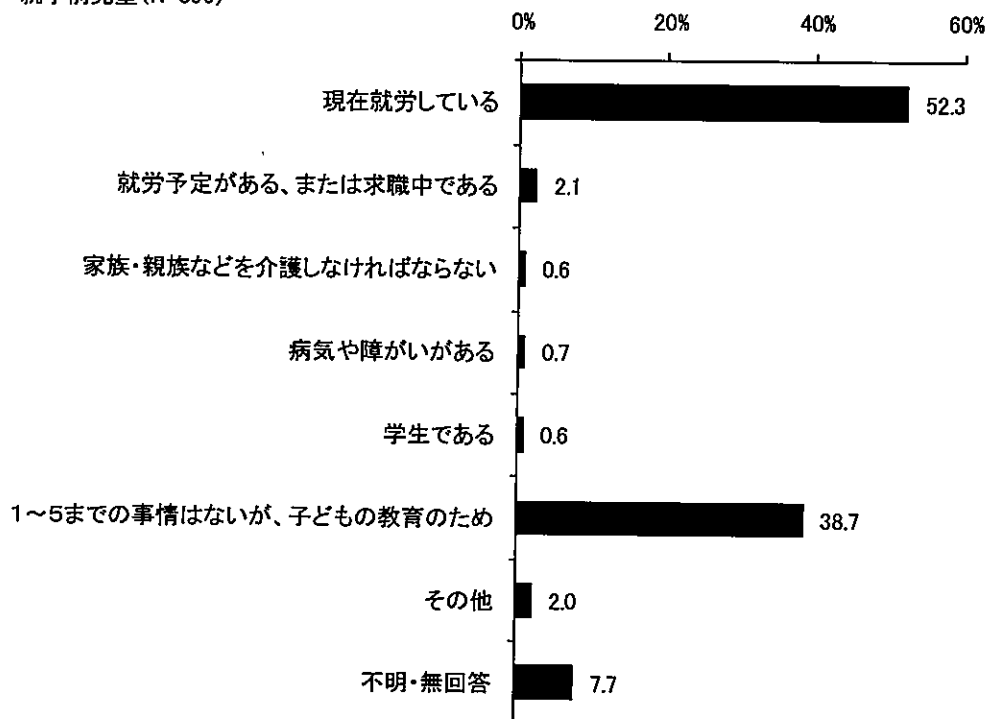
(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－4 平日、教育・保育事業を利用している主な理由〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 16－4〕

平日、教育・保育事業を利用している主な理由についてみると、「現在就労している」が52.3%で最も高く、次いで「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」が38.7%となっています。

就学前児童(N=896)



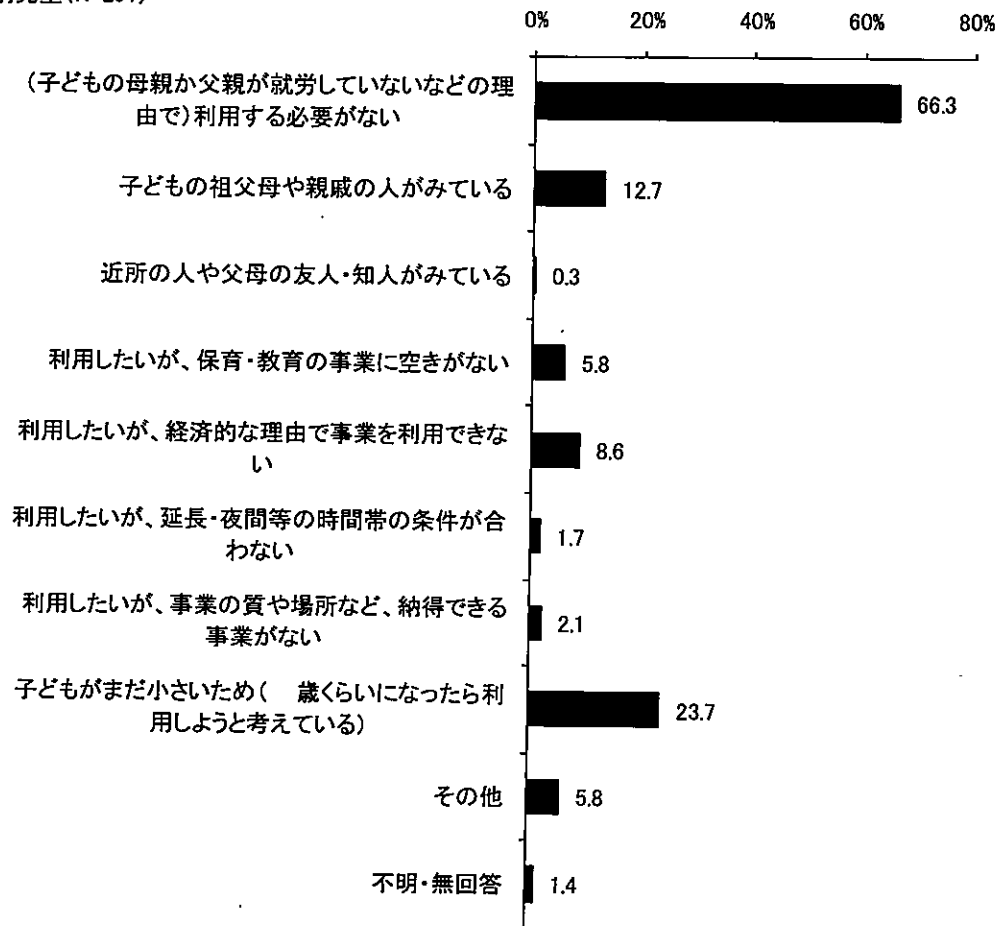
(1)で「利用していない」を選んだ方

(1)－5 利用していない主な理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問16-5〕

平日、教育・保育事業を利用していない主な理由についてみると、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」が66.3%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため(歳くらいになったら利用しようと考えている)」が23.7%となっています。

また、子どもがまだ小さいために教育・保育事業を利用していない方で、今後利用しようとする時の子どもの年齢については、「3歳」が36.2%と最も高くなっています。

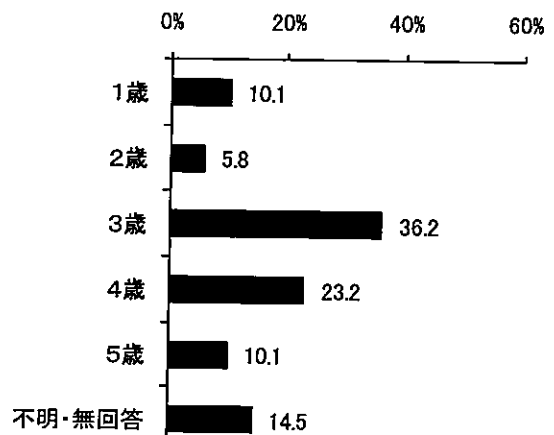
就学前児童(N=291)



◎利用したい時の子どもの年齢〈数量回答〉

就学前児童(N=69)

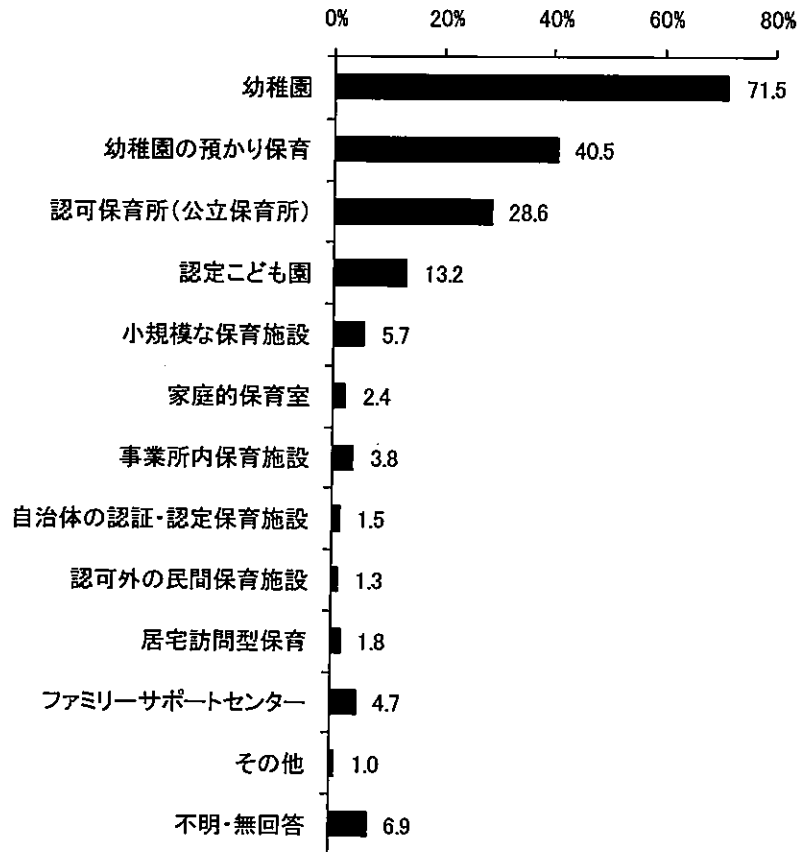
《「子どもがまだ小さいため(歳くらいになったら利用しようと考えている)」を選んだ方》



(2) 現在の利用の有無にかかわらず、今後、平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業〈複数回答〉〔就学前児童調査…問17〕

今後、平日に定期的に利用したいと考える教育・保育事業についてみると、「幼稚園」が71.5%で最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が40.5%、「認可保育所（公立保育所）」が28.6%となっています。

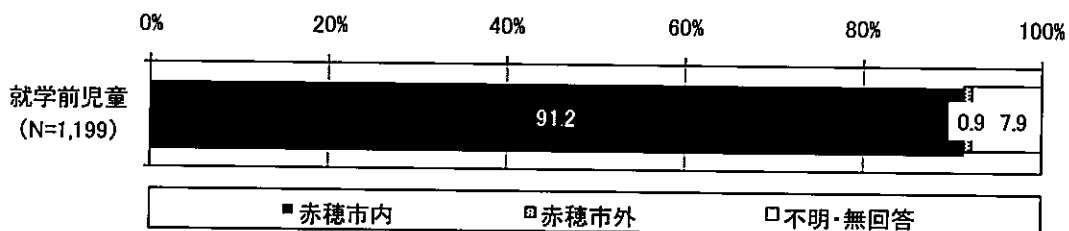
就学前児童(N=1,199)



*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

(2) - 1 教育・保育事業を利用したい場所〈単数回答〉〔就学前児童調査…問17-1〕

教育・保育事業を利用したい場所についてみると、「赤穂市内」が91.2%と大部分を占めています。



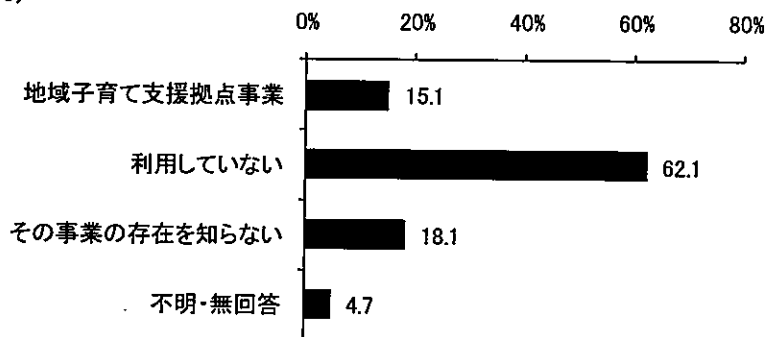
地域の子育て支援事業の利用状況について（就学前児童）

（１）現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 18〕

地域子育て支援拠点事業の利用状況についてみると、「地域子育て支援拠点事業」が15.1%となっています。一方、「利用していない」は62.1%となっています。

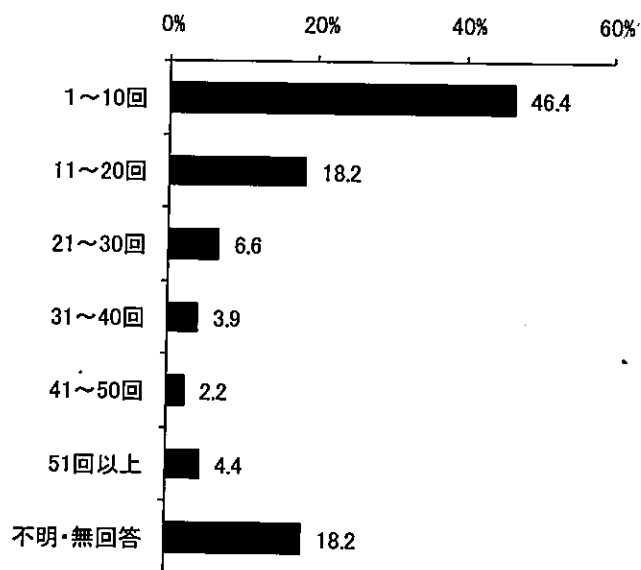
また、年間の利用回数では、「1～10回」の割合が高くなっています。

就学前児童(N=1,199)



◎ 1週間あたりもしくは1ヶ月当たりの利用回数〈数量回答〉

就学前児童(N=181)



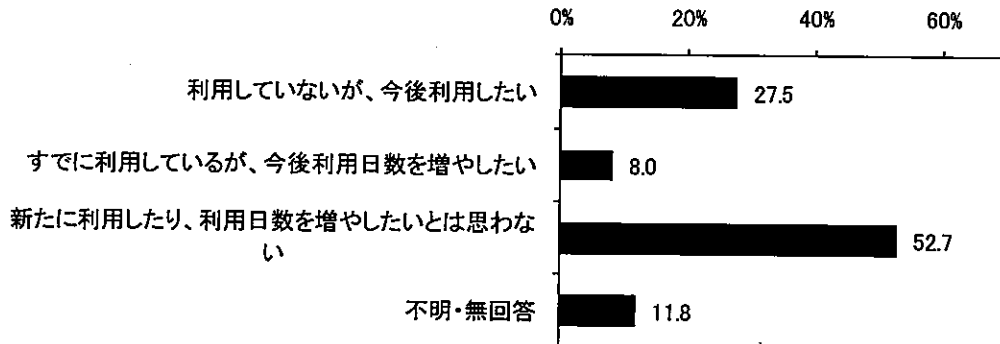
(2) 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向〈単数回答〉〔就学前児童調査…問19〕

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向についてみると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が52.7%と最も高くなっています。

また、年間の利用希望回数では、『利用していないが、今後利用したい』、『すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい』ともに「1～10回」の割合が最も高くなっています。

◎1週当たりもしくは1ヶ月当たりの利用希望回数〈数量回答〉

就学前児童(N=1,199)



《「利用していないが、今後利用したい」、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を選んだ方》

【就学前児童】 年間の 利用希望回数	利用していない が、今後利用した い(N=330)		すでに利用してい るが、今後利用日 数を増やしたい (N=96)	
	件数	%	件数	%
1～10回	126	38.2	39	40.6
11～20回	37	11.2	7	7.3
21～30回	7	2.1	2	2.1
31～40回	0	0.0	2	2.1
41～50回	1	0.3	1	1.0
51回以上	1	0.3	7	7.3
不明・無回答	158	47.9	38	39.6

(3) 子育てに関する機関や子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向
〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 20〕

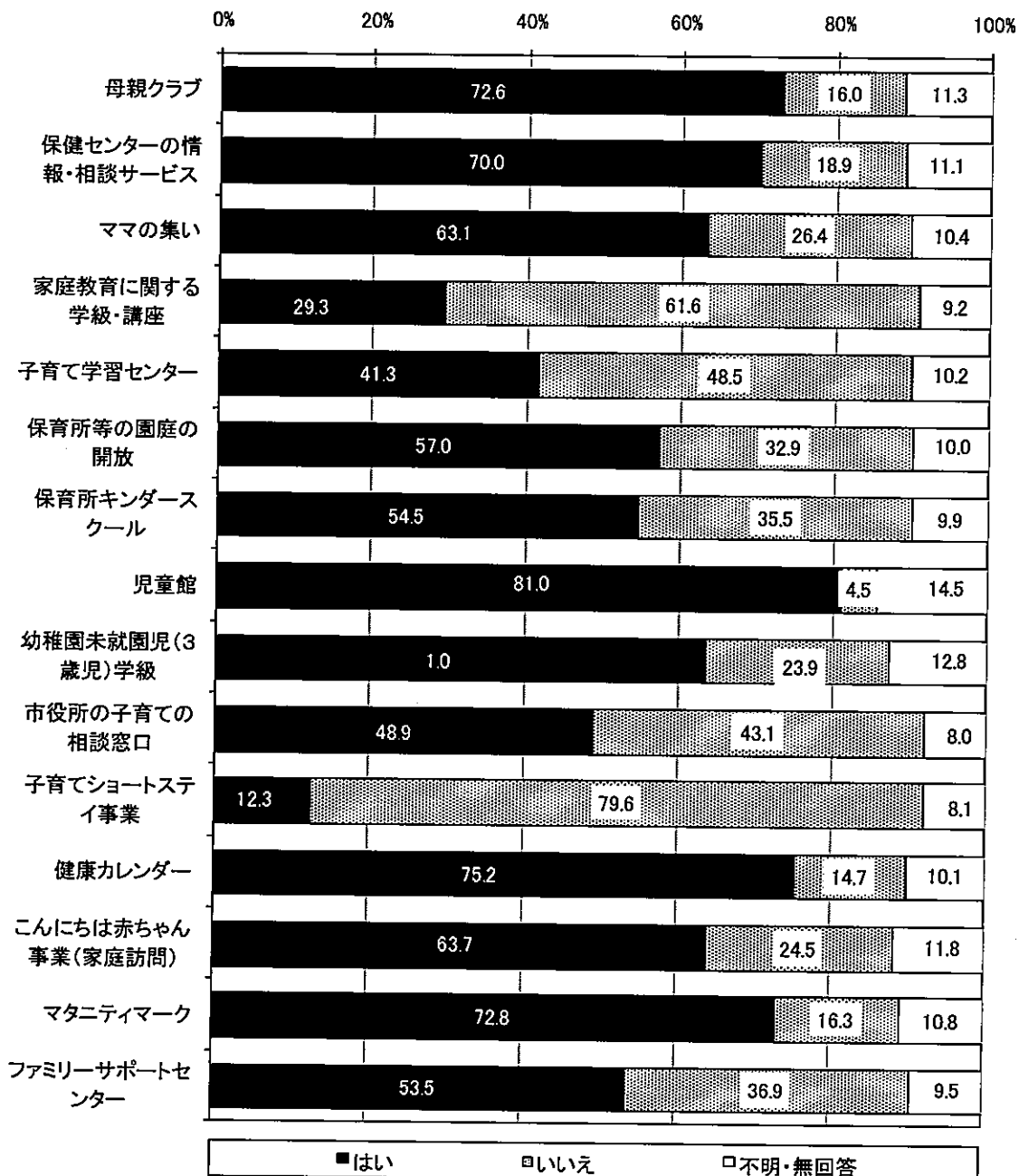
子育てに関する機関や子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向についてみると、『知っている』では「児童館」が81.0%と最も高く、次いで「健康カレンダー」が75.2%、「マタニティマーク」が72.8%となっています。

『これまでに利用したことがある』では「児童館」が67.9%と最も高く、次いで「健康カレンダー」が57.5%、「こんにちは赤ちゃん事業（家庭訪問）」が52.8%となっています。

『今後利用したい』では「児童館」が64.9%と最も高く、次いで「健康カレンダー」が53.9%、「幼稚園未就園児（3歳児）学級」が41.5%となっています。

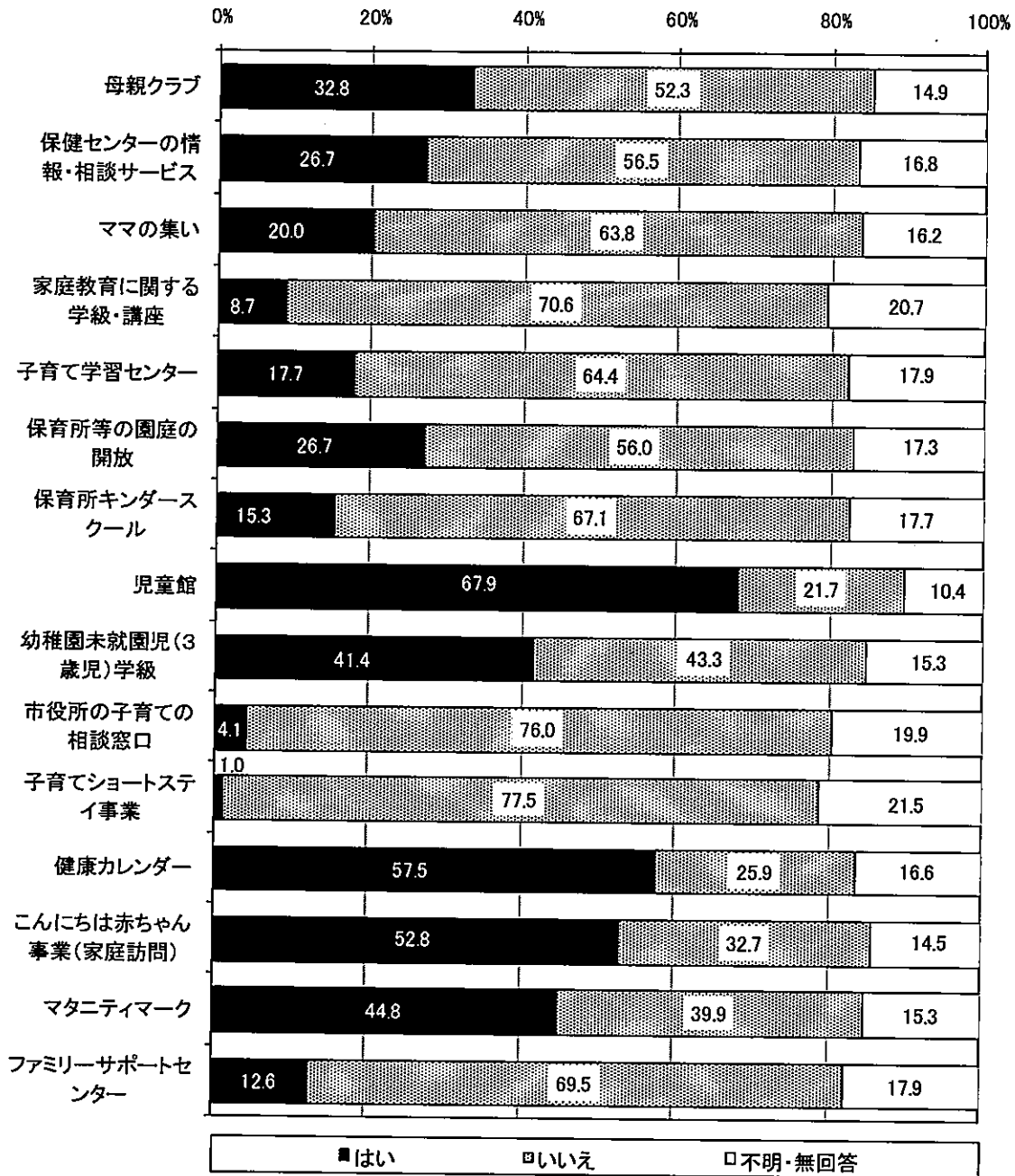
【A 知っている】

就学前児童(N=1,199)



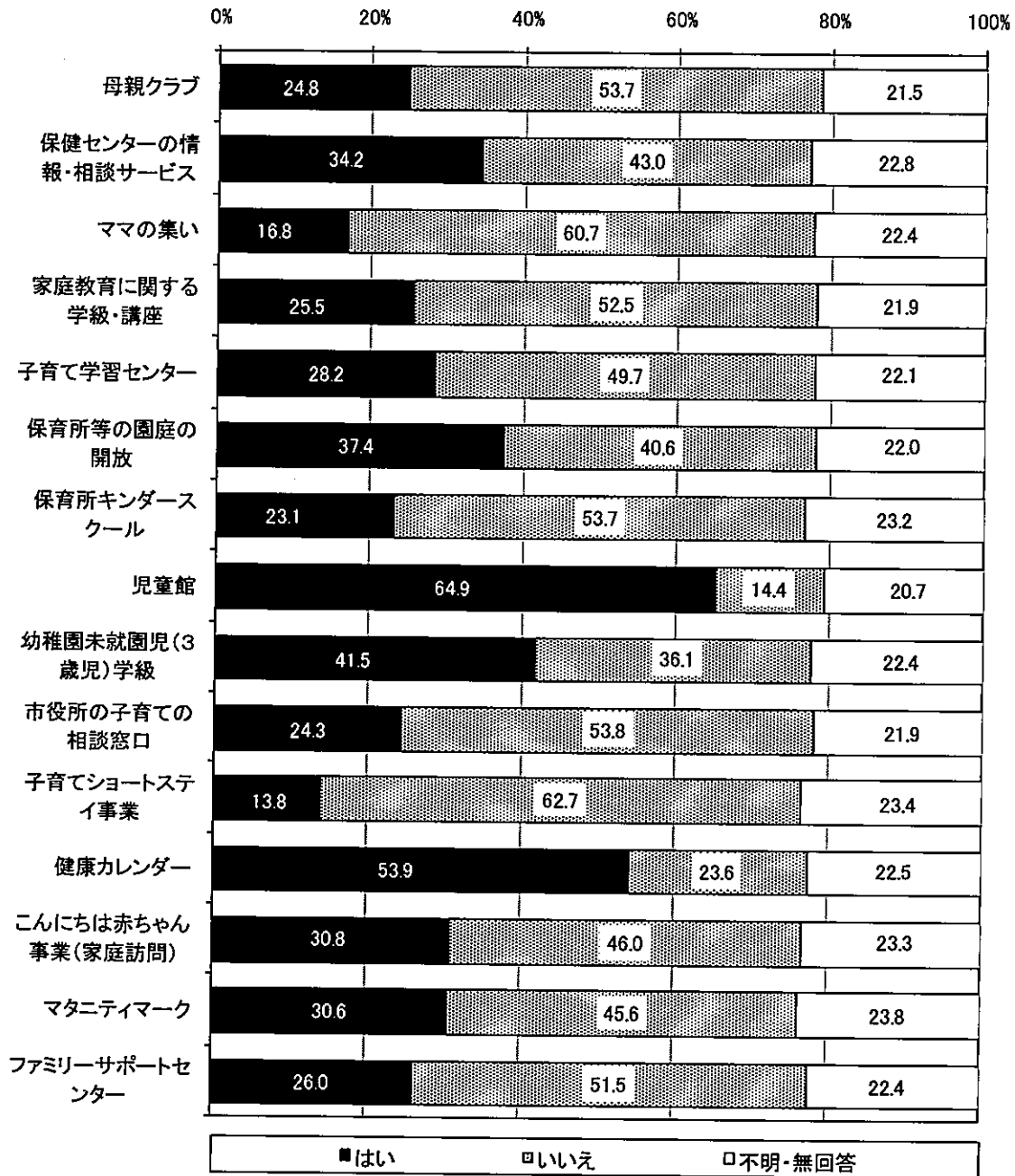
【B これまでに利用したことがある】

就学前児童 (N=1,199)



【C 今後利用したい】

就学前児童(N=1,199)



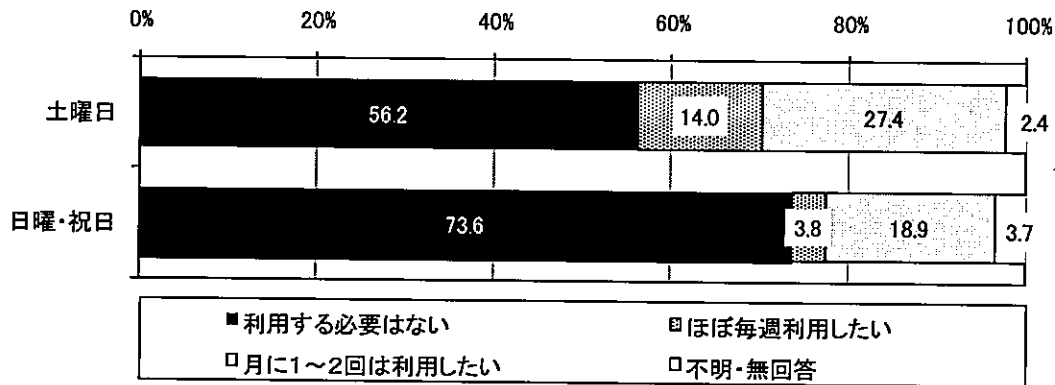
土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童）

（１）土曜日と日曜日・祝日の、定期的な教育・保育事業の利用希望（一時的な利用は除く）〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 2f〕

土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望についてみると、土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」がそれぞれ56.2%、73.6%と最も高くなっています。

また、希望する利用時間帯については、開始時間では、土曜日、日曜日・祝日ともに「8時」の割合が最も高くなっています。終了時間では、土曜日、日曜日・祝日ともに「17時」の割合が最も高くなっています。

就学前児童(N=1,199)

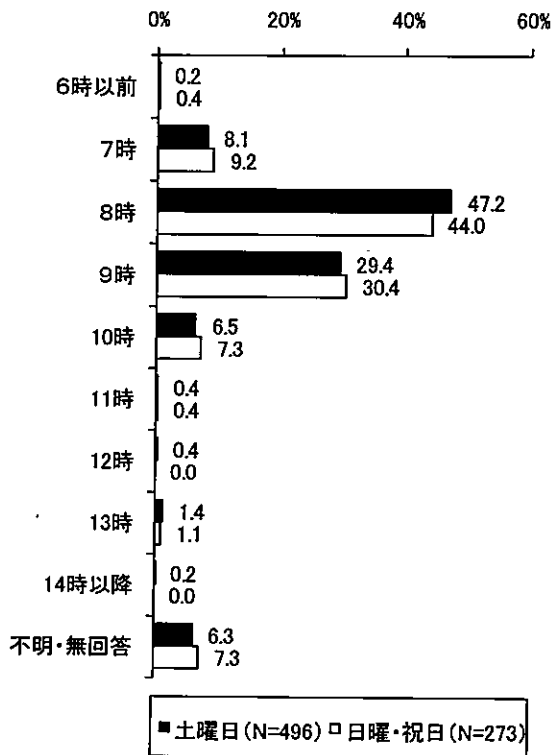


*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

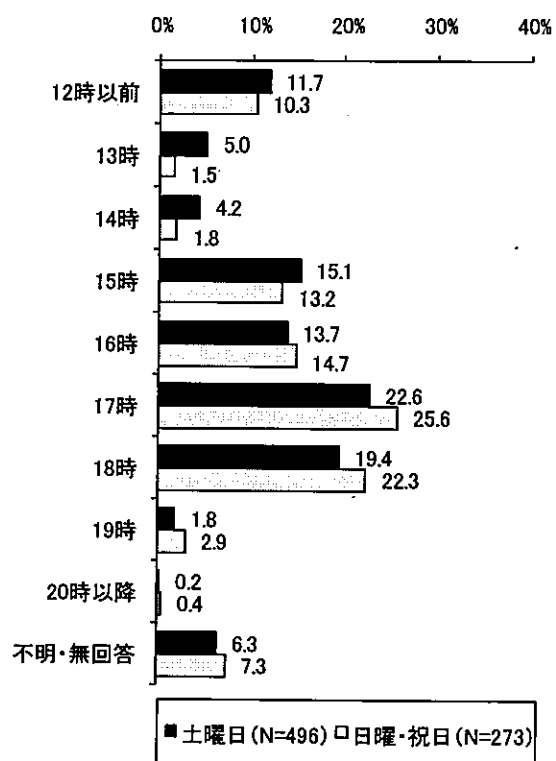
◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

《「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」を選んだ方》

【開始時間】



【終了時間】

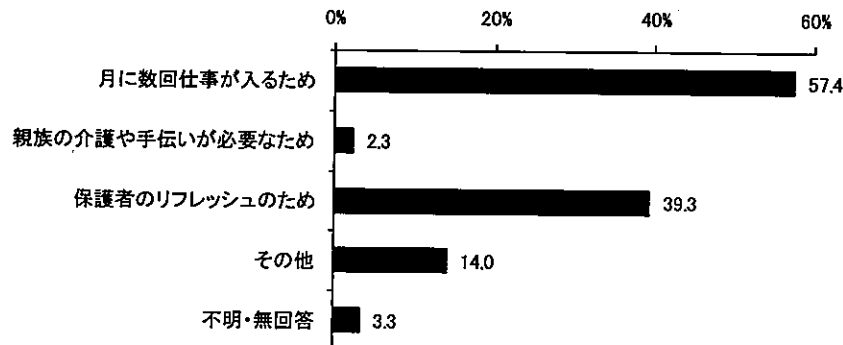


(1) で「月に1～2回は利用したい」を選んだ方

(1) - 1 毎週ではなく、たまに利用したい理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 21-1〕

毎週ではなく、たまに利用したい方の理由についてみると、「月に数回仕事が入るため」が57.4%と最も高く、次いで「保護者のリフレッシュのため」が39.3%となっています。

就学前児童 (N=394)



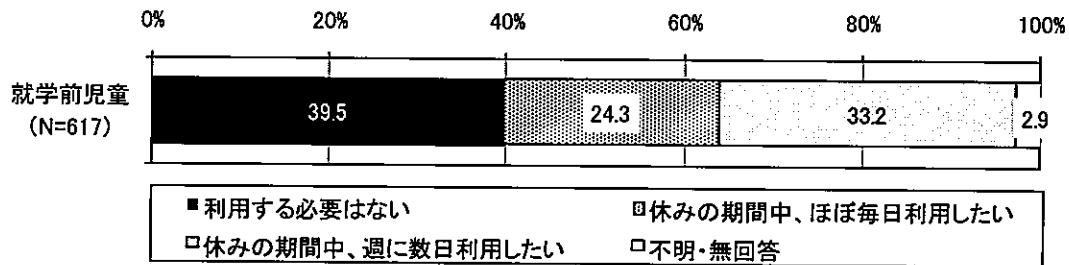
「幼稚園」を利用されている方

(2) 夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 22〕

幼稚園を利用されている方の、長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望についてみると、「利用する必要はない」が39.5%と最も高く、次いで「休みの期間中、週に数日利用したい」が33.2%となっています。

また、希望する利用時間帯については、開始時間では「8時」、終了時間では「17時」の割合が、それぞれ最も高くなっています。



*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

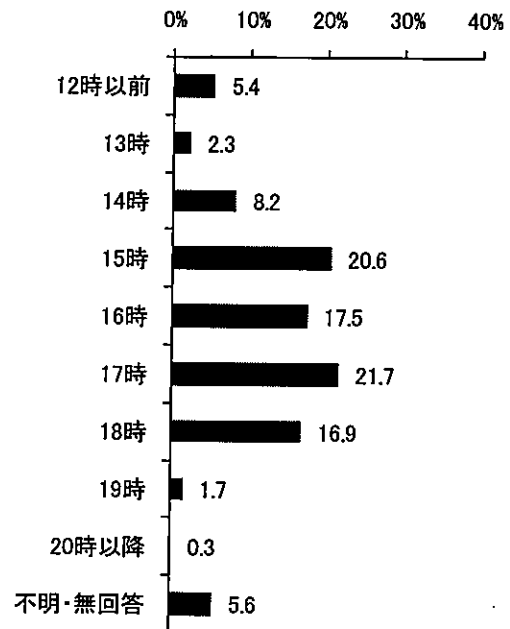
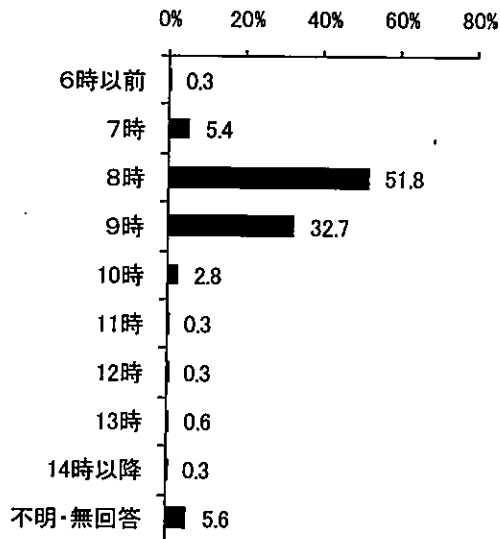
《「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」「休みの期間中、週に数日利用したい」を選んだ方》

【開始時間】

【終了時間】

就学前児童(N=355)

就学前児童(N=355)

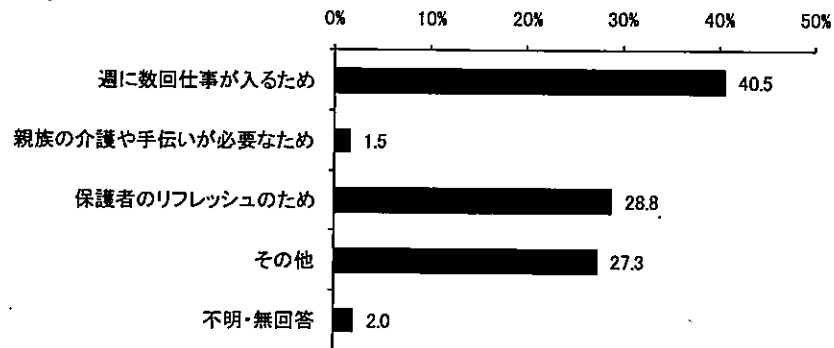


(2)で「休みの期間中、週に数日利用したい」を選ばれた方

(2)－1 毎日ではなく、たまに利用したい理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 22－1〕

毎日ではなく、たまに利用したい理由についてみると、「週に数回仕事が入るため」が40.5%と最も高く、次いで「保護者のリフレッシュのため」が28.8%となっています。

就学前児童(N=205)

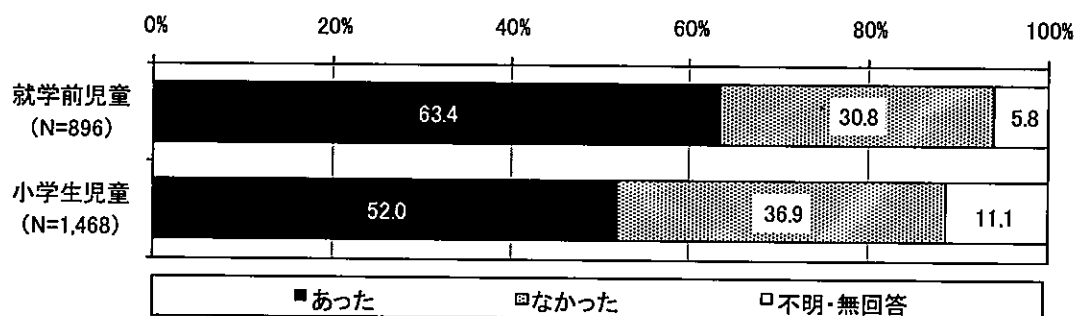


病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）

（１）この１年間に、子どもが病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった（小学生の方は学校を休まなければならなかった）ことの有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 23、小学生児童調査…問 16〕

病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験の有無についてみると、「あった」が就学前児童で63.4%、小学生児童で52.0%となっています。



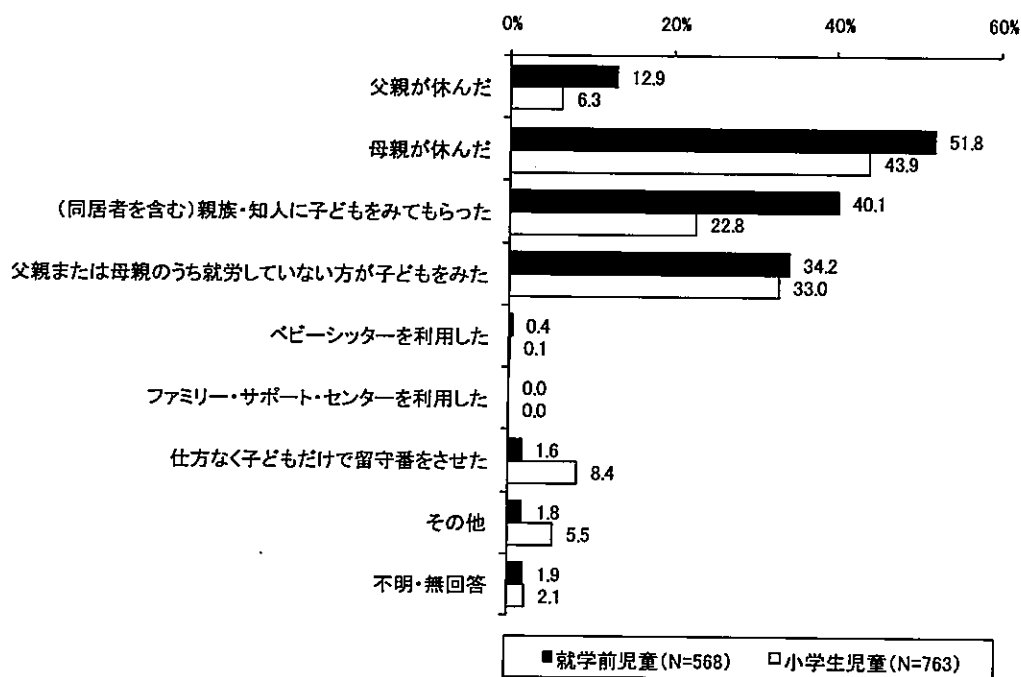
※就学前児童は、平日の定期的な教育・保育事業を利用している方

(1)で「あった」を選んだ方

(1)－1 子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の、この1年間に行った対処方法〈複数回答〉

[就学前児童調査…問 23－1、小学生児童調査…問 16－1]

子どもが病気やケガで教育・保育事業が利用できなかったり、学校へ行けなかった場合の対処方法についてみると、「母親が休んだ」が就学前児童で51.8%、小学生児童で43.9%と、それぞれ最も高く、次いで、就学前児童は「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」で40.1%、小学生児童は「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」で33.0%となっています。



子どもが病気やケガの際のそれぞれの対処日数については、就学前児童では「10日以上」で、『母親が休んだ』『同居者を含む親族・知人に子どもをみてもらった』『ベビーシッターを利用した』が最も高く、小学生児童では「3日」で『その他』の割合が、最も高くなっています。

◎子どもが病気やケガの際の各対処日数〈数量回答〉

【就学前児童】 対処日数	父親が休んだ N=73		母親が休んだ N=294		もにむ(同居者を含む) ら子(親族)つどもをみ知て人 N=228		をなう父 みいち親 た方就又 が労は 子し母 どて親 もいの N=194		をベ 利用し した シ ッ タ ー N=2		さだ仕 せけ方 たでな 留守 番ど をも N=9		その他 N=10	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	24	32.9	44	15.0	24	10.5	23	11.9	0	0.0	5	55.6	0
2日	15	20.5	48	16.3	33	14.5	30	15.5	1	50.0	0	0.0	1	10.0
3日	9	12.3	49	16.7	43	18.9	36	18.6	0	0.0	2	22.2	3	30.0
4日	6	8.2	15	5.1	13	5.7	12	6.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	6	8.2	40	13.6	31	13.6	25	12.9	0	0.0	1	11.1	2	20.0
6日	1	1.4	9	3.1	3	1.3	6	3.1	0	0.0	0	0.0	1	10.0
7日	1	1.4	13	4.4	16	7.0	10	5.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8日	0	0.0	4	1.4	1	0.4	4	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10日以上	6	8.2	57	19.4	50	21.9	34	17.5	1	50.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	5	6.8	15	5.1	14	6.1	13	6.7	0	0.0	1	11.1	3	30.0

【小学生児童】 対処日数	父親が休んだ N=48		母親が休んだ N=335		もにむ(同居者を含む) ら子(親族)つどもをみ知て人 N=174		をなう父 みいち親 た方就又 が労は 子し母 どて親 もいの N=252		をベ 利用し した シ ッ タ ー N=1		さだ仕 せけ方 たでな 留守 番ど をも N=64		その他 N=42	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	29	60.4	99	29.6	50	28.7	85	33.7	0	0.0	30	46.9	11
2日	11	22.9	98	29.3	37	21.3	42	16.7	1	100.0	15	23.4	5	11.9
3日	3	6.3	43	12.8	28	16.1	45	17.9	0	0.0	4	6.3	11	26.2
4日	0	0.0	15	4.5	6	3.4	9	3.6	0	0.0	4	6.3	1	2.4
5日	1	2.1	23	6.9	18	10.3	26	10.3	0	0.0	1	1.6	1	2.4
6日	1	2.1	7	2.1	4	2.3	10	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	13	3.9	4	2.3	6	2.4	0	0.0	0	0.0	3	7.1
8日	1	2.1	4	1.2	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10日以上	1	2.1	14	4.2	7	4	16	6.3	0	0.0	3	4.7	1	2.4
不明・無回答	1	2.1	18	5.4	20	11.5	12	4.8	0	0.0	7	10.9	9	21.4

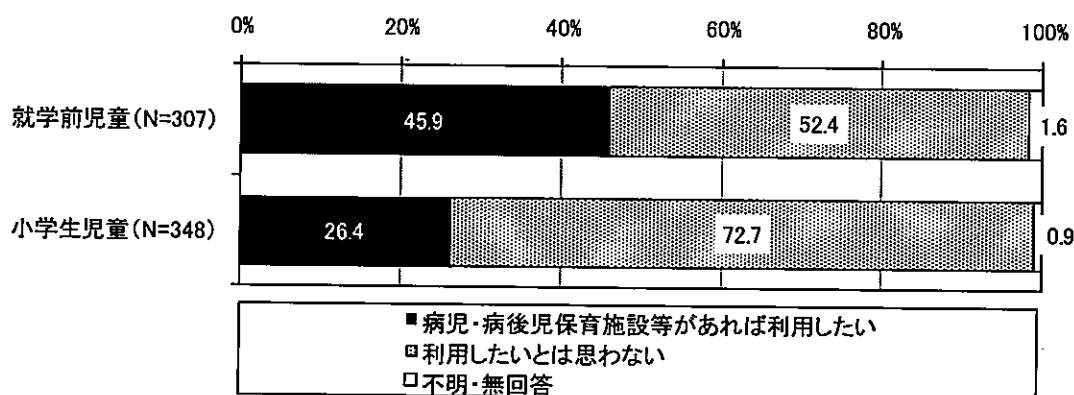
※就学前児童、小学生児童ともに「ファミリーサポートセンターを利用した」に回答はありませんでした。

(1) - 1で「父親が休んだ」または「母親が休んだ」を選んだ方

(1) - 2 その際、病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 23-2、小学生児童調査…問 16-2〕

父親または母親が休んだ方で、病児・病後児保育施設等があれば利用したいと思ったかについてみると、「病児・病後児保育施設等があれば利用したい」が就学前児童で45.9%、小学生児童で26.4%、「利用したいとは思わない」が就学前児童で52.4%、小学生児童で72.7%となっています。

また、利用したい日数については、就学前児童では「3日」「5日」が13.5%、小学生児童では「2日」が23.9%と、それぞれ高くなっています。



*病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要

◎病児・病後児保育施設等
(病気時・病後時の預かりサービス)
を利用したい方の日数〈数量回答〉

《「できれば病児・病後児保育施設等
(病気時・病後時の預かりサービス)を利用したい」
を選んだ方》

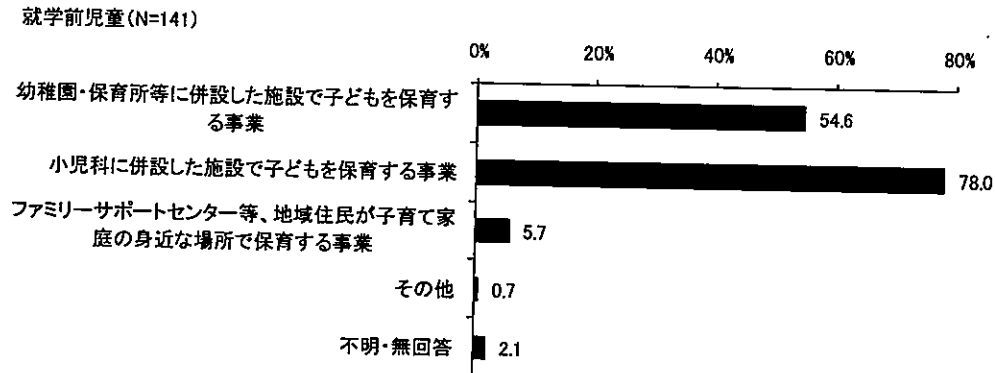
できれば病児・病後児保育施設等を利用したい日数	就学前児童 N=141		小学生児童 N=92	
	件数	%	件数	%
1日	12	8.5	11	12.0
2日	14	9.9	22	23.9
3日	19	13.5	16	17.4
4日	3	2.1	3	3.3
5日	19	13.5	7	7.6
6日	2	1.4	1	1.1
7日	12	8.5	9	9.8
8日	1	0.7	0	0.0
9日	1	0.7	0	0.0
10日以上	17	12.1	3	3.3
不明・無回答	41	29.1	20	21.7

(1) - 2で「病児・病後児保育施設等があれば利用したい」を選んだ方

(1) - 3 上記の目的で子どもを預ける場合の望ましい事業形態〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 23-3〕

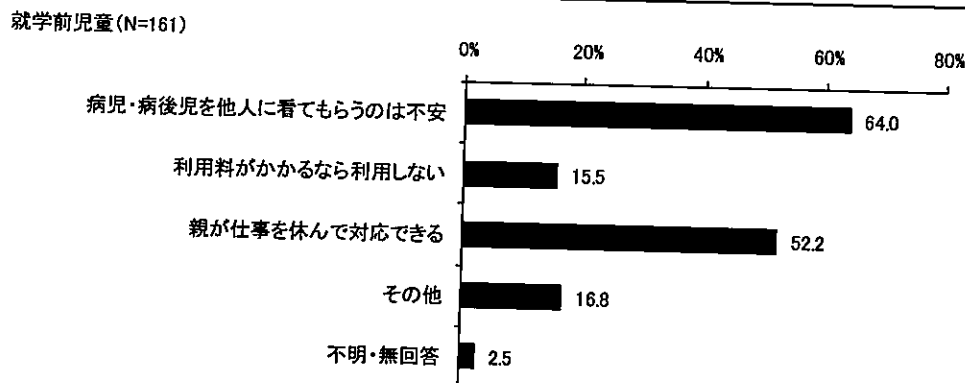
病児・病後児保育施設等を利用したい方の、子どもを預ける場合の望ましい事業形態についてみると、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が78.0%で最も高く、次いで「幼稚園・保育所等に併設した施設で子どもを保育する事業」が54.6%となっています。



(1) - 2で「利用したいとは思わない」を選んだ方

(1) - 4 そう思う理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 23-4〕

病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由についてみると、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が64.0%と最も高く、次いで「親が仕事を休んで対応できる」が52.2%となっています。

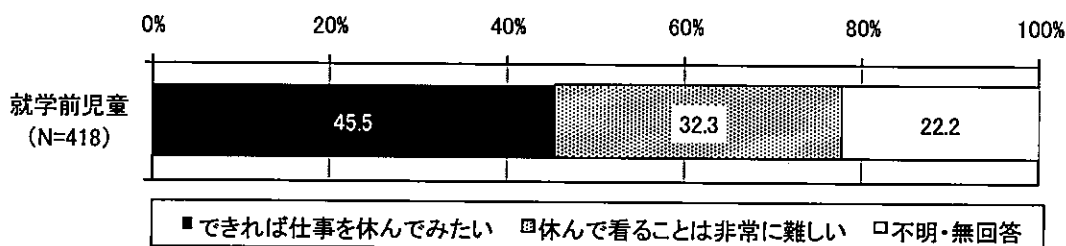


(1) - 1で「父親が休んだ」「母親が休んだ」以外を選んだ方

(1) - 5 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 23-5〕

「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったかについてみると、「できれば仕事を休んで看たい」が45.5%となっています。

また、仕事を休んで看たい日数については、「3日」の割合が高くなっています。



◎仕事を休んで看たい日数〈数量回答〉

《「できれば仕事を休んで看たい」を選んだ方》

できれば仕事を休んで看たい日数	就学前児童 N=190	
	件数	%
1日	20	10.5
2日	23	12.1
3日	35	18.4
4日	7	3.7
5日	14	7.4
6日	2	1.1
7日	6	3.2
8日	0	0.0
9日	0	0.0
10日以上	20	10.5
不明・無回答	63	33.2

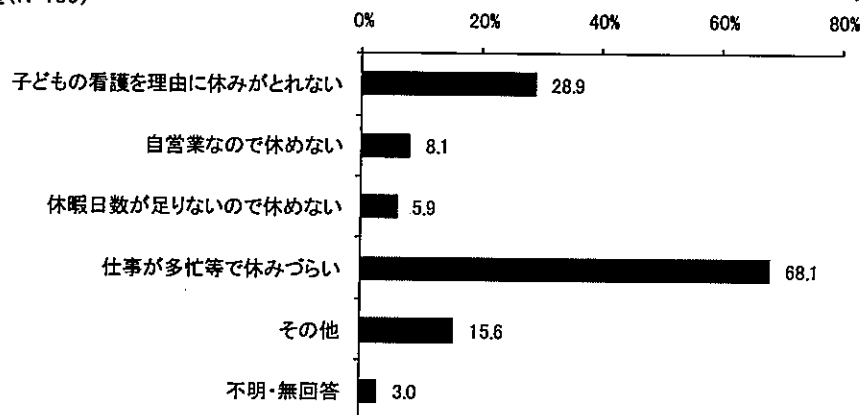
(1) - 4で「休んで看することは非常に難しい」を選んだ方

(1) - 6 そう思う理由〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 23-6〕

仕事を休んで看することは非常に難しい理由についてみると、「仕事が多忙等で休みづらい」が68.1%と最も高くなっています。

就学前児童(N=135)



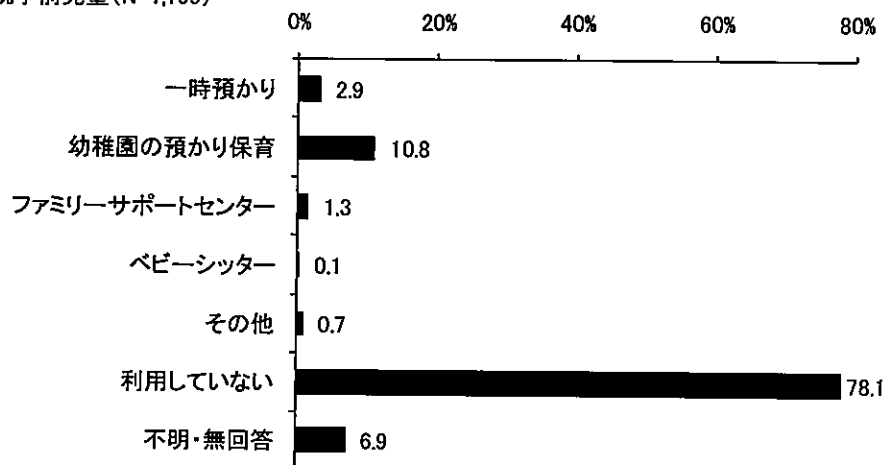
不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する必要がある事業の有無〈複数回答〉〔就学前児童調査…問24〕

一時預かりなど、不定期に利用する必要がある事業についてみると、「利用していない」が78.1%となっています。利用している事業では、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）」の割合が10.8%となっています。

利用している事業の1年間の利用日数については、『その他』で「50日以上」、『一時預かり』『幼稚園の預かり保育』で「10～19日」の割合が高くなっています。

就学前児童(N=1,199)



◎ 1年間の利用日数〈数量回答〉

《「利用していない」以外を選んだ方》

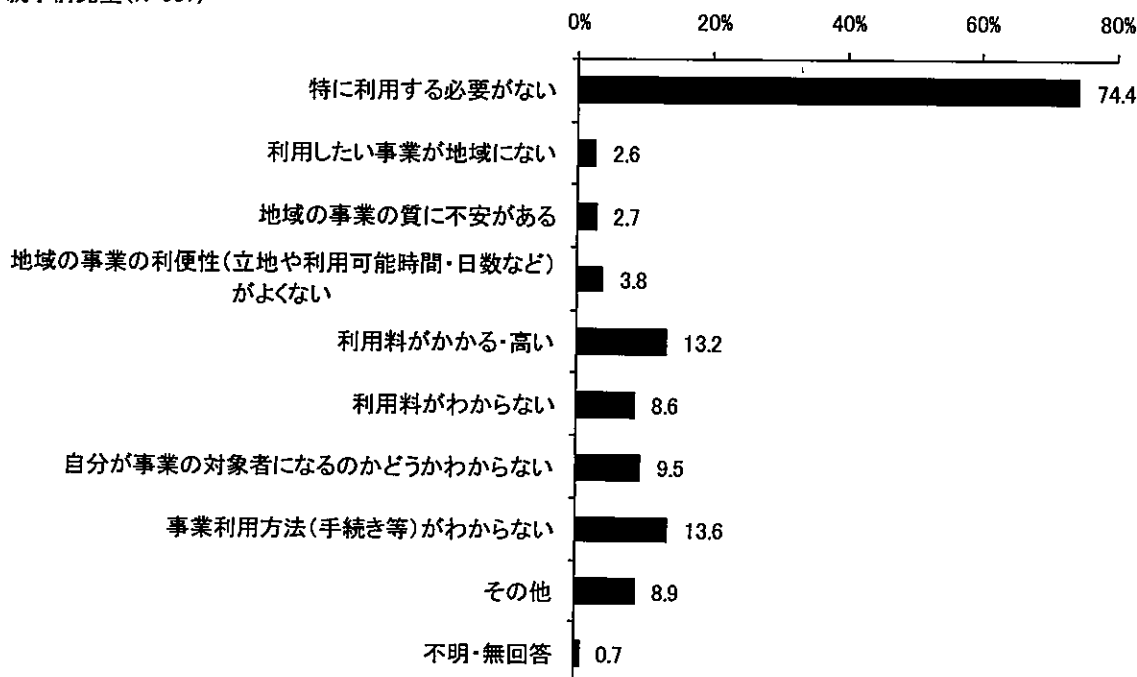
【就学前児童】 1年間の 利用日数	一時預かり		幼稚園の預かり		ファミリーサポートセンター		ベビーシッター		その他	
	N=35		N=129		N=16		N=1		N=8	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	3	8.6	10	7.8	4	25.0	0	0.0	1	12.5
2日	5	14.3	5	3.9	2	12.5	0	0.0	1	12.5
3日	2	5.7	7	5.4	1	6.3	0	0.0	0	0.0
4日	1	2.9	3	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	6	17.1	14	10.9	2	12.5	0	0.0	1	12.5
6日	0	0.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	3	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8日	1	2.9	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19日	6	17.1	25	19.4	1	6.3	0	0.0	0	0.0
20～29日	1	2.9	8	6.2	1	6.3	0	0.0	0	0.0
30～39日	1	2.9	7	5.4	0	0.0	0	0.0	1	12.5
40～49日	1	2.9	4	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
50日以上	3	8.6	22	17.1	1	6.3	0	0.0	2	25.0
不明・無回答	5	14.3	19	14.7	4	25.0	1	100.0	2	25.0

(1)で「利用していない」を選んだ方

(1) - 1 現在利用していない理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 24-1〕

現在利用していない理由についてみると、「特に利用する必要がない」が74.4%となっています。また、「事業利用方法(手続き等)がわからない」が13.6%となっています。

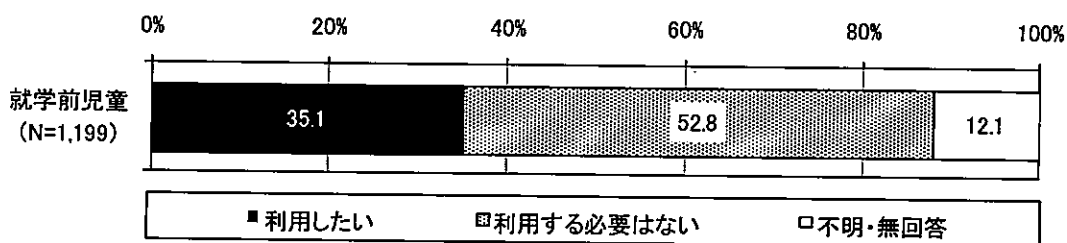
就学前児童(N=937)



(2) 私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、利用する必要がある事業の有無〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 25〕

不定期に利用する必要がある事業の有無についてみると、「利用したい」が35.1%、「利用する必要はない」が52.8%となっています。

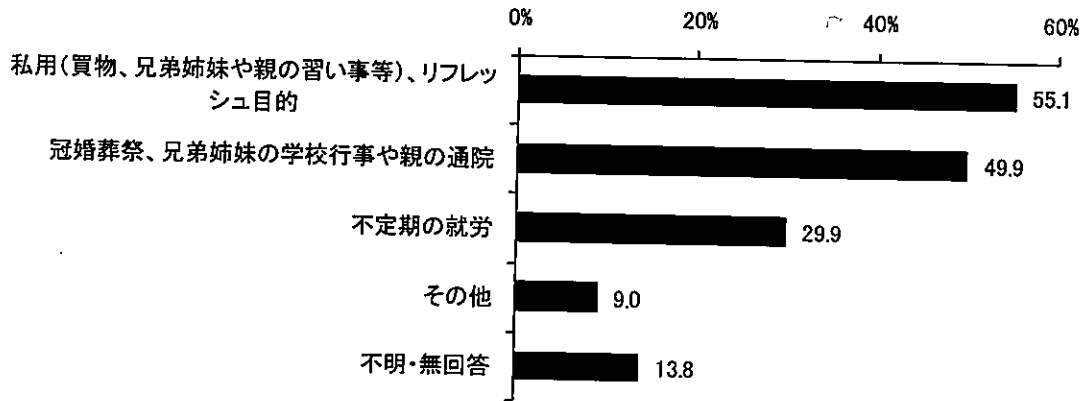
また、利用したい目的の内訳については、「私用(買物、兄弟姉妹や親の習い事等)、リフレッシュ目的」が55.1%、「冠婚葬祭、兄弟姉妹の学校行事や親の通院」が49.9%となっています。年間日数については、全ての項目について「10~19日」の割合が高くなっています。



*事業の利用には、一定の利用料がかかる

①利用したい目的の内訳〈複数回答〉《「利用したい」を選んだ方》

就学前児童(N=421)



②利用したい年間日数〈数量回答〉

《「利用したい」を選んだ方》

利用したい年間日数	就学前児童 N=421	
	件数	%
1日	4	1.0
2日	3	0.7
3日	16	3.8
4日	7	1.7
5日	41	9.7
6日	9	2.1
7日	3	0.7
8日	3	0.7
9日	0	0.0
10~19日	125	29.7
20~29日	59	14.0
30~39日	28	6.7
40~49日	8	1.9
50日以上	45	10.7
不明・無回答	70	16.6

【就学前児童】 1年間の 利用日数	私用 等(習 い事 や親 の習 い事 等)		兄弟姉妹 の買物 や親 の習 い事 等		冠婚葬祭 の通院 や学 校行 事		不定期 の就 労		その他	
	N=232		N=210		N=126		N=38			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	6	2.6	11	5.2	4	3.2	4	10.5		
2日	12	5.2	19	9.0	3	2.4	5	13.2		
3日	24	10.3	26	12.4	7	5.6	3	7.9		
4日	2	0.9	8	3.8	2	1.6	3	7.9		
5日	45	19.4	44	21.0	15	11.9	7	18.4		
6日	13	5.6	9	4.3	3	2.4	0	0.0		
7日	7	3.0	5	2.4	1	0.8	0	0.0		
8日	1	0.4	2	1.0	1	0.8	0	0.0		
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
10~19日	77	33.2	54	25.7	29	23.0	9	23.7		
20~29日	17	7.3	10	4.8	15	11.9	1	2.6		
30~39日	3	1.3	5	2.4	10	7.9	0	0.0		
40~49日	3	1.3	2	1.0	4	3.2	0	0.0		
50日以上	10	4.3	1	0.5	20	15.9	2	5.3		
不明・無回答	12	5.2	14	6.7	12	9.5	4	10.5		

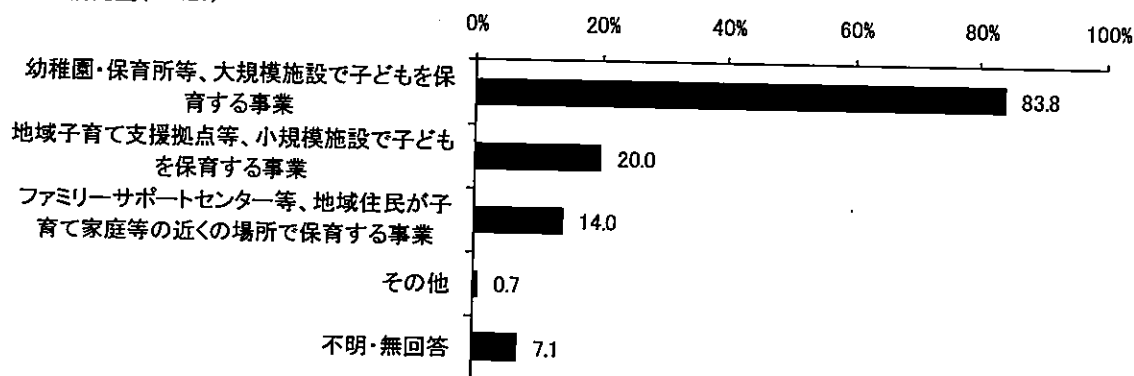
(2)で「利用したい」を選んだ方

(2) - 1 (2)の目的で子どもを預ける場合の望ましい事業形態〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 25-1〕

利用したい方の子どもを預ける場合の望ましい事業形態についてみると、「幼稚園・保育所等、大規模施設で子どもを保育する事業」が83.8%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点等、小規模施設で子どもを保育する事業」が20.0%となっています。

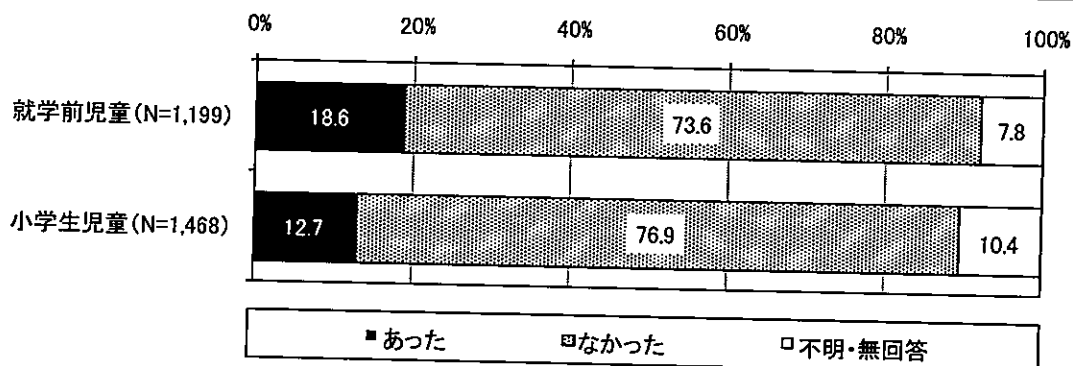
就学前児童(N=421)



(3) この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 26、小学生児童調査…問 17〕

子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験の有無についてみると、「なかった」が就学前児童で73.6%、小学生児童で76.9%、「あった」が就学前児童で18.6%、小学生児童で12.7%となっています。



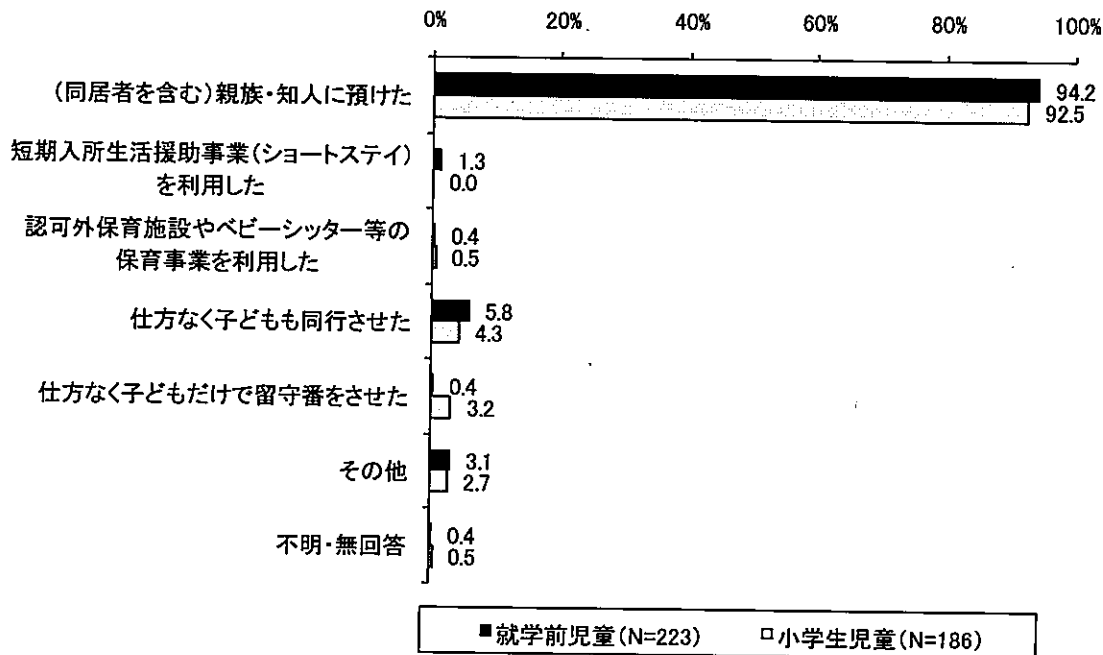
(3)で「あった」を選んだ方

(3) - 1 この1年間の対処方法とそれぞれの日数

[就学前児童調査…問 26-1、小学生児童調査…問 17-1]

◎1年間の対処方法〈複数回答〉

子どもを泊りがけで一時的に預けた際の1年間の対処方法についてみると、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が就学前児童、小学生児童ともに最も高く、それぞれ94.2%、92.5%となっています。



◎それぞれの日数〈数量回答〉

子どもを泊りがけで一時的に預けた際の泊数については、就学前児童では『短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した』『認可外保育施設やベビーシッター等の保育事業を利用した』で「3泊」の割合が高くなっています。小学生児童では『仕方なく子どもも同行させた』で「1泊」「2泊」「5泊」の割合が高くなっています

【就学前児童】 1年間の 利用日数	にむ（預～同居 け親居 た族者 ・を 知含 人 N=210		用ト助短 しス事期 たテ業入 イ（シ生 ）をヨ活 利 援 N=3		業タや認 を ベ可 利 等ビ外 用 の 保 した 育 シツ施 事 設 N=1		も仕 同方 行なく さく子 せとも N=13		さだ仕 せけ方 たでな たでく 留守子 番ど をも N=1		そ の 他 N=7	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1泊	68	32.4	0	0.0	0	0.0	4	30.8	0	0.0	2
2泊	26	12.4	0	0.0	0	0.0	1	7.7	0	0.0	1	14.3
3泊	22	10.5	1	33.3	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4泊	4	1.9	0	0.0	0	0.0	2	15.4	0	0.0	0	0.0
5泊	15	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6泊	5	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7泊	8	3.8	0	0.0	0	0.0	1	7.7	0	0.0	0	0.0
8泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9泊	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10泊以上	28	13.3	0	0.0	0	0.0	1	7.7	0	0.0	1	14.3
不明・無回答	33	15.7	2	66.7	0	0.0	4	30.8	1	100.0	3	42.9

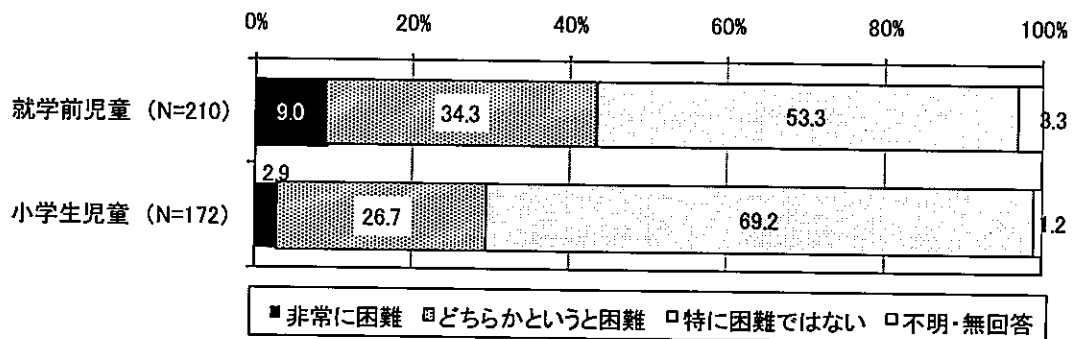
【小学生児童】 1年間の 利用日数	にむ（預～同居 け親居 た族者 ・を 知含 人 N=172		業タや認 を ベ可 利 等ビ外 用 の 保 した 育 シツ施 事 設 N=1		も仕 同方 行なく さく子 せとも N=8		さだ仕 せけ方 たでな たでく 留守子 番ど をも N=6		そ の 他 N=5	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1泊	75	43.6	0	0.0	2	25.0	2	33.3	2
2泊	30	17.4	0	0.0	2	25.0	1	16.7	0	0.0
3泊	12	7.0	0	0.0	1	12.5	1	16.7	0	0.0
4泊	2	1.2	1	100.0	1	12.5	0	0.0	0	0.0
5泊	13	7.6	0	0.0	2	25.0	0	0.0	0	0.0
6泊	3	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7泊	2	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9泊	1	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10泊以上	12	7.0	0	0.0	0	0.0	1	16.7	0	0.0
不明・無回答	22	12.8	0	0	0	0.0	1	16.7	3	60.0

※小学生児童の「短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した」に回答はありませんでした。

(3) - 1で「親族・知人にみてもらった」を選んだ方

(3) - 2 その場合の困難度〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 26-2、小学生児童調査…問 17-2〕

親族・知人にみてもらった場合の困難度についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「特に困難ではない」がそれぞれ53.3%、69.2%と最も高くなっています。



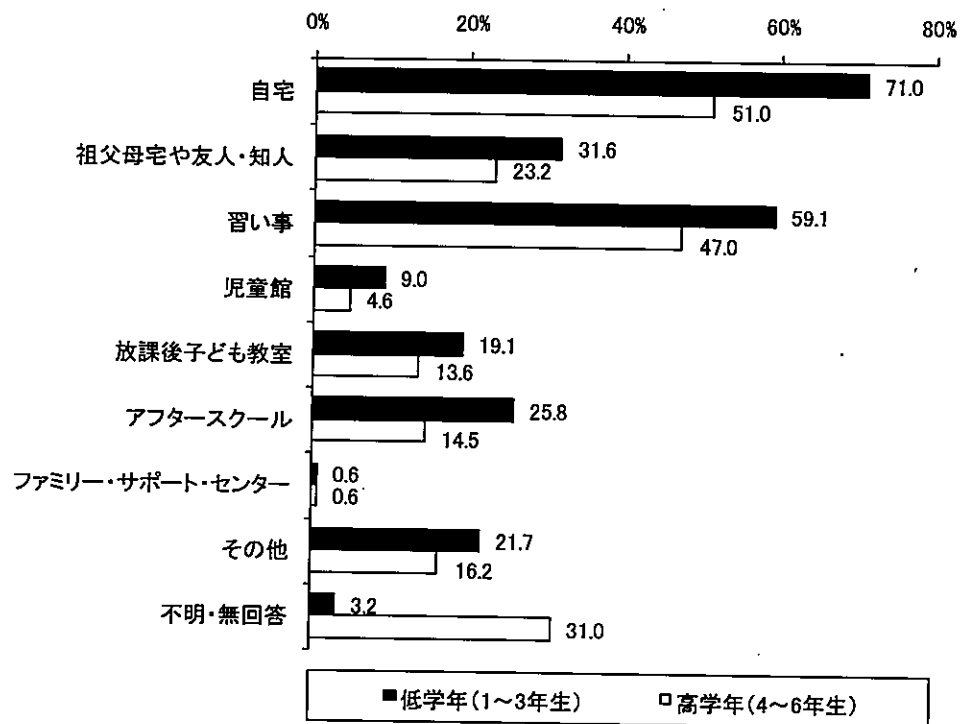
小学校就学後の放課後の過ごし方について

◎お子さんが5歳以上（来年度就学予定）の方

（1）小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を主にどのような場所で過ごさせたいと思うか〈複数回答〉〔就学前児童調査…問27〕

放課後の時間を過ごさせたいと思う場所についてみると、小学校低学年、小学校高学年ともに「自宅」が最も高く、それぞれ71.0%と51.0%となっています。次いで「習い事」が、それぞれ59.1%、47.0%となっています

就学前児童(N=345)



週あたりの利用希望日数については、小学校低学年では『自宅』『アフタースクール』で「5日」の割合が最も高くなっています。小学校高学年では『自宅』『放課後子ども教室』『アフタースクール』で「5日」の割合が最も高くなっています。

また、『アフタースクール』を選んだ方の利用希望時間では、小学校低学年では「18時」が44.9%、小学校高学年では「17時」が38.0%と最も高くなっています。

①週あたりの利用希望日数〈数量回答〉

◎小学校低学年

【就学前児童】 小学校低学年 週あたりの 利用希望日数	自宅		人祖 ・父 知母 人宅 宅友		なク教習 どラ室い （ブ、サ ）ピ 学ア 習カ 塾ノ		児 童 館		室放 課後 子ど も教		ルア フタ ー スク ー		ポファミ ート セン ター		館そ 、の 公他 園（ 公民 など	
	N=245		N=109		N=204		N=31		N=66		N=89		N=2		N=75	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	24	9.8	39	35.8	60	29.4	16	51.6	19	28.8	4	4.5	1	50.0	22	29.3
2日	43	17.6	40	36.7	88	43.1	7	22.6	10	15.2	4	4.5	1	50.0	18	24.0
3日	35	14.3	6	5.5	45	22.1	4	12.9	9	13.6	10	11.2	0	0.0	19	25.3
4日	18	7.3	2	1.8	6	2.9	0	0.0	12	18.2	9	10.1	0	0.0	0	0.0
5日	108	44.1	14	12.8	0	0.0	1	3.2	15	22.7	61	68.5	0	0.0	10	13.3
6日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	17	6.9	8	7.3	5	2.5	3	9.7	1	1.5	1	1.1	0	0.0	6	8.0

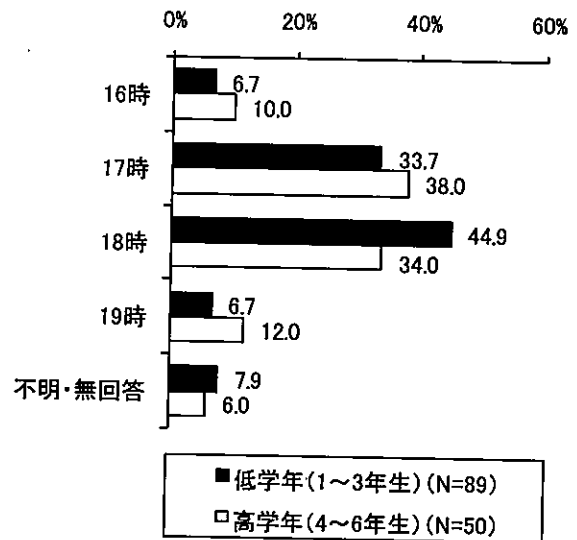
◎小学校高学年

【就学前児童】 小学校高学年 週あたりの 利用希望日数	自宅		人祖 ・父 知母 人宅 宅友		なク教習 どラ室い （ブ、サ ）ピ 学ア 習カ 塾ノ		児 童 館		室放 課後 子ど も教		ルア フタ ー スク ー		ポファミ ート セン ター		館そ 、の 公他 園（ 公民 など	
	N=176		N=80		N=162		N=16		N=47		N=50		N=2		N=56	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	29	16.5	26	32.5	21	13.0	8	50.0	11	23.4	1	2.0	1	50.0	17	30.4
2日	34	19.3	29	36.3	64	39.5	4	25.0	12	25.5	2	4.0	1	50.0	16	28.6
3日	25	14.2	11	13.8	54	33.3	3	18.8	8	17.0	10	20.0	0	0.0	10	17.9
4日	6	3.4	3	3.8	18	11.1	0	0.0	4	8.5	4	8.0	0	0.0	2	3.6
5日	73	41.5	8	10.0	1	0.6	1	6.3	12	25.5	32	64.0	0	0.0	9	16.1
6日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	9	5.1	3	3.8	4	2.5	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	2	3.6

②「アフタースクール」の利用希望時間

(下校時から何時まで)〈数量回答〉

《「アフタースクール」を選んだ方》

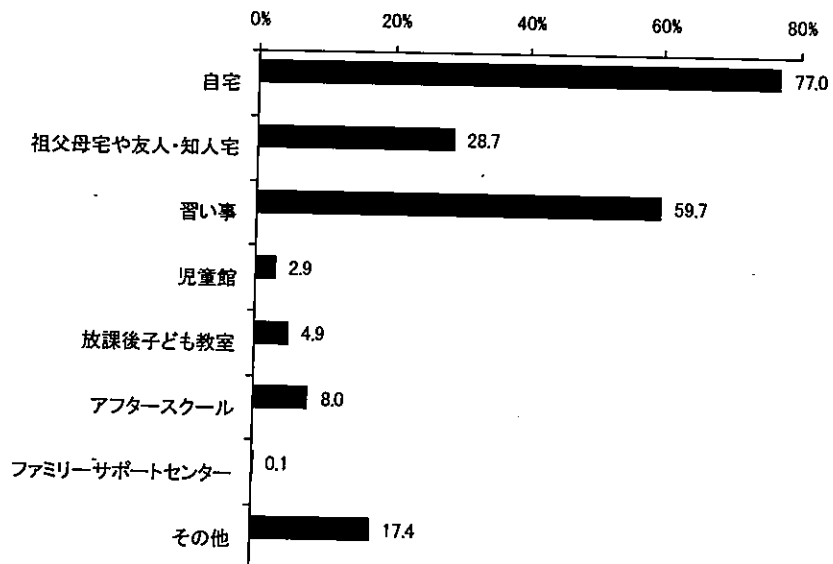


(2) お子さんの、放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方〈複数回答〉

[小学生児童調査…問 14]

放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方についてみると、「自宅」が77.0%と最も高く、次いで「習い事」が59.7%となっています。

小学生児童(N=456)



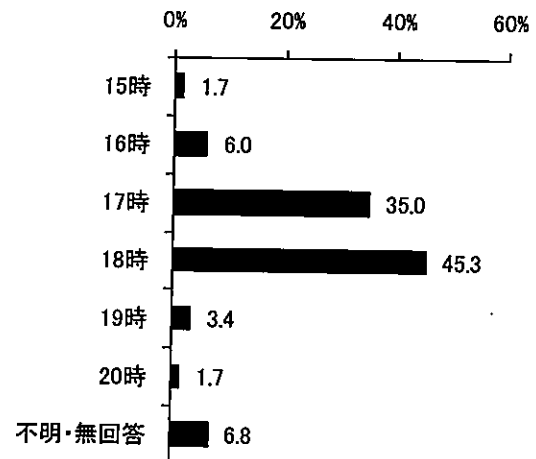
週あたりの利用日数については、『ファミリーサポートセンター』で「6日」の割合が最も高くなっています。また、『アフタースクール』を選んだ方の利用時間では、「18時」が45.3%と最も高くなっています。

①週あたりの利用日数〈数量回答〉

【小学生児童】 週あたりの 利用日数	自宅 N=1,130		人祖 ・父 ・母 ・知 ・人 ・宅 ・友 宅 N=421		なク教習 どラ室い （ブ、事 、サへ 学ッピ 習カア 塾！ノ N=876		児 童 館 N=42		室放 課後 子ど も教 N=72		ルア フタ ー ス ク ー N=117		ポ ー ト セ ン タ ー N=1		館そ 、の 他 （公 民 等 ） N=256	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	103	9.1	136	32.3	209	23.9	21	50	14	19.4	2	1.7	0	0.0	71
2日	183	16.2	132	31.4	264	30.1	4	9.5	14	19.4	3	2.6	0	0.0	80	31.3
3日	180	15.9	44	10.5	218	24.9	4	9.5	23	31.9	18	15.4	0	0.0	43	16.8
4日	122	10.8	29	6.9	100	11.4	4	9.5	13	18.1	16	13.7	0	0.0	27	10.5
5日	340	30.1	54	12.8	51	5.8	3	7.1	5	6.9	71	60.7	0	0.0	22	8.6
6日	26	2.3	6	1.4	15	1.7	0	0.0	0	0.0	3	2.6	1	100.0	1	0.4
7日	106	9.4	8	1.9	6	0.7	2	4.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	1.6
不明・無回答	70	6.2	12	2.9	13	1.5	4	9.5	3	4.2	4	3.4	0	0.0	8	3.1

②「アフタースクール」の利用希望時間
（下校時から何時まで）〈数量回答〉
《「アフタースクール」を選んだ方》

小学生児童(N=117)

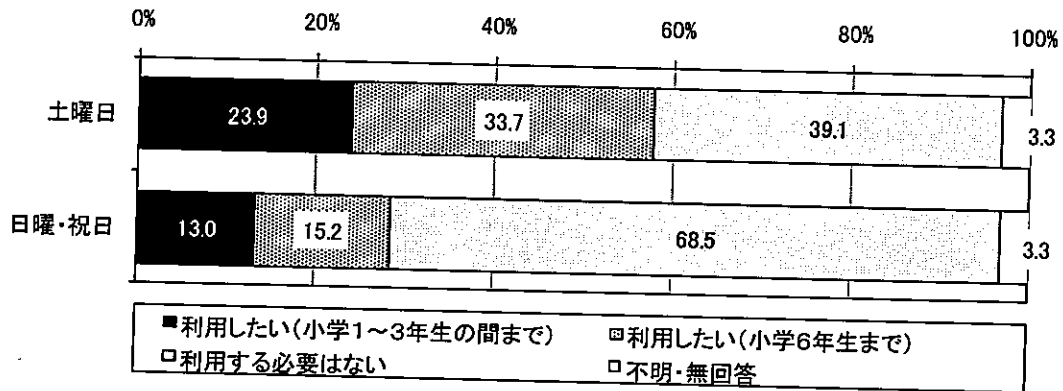


(1)、(2)で「アフタースクール」を選んだ方
 (3) 土曜日と日曜日・祝日のアフタースクールの利用希望〈単数回答〉

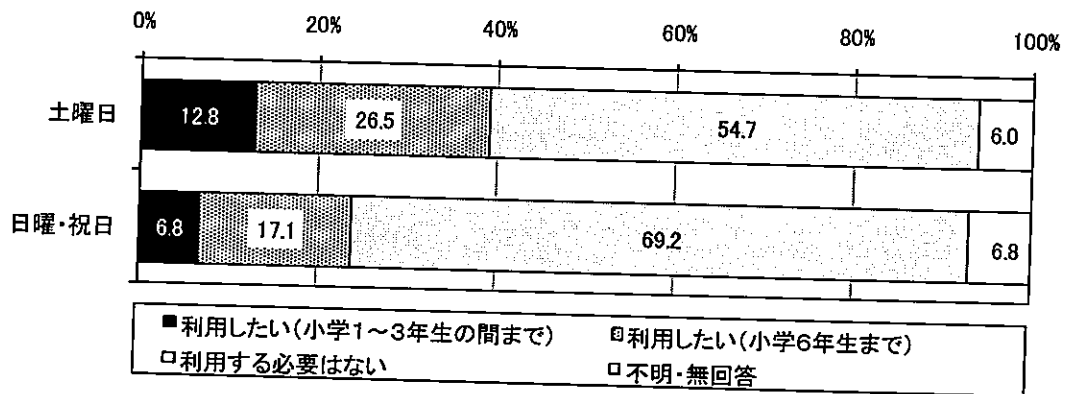
〔就学前児童調査…問 27-1、小学生児童調査…問 14-1〕

土曜日と日曜日・祝日のアフタースクールの利用希望についてみると、就学前児童、小学生児童ともに、土曜日と日曜日・祝日では「利用する必要はない」が最も高くなっています。

就学前児童(N=92)



小学生児童(N=117)

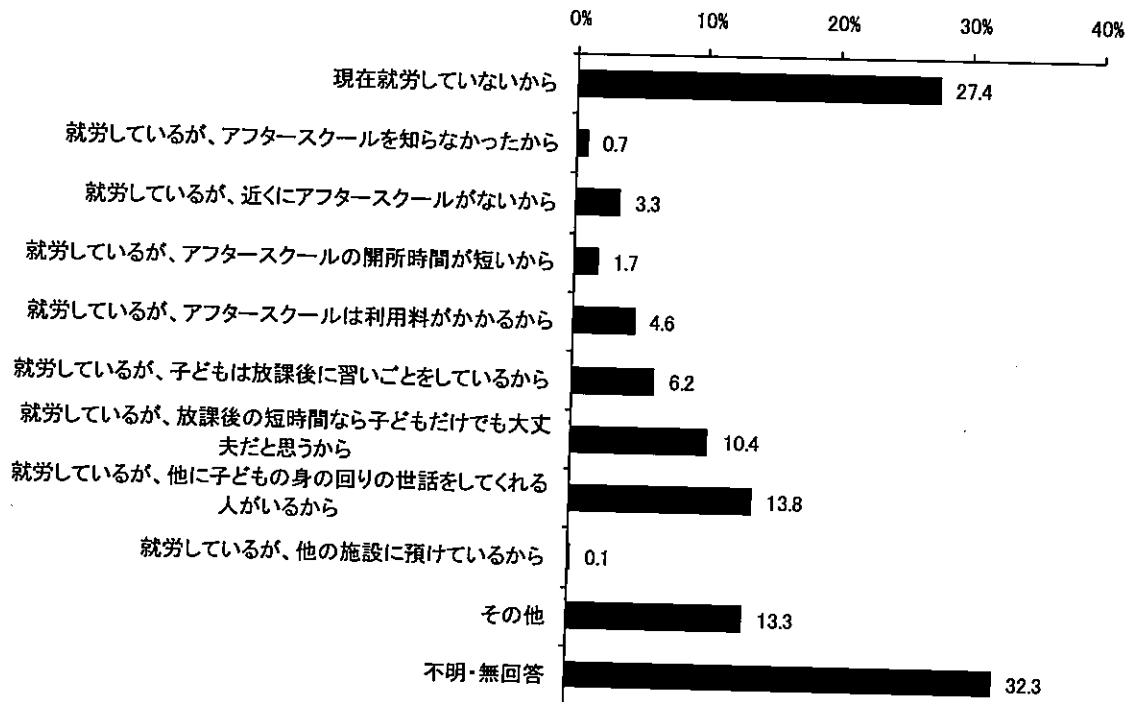


(1)、(2)で「アフタースクール」以外を選んだ方

(4) アフタースクールを利用していない理由〔小学生児童調査…問 14-2〕

アフタースクールを利用していない理由についてみると、「現在就労していないから」が最も高くなっています。「利用したい」方の、希望する利用時間帯については、土曜日、日曜日・祝日ともに、開始時間は「8時」、終了時間は「18時」の割合が、それぞれ最も高くなっています。

小学生児童(N=1,351)



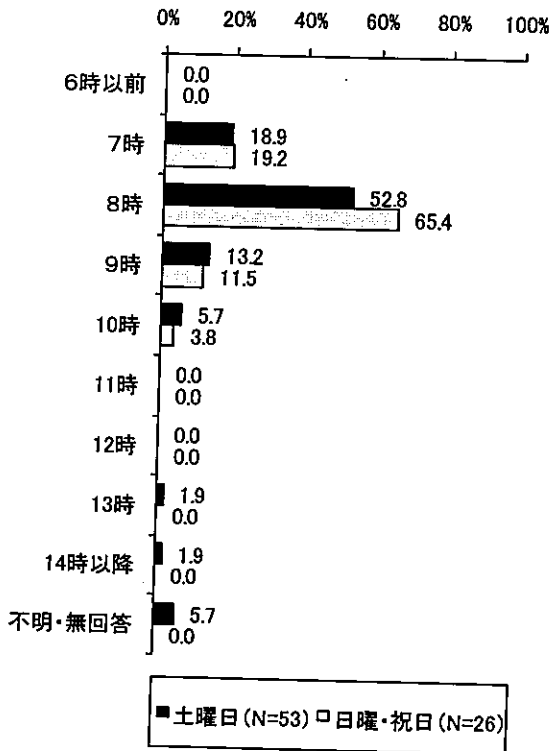
*事業の利用には、一定の利用料がかかる

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

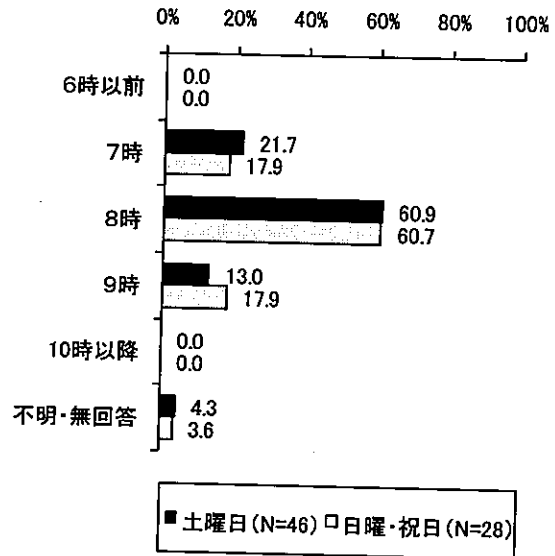
《「利用したい（小学校1～3年生の間まで）」「利用したい（小学校6年生まで）」を選んだ方

【開始時間】

就学前児童

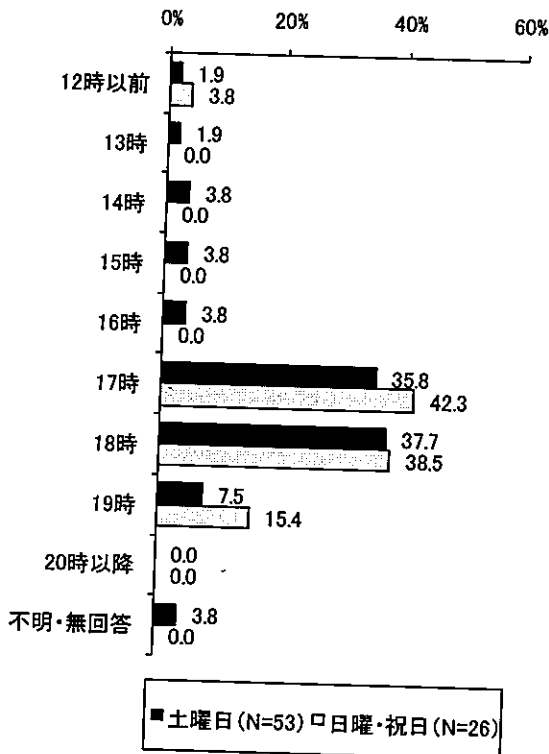


小学生児童

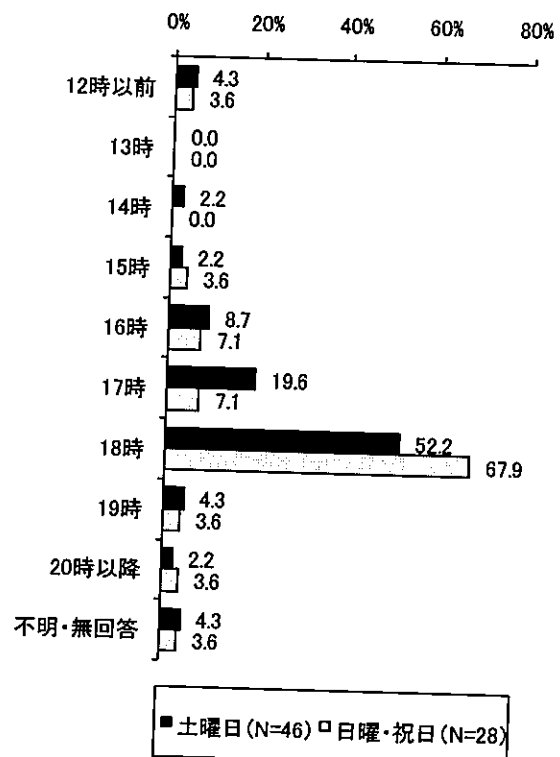


【終了時間】

就学前児童



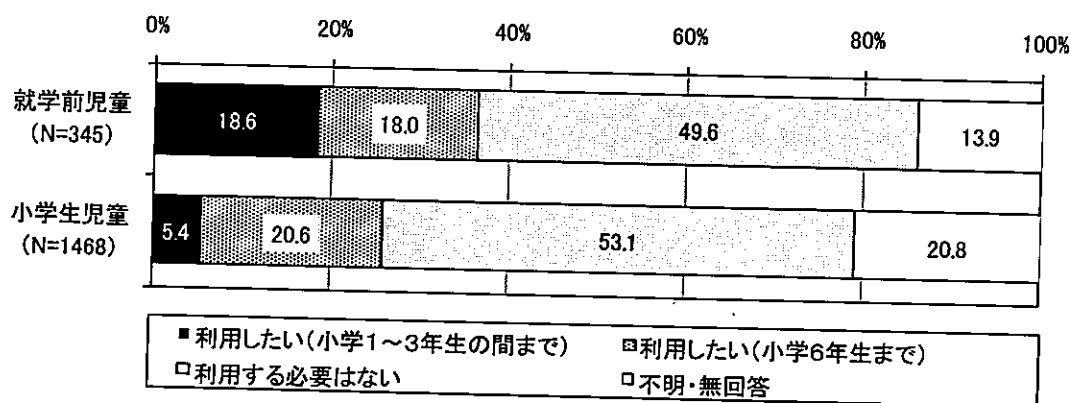
小学生児童



(4) 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中のアフタースクールの利用希望〈単数回答〉 〔就学前児童調査…問 28、小学生児童調査…問 15〕

長期の休暇期間中のアフタースクールの利用希望についてみると、就学前児童、小学生児童ともに、「利用する必要はない」が最も高く、それぞれ49.6%、53.1%となっています。

希望する利用時間帯について、開始時間では、就学前児童、小学生児童ともに「8時」、終了時間では就学前児童で「17時」、小学生児童で「18時」の割合が、それぞれ最も高くなっています。



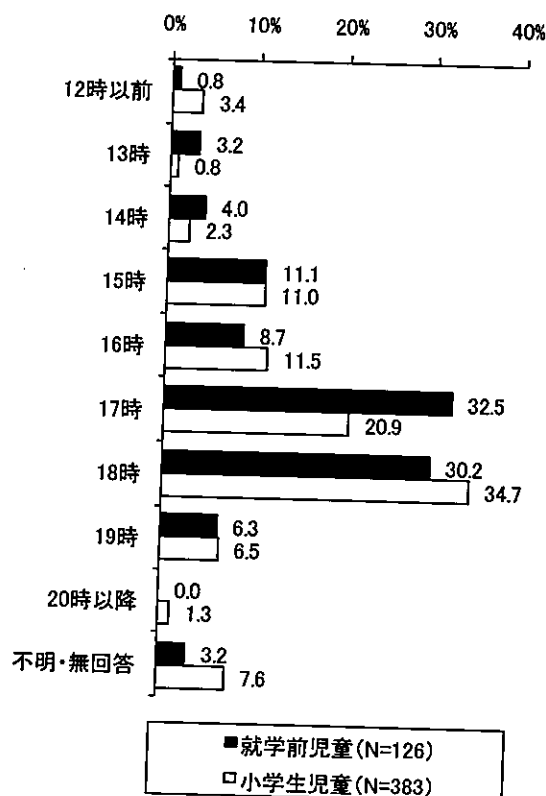
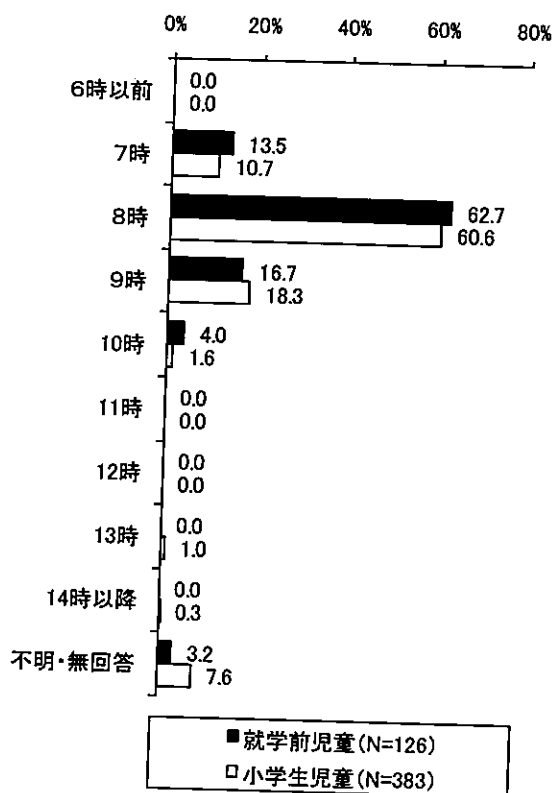
*事業の利用には、一定の利用料がかかる

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

《「利用したい(小学校1～3年生の間まで)」 「利用したい(小学校6年生まで)」を選んだ方》

【開始時間】

【終了時間】

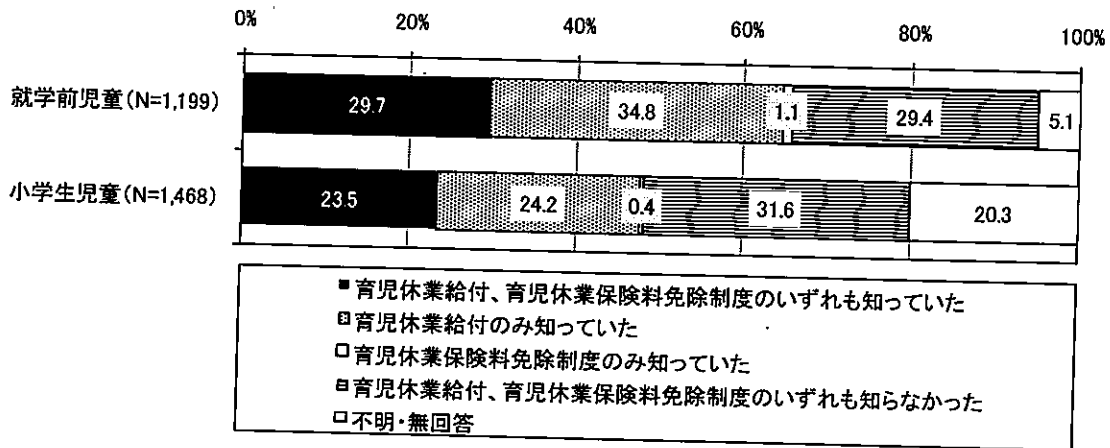


育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

(1) 育児休業給付や育児休業保険料免除制度の認知度〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 29、小学生児童調査…問 19〕

育児休業給付や育児休業保険料免除制度の認知度についてみると、就学前児童では「育児休業給付のみ知っていた」が34.8%と最も高くなっています。また、小学生児童では「育児休業給付、育児休業保険料免除制度のいずれも知らなかった」が31.6%となっています。

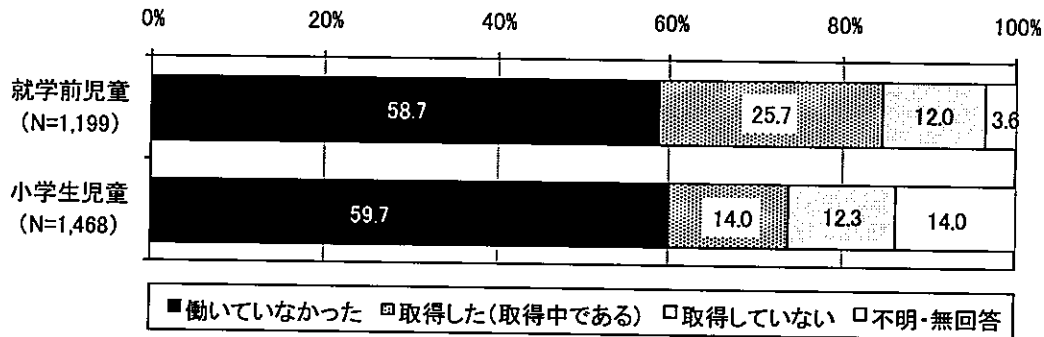


(2) 子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況〈単数回答〉

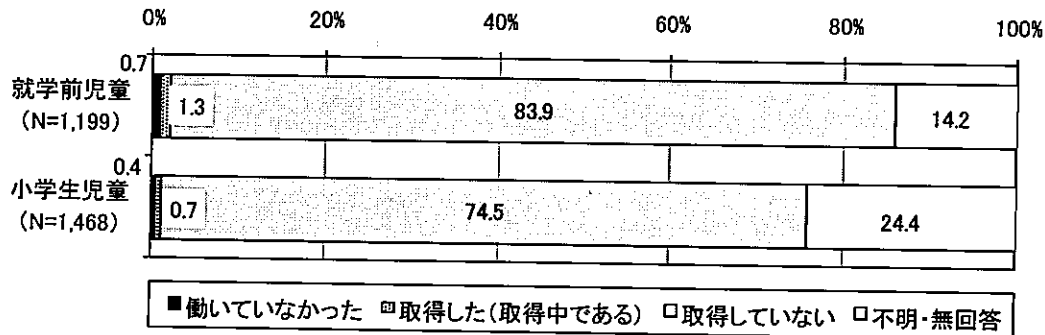
[就学前児童調査…問 30、小学生児童調査…問 20]

子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況についてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「働いていなかった」が最も高く、それぞれ58.7%、59.7%となっています。父親では、就学前児童、小学生児童ともに「取得していない」が最も高く、それぞれ83.9%、74.5%となっています。また、母親の「取得した(取得中である)」が就学前児童で25.7%、小学生児童で14.0%となっています。父親では就学前児童で1.3%、小学生児童で0.7%となっています。

【母親】

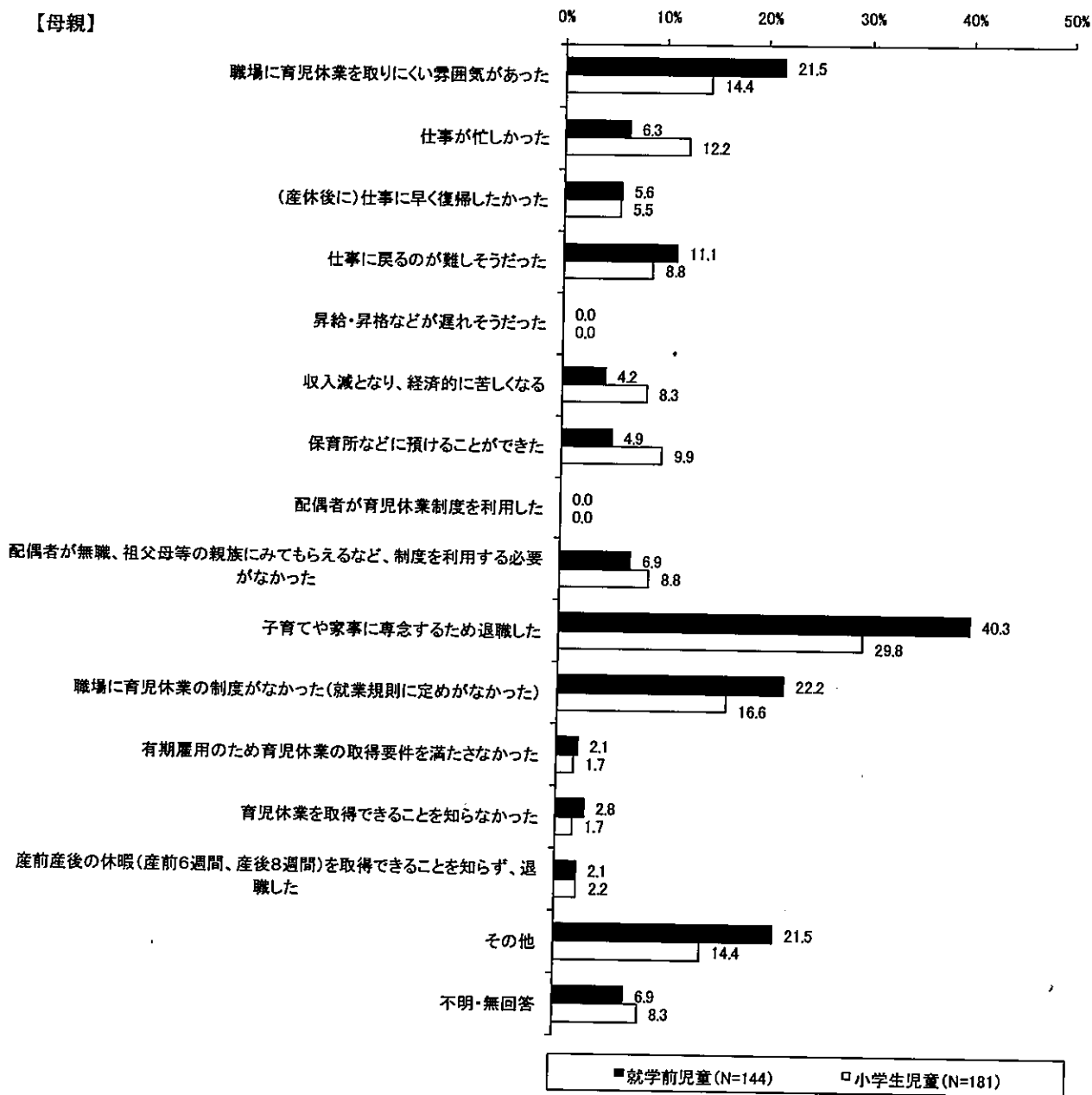


【父親】

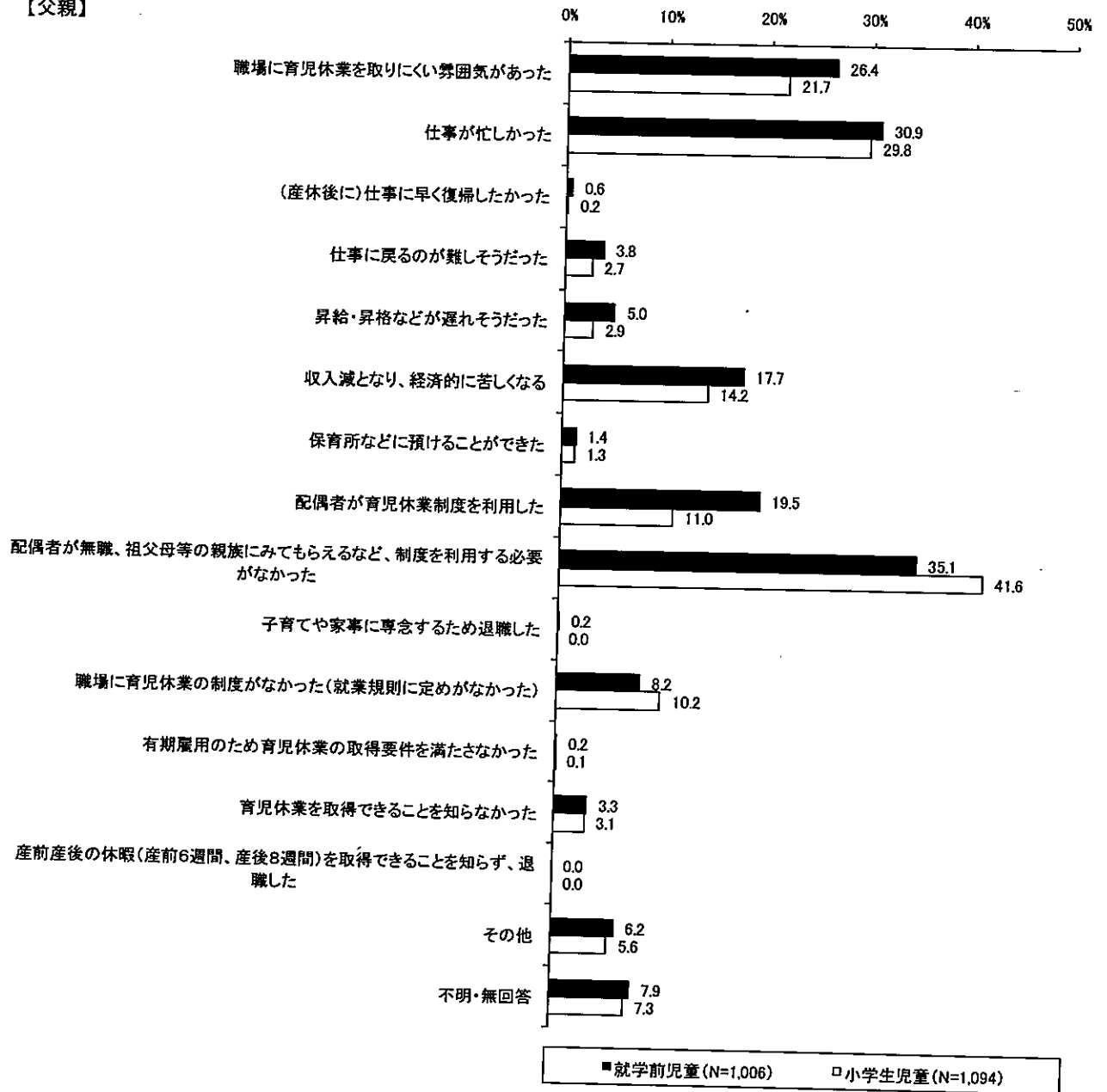


育児休業を取得していない理由については、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が就学前児童、小学生児童ともに最も高く、それぞれ40.3%、29.8%となっています。父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が就学前児童、小学生児童ともに最も高く、それぞれ35.1%、41.6%となっています。また、母親では「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が就学前児童で22.2%、小学生児童で16.6%となっています。

◎取得していない理由〈複数回答〉《「取得していない」を選んだ方》



【父親】



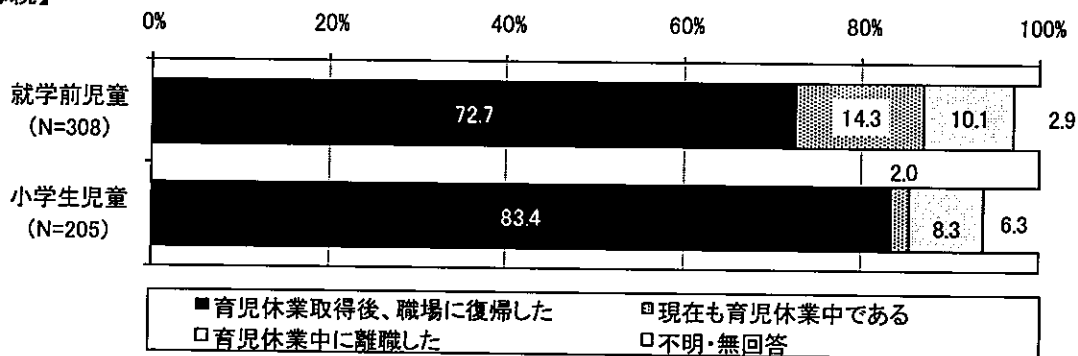
(2)で「取得した(取得中である)」を選んだ方

(2) - 1 育児休業取得後、職場に復帰したか〈単数回答〉

[就学前児童調査…問 30-1、小学生児童調査…問 20-1]

育児休業取得後、職場に復帰したかについてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も高く、それぞれ72.7%、83.4%となっています。父親についても、就学前児童、小学生児童ともに「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も高く、それぞれ73.3%、70.0%となっています。

【母親】



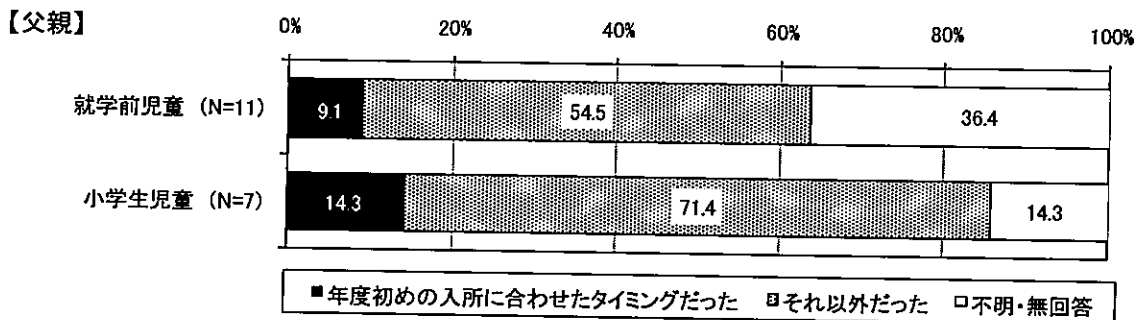
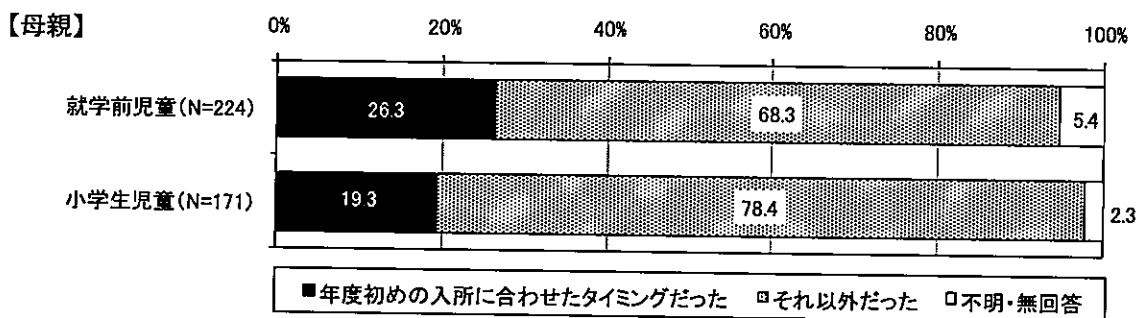
【父親】	就学前児童 N=15		小学生児童 N=10	
	件数	%	件数	%
育児休業取得後、職場に復帰した	11	73.3	7	70.0
現在も育児休業中である	0	0.0	0	0.0
育児休業中に離職した	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	4	26.7	3	30.0

(2) - 1で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方

(2) - 2 職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングか

〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 30-2、小学生児童調査…問 20-2〕

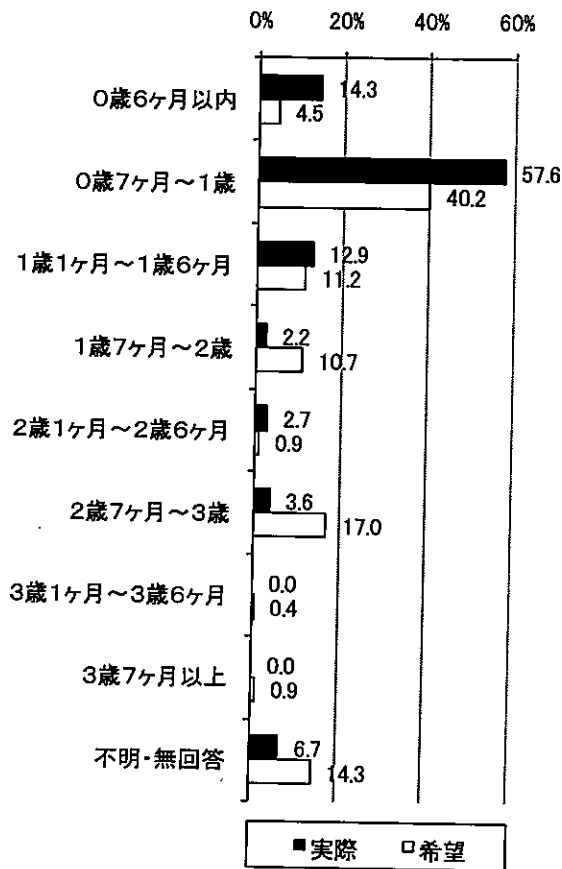
職場復帰の時期が、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングかについてみると、母親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が就学前児童で26.3%、小学生児童で19.3%、「それ以外だった」が就学前児童で68.3%、小学生児童で78.4%となっています。父親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が就学前児童で9.1%、小学生児童で14.3%、「それ以外だった」が就学前児童で54.5%、小学生児童では71.4%となっています。



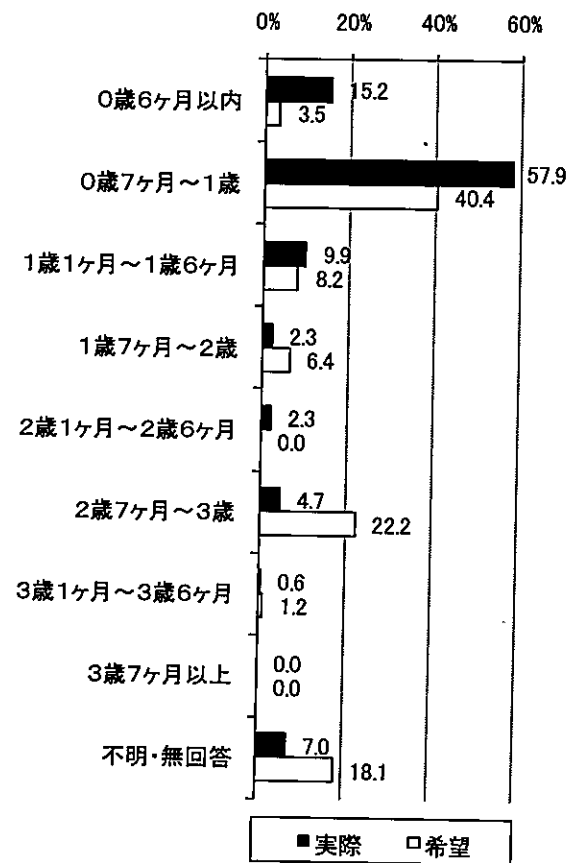
(2) - 3 育児休業からは、「実際」に子どもが何歳何ヶ月のときに職場復帰したか。
 また、勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取得した
 かったか〈数量回答〉〔就学前児童調査…問 30-3、小学生児童調査…問 20-3〕

職場復帰した時期の実際と希望についてみると、就学前児童の母親では、『実際』『希望』ともに「0歳7ヶ月～1歳」が最も高く、それぞれ57.6%、40.2%となっています。小学生児童の母親でも、『実際』『希望』ともに「0歳7ヶ月～1歳」が最も高く、それぞれ57.9%、40.4%となっています。また、父親では、『実際』『希望』ともに「0歳6ヶ月以内」が、それぞれ最も高くなっています。

【就学前児童・母親】(N=224)



【小学生児童・母親】(N=171)



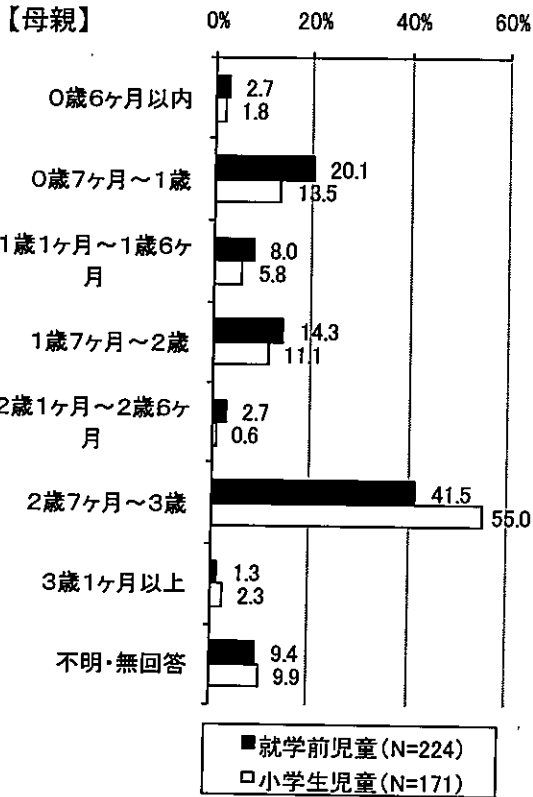
【就学前児童・父親】 育児休業の取得期間 (N=11)	実際		希望	
	件数	%	件数	%
0歳6ヶ月以内	6	54.5	3	27.3
0歳7ヶ月～1歳	0	0.0	1	9.1
1歳1ヶ月～1歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
1歳7ヶ月～2歳	0	0.0	0	0.0
2歳1ヶ月～2歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
2歳7ヶ月～3歳	0	0.0	0	0.0
3歳1ヶ月～3歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
3歳7ヶ月以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	5	45.5	7	63.6

【小学生児童・父親】 育児休業の取得期間 (N=7)	実際		希望	
	件数	%	件数	%
0歳6ヶ月以内	3	42.9	1	14.3
0歳7ヶ月～1歳	1	14.3	0	0.0
1歳1ヶ月～1歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
1歳7ヶ月～2歳	0	0.0	0	0.0
2歳1ヶ月～2歳6ヶ月	0	0.0	1	14.3
2歳7ヶ月～3歳	0	0.0	0	0.0
3歳1ヶ月～3歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
3歳7ヶ月以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	3	42.9	5	71.4

(2) - 4 職場に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」として子どもが何歳何ヶ月のときまで取得したかったか〈数量回答〉

[就学前児童調査…問 30-4、小学生児童調査…問 20-4]

職場に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合に、子どもが何歳何ヶ月のときまで取得したかったかについてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「2歳7ヶ月～3歳」が最も高く、それぞれ41.5%、55.0%となっています。また、父親では就学前児童、小学生児童ともに「0歳6ヶ月以内」が、それぞれ最も高くなっています。



【父親】	就学前児童 (N=11)		小学生児童 (N=7)	
	件数	%	件数	%
0歳6ヶ月以内	5	45.5	3	42.9
0歳7ヶ月～1歳	0	0.0	1	14.3
1歳1ヶ月～1歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
1歳7ヶ月～2歳	0	0.0	0	0.0
2歳1ヶ月～2歳6ヶ月	1	9.1	0	0.0
2歳7ヶ月～3歳	0	0.0	1	14.3
3歳1ヶ月以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	5	45.5	2	28.6

(2) - 3で実際の復帰と希望が異なる方

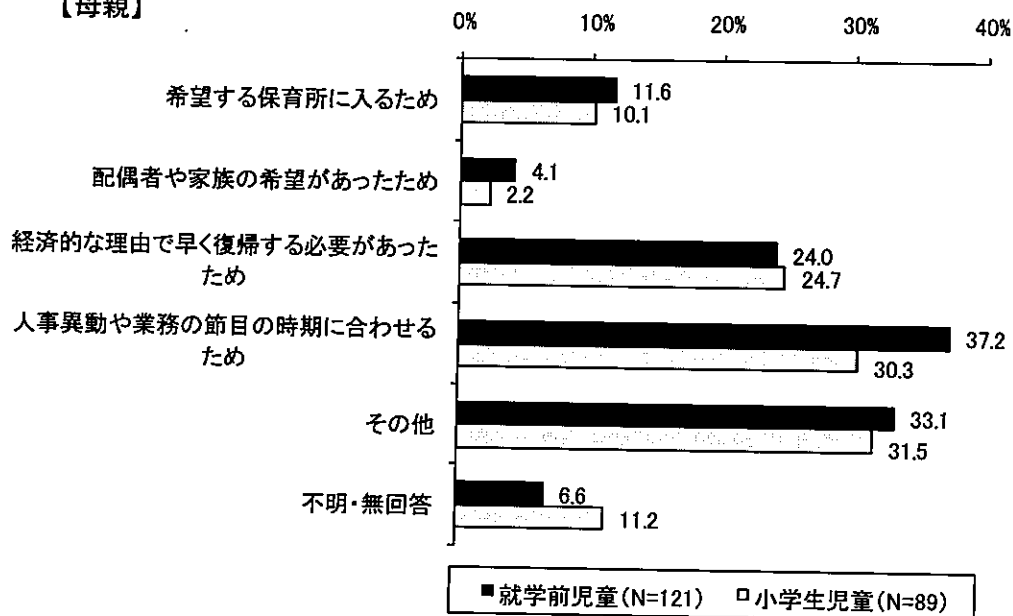
(2) - 5 希望の時期に職場復帰しなかった理由〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 30-5、小学生児童調査…問 20-5〕

育児休業期間の実際と希望が異なる方の、希望の時期に職場復帰しなかった理由についてみると、『希望』より早く復帰した方では、就学前児童の母親については、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が最も高く、37.2%となっています。小学生児童の母親については、「その他」が31.5%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が30.3%となっています。『希望』より遅く復帰した方では「希望する保育所に入れなかったため」が最も高くなっています。

① 「希望」より早く復帰した方

【母親】



「希望」より早く復帰した方【父親】	就学前児童 (N=2)		小学生児童 (N=2)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入るため	0	0.0	0	0
配偶者や家族の希望があったため	0	0.0	0	0
経済的な理由で早く復帰する必要があるため	1	50.0	0	0
人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	0	0	0	0
その他	1	50.0	1	50
不明・無回答	0	0.0	1	50

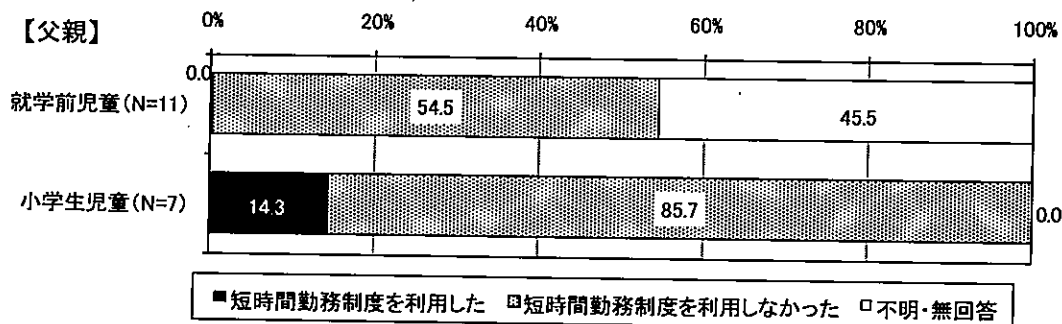
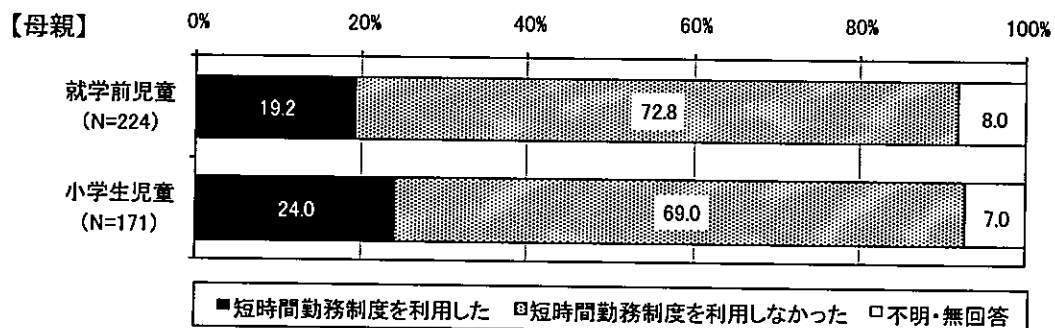
② 「希望」より遅く復帰した方

「希望」より遅く復帰した方【母親】	就学前児童 (N=9)		小学生児童 (N=6)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入れなかったため	4	44.4	1	16.7
自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため	1	11.1	0	0.0
配偶者や家族の希望があったため	2	22.2	0	0.0
職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	2	22.2	0	0.0
子どもをみてくれる人がいなかったため	1	11.1	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	5	83.3

(2) - 6 職場復帰時の短期勤務制度の利用状況〈単数回答〉

[就学前児童調査…問 30-6、小学生児童調査…問 20-6]

短期勤務制度の利用状況についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに、「短時間勤務制度を利用しなかった」が高く、それぞれ72.8%、69.0%となっています。父親でも就学前児童、小学生児童ともに、「短時間勤務制度を利用しなかった」が高くなっています。

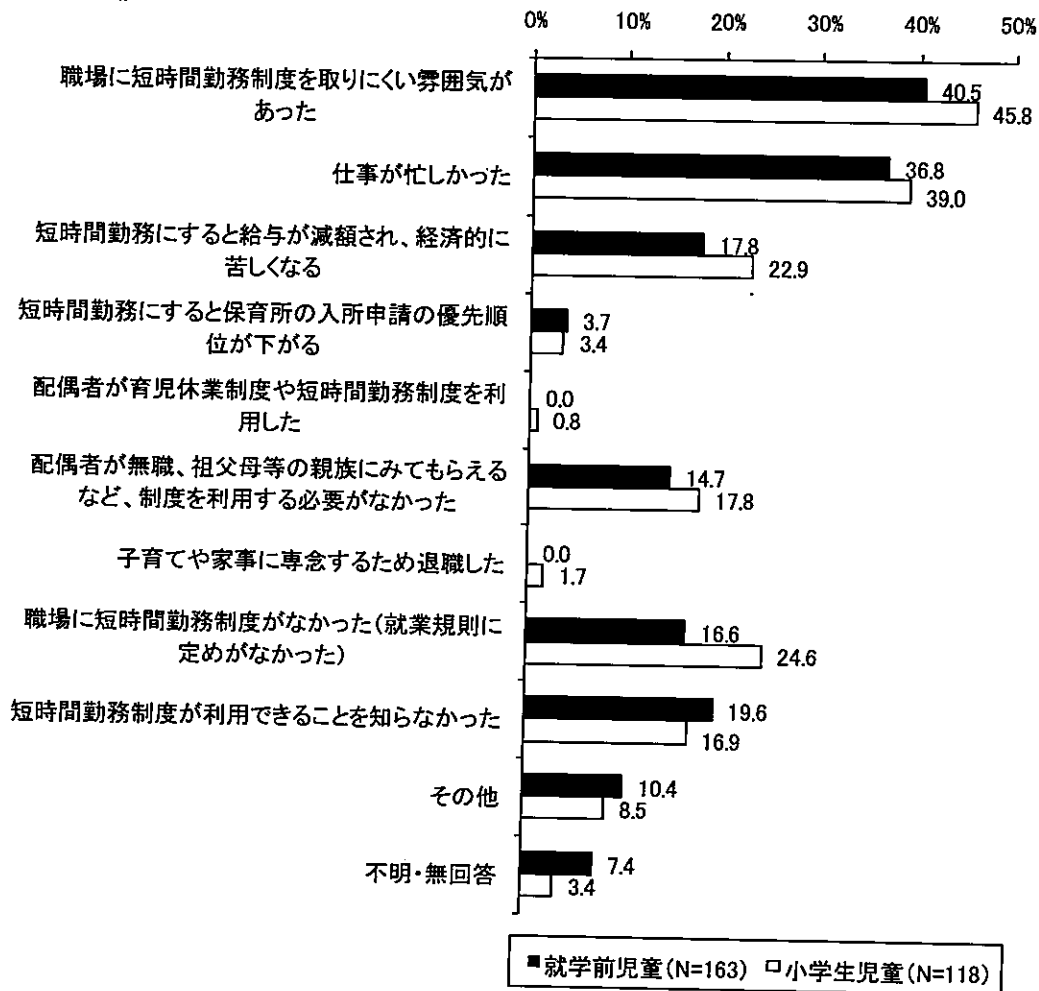


(2) - 6で「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」を選んだ方

(2) - 7 短時間勤務制度を利用しなかった理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 30-7、小学生児童調査…問 20-7〕

短期勤務制度を利用しなかった理由についてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が最も高く、それぞれ40.5%、45.8%となっています。また、就学前児童の父親では「仕事が忙しかった」、小学生児童の父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が高くなっています。

【母親】

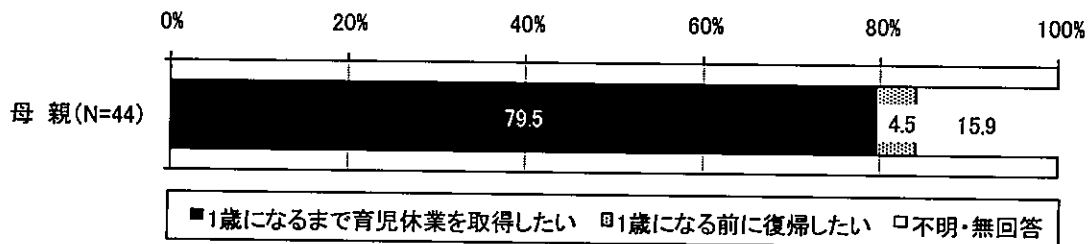


【父親】	就学前児童 (N=6)		小学生児童 (N=6)	
	件数	%	件数	%
職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった	0	0.0	1	16.7
仕事が忙しかった	3	50.0	2	33.3
短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる	1	16.7	0	0.0
短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる	0	0.0	0	0.0
配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した	0	0.0	1	16.7
配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった	2	33.3	3	50.0
子育てや家事に専念するため退職した	0	0.0	0	0.0
職場に短時間勤務制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	1	16.7	0	0.0
短時間勤務制度が利用できることを知らなかった	1	16.7	1	16.7
その他	1	16.7	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0

(2) - 1で「現在も育児休業中である」を選んだ方

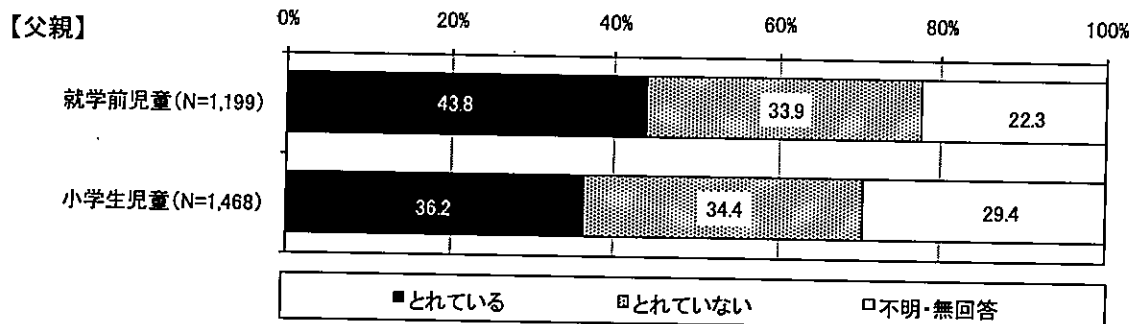
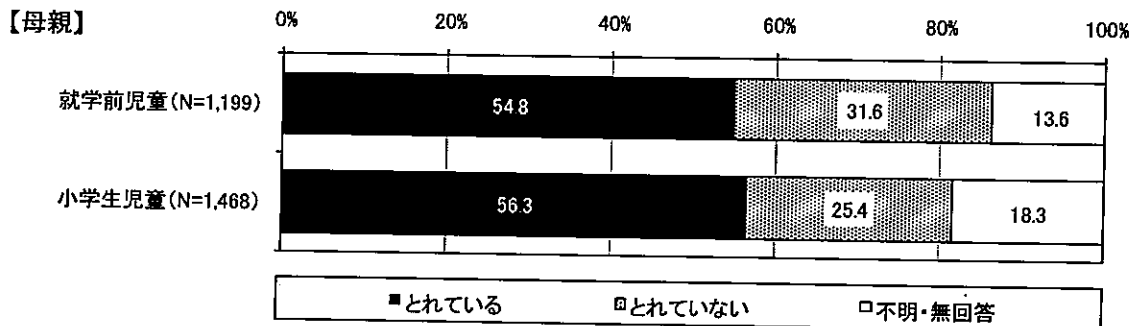
(2) - 8 子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問30-8〕

現在も育児休業中の方で、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかについてみると、母親では「1歳になるまで育児休業を取得したい」が79.5%と約8割を占めています。



(3) 子どもと一緒に過ごす時間や親の介護、自己実現のための時間が十分にとれているか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問31、小学生児童調査…問21〕

子どもと一緒に過ごす時間や親の介護、自己実現のための時間が十分にとれているかについてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「とれている」が最も高く、それぞれ54.8%、56.3%となっています。



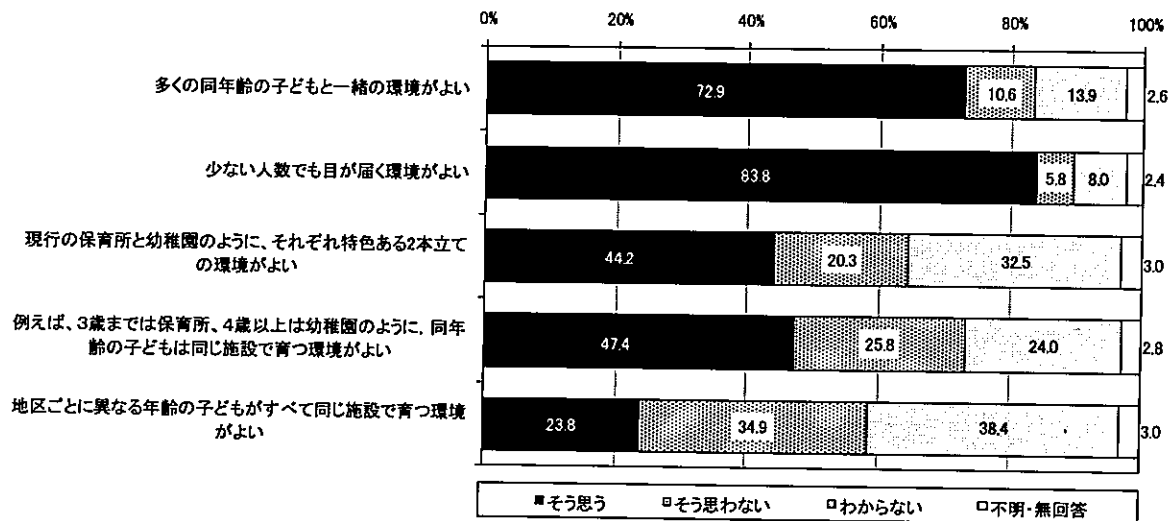
赤穂市での子育てや子育て支援サービスについて

(1) 赤穂市で教育・保育環境を整備していくときに重要だと思うこと〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 32〕

赤穂市で教育・保育環境を整備していくときに重要だと思うことについてみると、『そう思う』で、「少ない人数でも目が届く環境がよい」が83.8%と最も高くなっています。次いで「多くの同年齢の子どもと一緒に環境がよい」が72.9%となっています。

就学前児童(N=1,199)

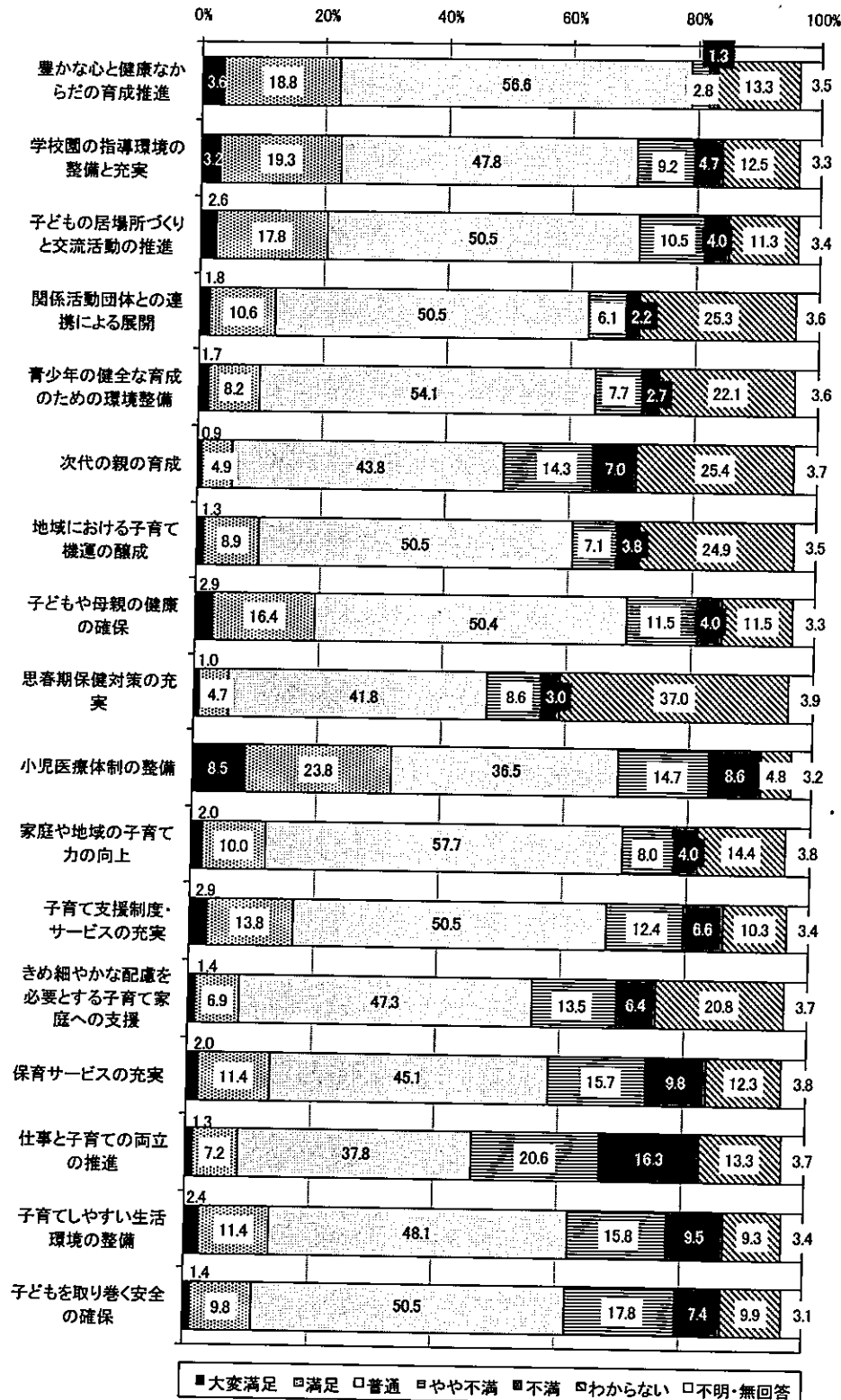


(2) 行政の取り組みに対する満足度〈単数回答〉

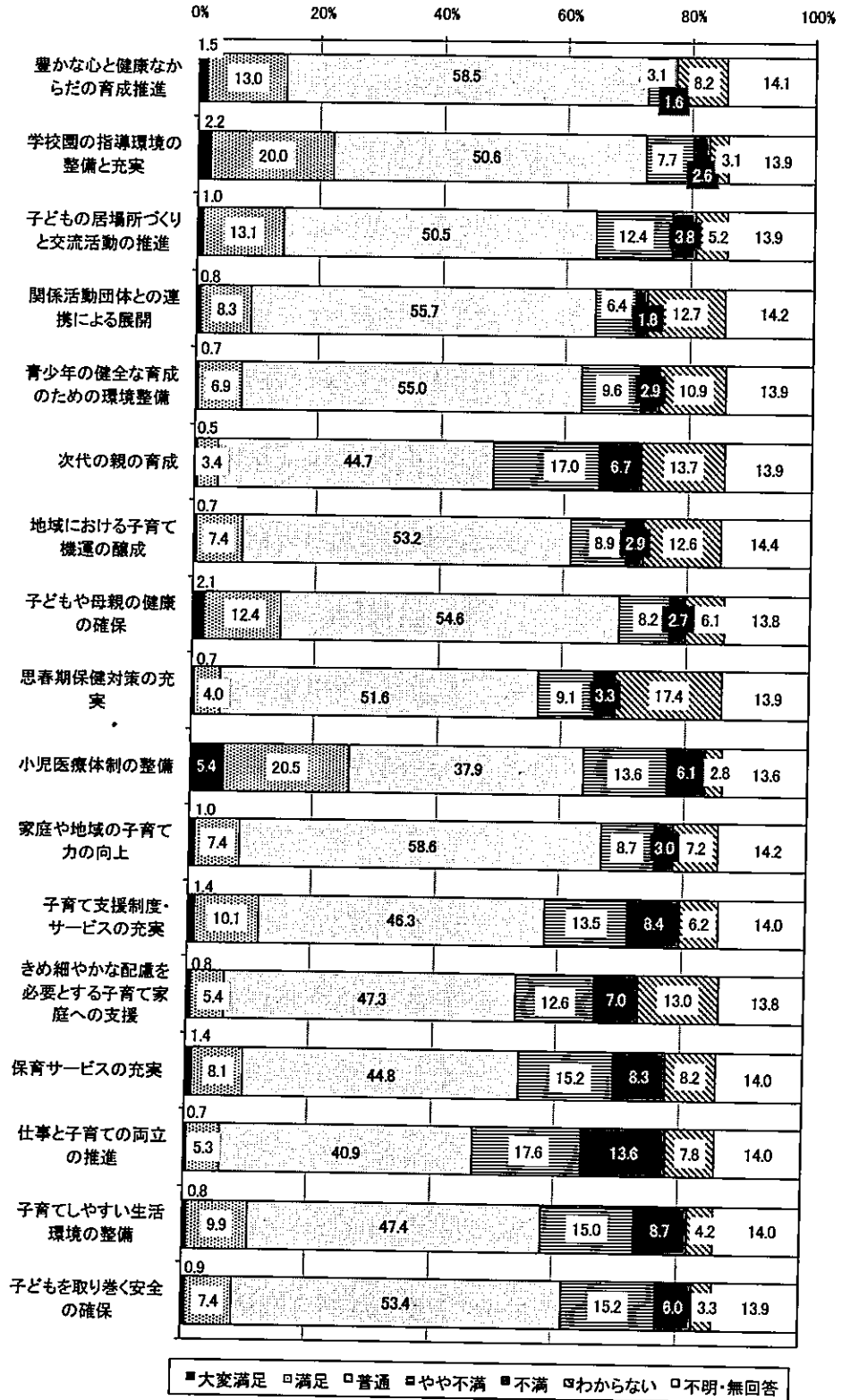
〔就学前児童調査…問 33、小学生児童調査…問 24〕

行政の取り組みに対する満足度についてみると、『大変満足』『満足』を合わせた『満足』で、就学前児童、小学生児童ともに「小児医療体制の整備」が最も高くなっています。次いで、「学校園の指導環境の整備と充実」が高くなっています。

就学前児童(N=1,199)



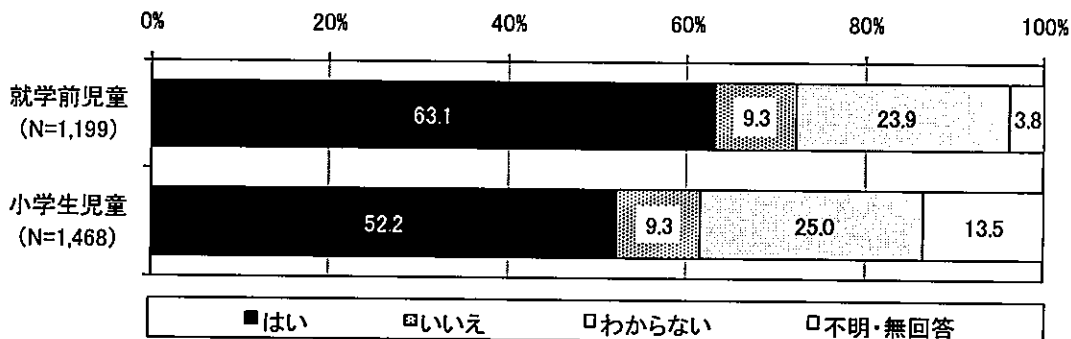
小学生児童(N=1468)



(3) 赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思うか〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 34、小学生児童調査…問 25〕

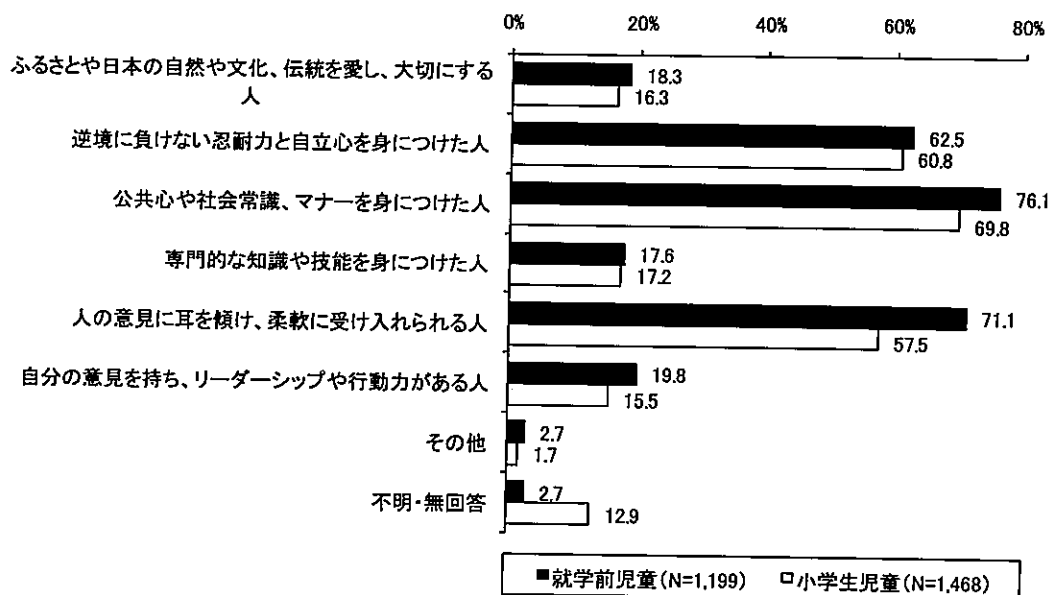
赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思うかについてみると、就学前児童、小学生児童ともに「はい」が最も高く、それぞれ63.1%、52.2%となっています。



(4) 将来、お子さんにどのような人に育ってほしいと思うか〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 35、小学生児童調査…問 26〕

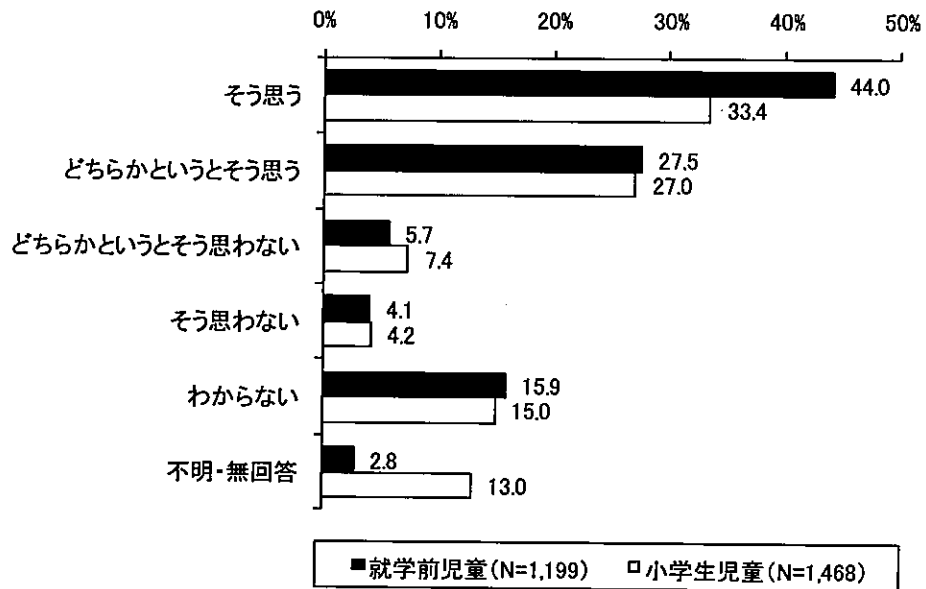
将来、お子さんにどのような人に育ってほしいと思うかについてみると、就学前児童、小学生児童ともに「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」が最も高く、それぞれ76.1%、69.8%となっています。次いで就学前児童では「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が71.1%、小学生児童では「逆境に負けない忍耐力と自立心を身につけた人」が60.8%となっています。



(5) これからもお子さんに赤穂市で育ってほしいと思うか〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 36、小学生児童調査…問 27〕

これからお子さんに赤穂市で育ててほしいと思うかについてみると、就学前児童、小学生児童ともに「そう思う」が最も高く、44.0%、33.4%となっています。



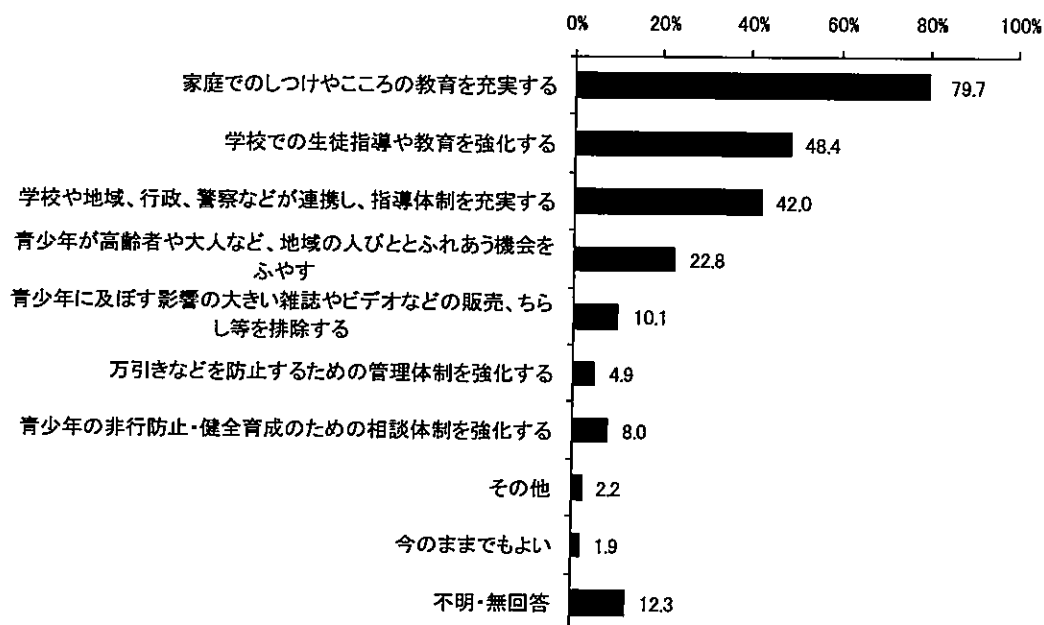
子どもの安全の確保について（小学生児童）

（１）子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思われること

〈複数回答〉〔小学生児童調査…問 22〕

子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思われることについてみると、「家庭でのしつけやこころの教育を充実する」が79.7%と最も高く、次いで「学校での生徒指導や教育を強化する」が48.4%となっています。

小学生児童(N=1,468)



(2) 子どもの安全を守るために、特に重要と思われること〈複数回答〉

〔小学生児童調査…問 23〕

子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思われることについてみると、「通学路や子どもの遊び場の安全対策」が48.0%と最も高く、次いで「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み」が39.4%となっています。

小学生児童(N=1,468)

